平成30年度

市原市内遺跡発掘調査報告

鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡（第３地点）

郡本遺跡群（第25次）

五霊台遺跡（第３地点）・椎津城跡

祭り野遺跡（第３地点）

能満分区遺跡群（上小貝塚地区第５地点）

南岩崎遺跡群（寺後地区）

海保供養塚群・海保大塚遺跡（第３地点）
（重要遺跡確認調査）

２０１９

市 原 市 教 育 委 員 会

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第46集

平成30年度

市原市内遺跡発掘調査報告

鬼子母神貝塚（きしぼじん）・姉崎台（あねさきだい）遺跡（第３地点）

郡本（こおりもと）遺跡群（第25次）

五霊台（ごりょうだい）遺跡（第３地点）・椎津（しいづ）城跡

祭り野（まつの）遺跡（第３地点）

能満分区（のうまんぶんく）遺跡群（上小貝塚（かみこ）地区第５地点）

南岩崎（みなみいわさき）遺跡群（寺後（てらのち）地区）

海保供養塚（かいほくようづか）群・海保大塚（かいほおおつか）遺跡（第３地点）
（重要遺跡確認調査）

２０１９

市 原 市 教 育 委 員 会

例　　言

1　本書は、国庫及び県費の補助を受けて、市原市教育委員会が主体となり実施した、市内に所在する遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査及び整理作業・報告書刊行は、市原市教育委員会生涯学習部ふるさと文化課埋蔵文化財調査センターが実施した。

3　本書所収の調査は以下のとおりである。所在地等の諸情報は巻末の報告書抄録に記載した。

（1）鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡（第３地点）（調査コード セ558）

確認調査19.25㎡／168.71㎡　本調査32㎡

調査期間：平成29年９月１日～９月５日（確認調査）　９月６日～15日（本調査）

担当　近藤　敏

（2）郡本遺跡群（第25次）（調査コード セ560）

確認調査126㎡／1,259㎡

調査期間：平成30年１月15日～ ２月１日　担当　小川浩一・中野喬介

（3）五霊台遺跡（第３地点）・椎津城跡（調査コード セ562）

確認調査33㎡／330㎡　本調査２㎡

調査期間：平成30年７月２日～ ７月11日（確認調査）　７月12日～７月13日（本調査）

担当　中野喬介・小川浩一・齊木　誠

（4）祭り野遺跡（第３地点）（調査コード セ563）

確認調査119.76㎡／1,198.5㎡

調査期間：平成30年８月27日～９月19日　担当　小川浩一・中野喬介・齊木　誠

（5）能満分区遺跡群（上小貝塚地区第５地点）（調査コード セ564）

確認調査48㎡／479.56㎡

調査期間：平成30年10月１日～10月19日　担当　中野喬介・齊木　誠

（6）南岩崎遺跡群（寺後地区）（調査コード セ566）

確認調査46㎡／458.91㎡

調査期間：平成30年11月12日～11月21日　担当　小川浩一

（7）海保供養塚群・海保大塚遺跡（第３地点）（重要遺跡確認調査）（調査コード セ556）

地中レーダ探査及び磁気探査（海保供養塚群）

実施期間：平成30年２月24日～ ２月25日　担当　小橋健司・中野喬介

4　整理作業・本文執筆は（1）・（4）を齊木、（2）・（3）・（5）を中野、（6）を小川が行い、編集は小橋が担当した。（1）鬼子母神貝塚の動物骨の種同定については上奈穂美氏（国立歴史民俗博物館）、（7）海保供養塚群を対象とする物理探査の現地作業・分析報告は、東京工業大学亀井研究室（亀井宏行教授・宮前知佐子氏・沖原高志氏・吉村藤子氏）各位の御協力を賜った。

5　各遺跡の調査に際し、基準点測量を実施したのは祭り野遺跡（第３地点）、海保供養塚群・海保大塚遺跡（第３地点）のみである。この他の遺跡の図中に示した座標値及び北方位は、地形図等から求めたもので、厳密なものではない。また、水準は遺跡近隣の市原市管理の既知点から求めて

使用している。なお、（4）を除き、座標値は世界測地系に基づきｍ単位で表示している。

6　鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡（第3地点）、郡本遺跡群（第25次）は、前年度終盤に調査したため、今年度の整理・報告の対象とした。また今年度は、上椎木遺跡（調査コード セ568）と瀬又小滝遺跡（調査コード セ569）の調査も実施したが、整理期間がとれないため次年度の報告とする。

7　遺物写真（図版5～8）の縮尺は基本的に実測図に準じ、例外は注記した。

本文目次

1　調査遺跡の位置と概要 ……………………………………………… 1
2　鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡（第３地点）……………………………… 3
3　郡本遺跡群（第 25 次）……………………………………………… 14
4　五霊台遺跡（第３地点）・椎津城跡 ………………………………… 21
5　祭り野遺跡（第３地点）……………………………………………… 25
6　能満分区遺跡群（上小貝塚地区第５地点） ……………………… 28
7　南岩崎遺跡群（寺後地区） ………………………………………… 32
8　海保供養塚群（海保大塚・三山塚）物理探査報告書 ……………… 35

挿図目次

第１図　調査遺跡位置図 ……………………………………………… 2
第２図　鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡（第３地点）周辺地形図 ……………… 4
第３図　鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡（第３地点）平面図（1）・断面図（1）……… 5
第４図　鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡（第３地点）平面図（2）・断面図（2）……… 6
第５図　鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡（第３地点）出土遺物 実測図（1） ……… 7
第６図　鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡（第３地点）出土遺物 実測図（2） ……… 8
第７図　鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡（第３地点）出土遺物 実測図（3） ……… 9
第８図　郡本遺跡群（第 25 次）周辺地形図 ……………………………… 15
第９図　郡本遺跡群（第 25 次）平面図 ………………………………… 16
第 10 図　郡本遺跡群（第 25 次）断面図（1）……………………………… 17
第 11 図　郡本遺跡群（第 25 次）断面図（2）……………………………… 18
第 12 図　郡本遺跡群（第 25 次）出土遺物 実測図（1）…………………… 19
第 13 図　郡本遺跡群（第 25 次）出土遺物 実測図（2）…………………… 20
第 14 図　五霊台遺跡（第３地点）・椎津城跡 周辺地形図 ………………… 21
第 15 図　五霊台遺跡（第３地点）・椎津城跡 平面図・断面図（1）………… 22
第 16 図　五霊台遺跡（第３地点）・椎津城跡 断面図（2） ………………… 23
第 17 図　五霊台遺跡（第３地点）・椎津城跡 出土遺物 実測図……………… 24
第 18 図　祭り野遺跡（第３地点）周辺地形図・平面図……………………… 26
第 19 図　祭り野遺跡（第３地点）断面図…………………………………… 27

第 20 図　能満分区遺跡群（上小貝塚地区第 5 地点）周辺地形図・平面図 ・・・・・・・・・・・・・・・29
第 21 図　能満分区遺跡群（上小貝塚地区第 5 地点）断面図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30
第 22 図　能満分区遺跡群（上小貝塚地区第 5 地点）出土遺物 実測図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・31
第 23 図　南岩崎遺跡群（寺後地区）周辺地形図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
第 24 図　南岩崎遺跡群（寺後地区）平面図・断面図・出土遺物 実測図・・・・・・・・・・・・・・・・34
第 25 図　探査領域 ・・・35
第 26 図　海保大塚墳頂部測線配置図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・35
第 27 図　北端から 0.5m のレーダプロファイル ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
第 28 図　北端から 3.5m のレーダプロファイル ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
第 29 図　海保大塚墳頂部 35ns のタイムスライス図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
第 30 図　海保大塚墳頂部 50ns のタイムスライス図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
第 31 図　②南側斜面レーダプロファイル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
第 32 図　西端から 7.5m のレーダプロファイル ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
第 33 図　③海保大塚南側斜面 80ns におけるタイムスライス図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・37
第 34 図　西端から 2.5m のレーダプロファイル ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
第 35 図　海保大塚墳頂部磁気探査結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
第 36 図　三山塚墳頂部磁気探査結果 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38

表 目 次

第 1 表　鬼子母神貝塚貝層サンプル 種名表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第 2 表　鬼子母神貝塚貝層サンプル 動物骨集計表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11
第 3 表　鬼子母神貝塚貝層サンプル 貝類集計表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12
第 4 表　鬼子母神貝塚貝層サンプル 魚類骨集計表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・13
第 5 表　出土遺物観察表 ・・・39

図 版 目 次

図版 1　遺構　鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡（第 3 地点）／ 郡本遺跡群（第 25 次）
図版 2　遺構　郡本遺跡群（第 25 次）／ 五霊台遺跡（第 3 地点）・椎津城跡
図版 3　遺構　祭り野遺跡（第 3 地点）／ 能満分区遺跡群（上小貝塚地区第 5 地点）
図版 4　遺構　能満分区遺跡群（上小貝塚地区第 5 地点）／ 南岩崎遺跡群（寺後地区）
図版 5　遺物　郡本遺跡群（第 25 次）／ 能満分区遺跡群（上小貝塚地区第 5 地点）／
鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡（第 3 地点）
図版 6　遺物　鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡（第 3 地点）／ 郡本遺跡群（第 25 次）
図版 7　遺物　郡本遺跡群（第 25 次）／ 五霊台遺跡（第 3 地点）・椎津城跡
図版 8　遺物　五霊台遺跡（第 3 地点）・椎津城跡 ／ 能満分区遺跡群（上小貝塚地区第 5 地点）／
南岩崎遺跡群（寺後地区）

1　調査遺跡の位置と概要

平成30年度は、五霊台遺跡（第３地点）・椎津城跡、祭り野遺跡（第３地点）、能満分区遺跡群（上小貝塚地区第５地点）、南岩崎遺跡群（寺後地区）、上椎木遺跡、瀬又小滝遺跡（第２地点）の６地点の発掘調査を行った。調査遺跡はいずれも市内北部に位置し、調査原因は個人住宅建設が５件、太陽光発電所変電設備設置が１件である。

本書では今年度に調査した４遺跡に加えて、平成29年度後半に調査した鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡（第３地点）、郡本遺跡群（第25次）と、海保供養塚群・海保大塚遺跡（第３地点）の調査に伴い実施した物理探査の成果について掲載した（第１図）。平成30年度後半以降調査の上椎木遺跡、瀬又小滝遺跡（第２地点）については来年度の対象とする。

鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡（第３地点）は、鬼子母神貝塚を対象とした初めての発掘調査で、縄文時代後期の貝層と土坑のほか、下層に縄文時代早期の炉穴が検出された。貝層を掘り込んだ土坑墓には遺存良好な人骨が伴い、形態的特徴から中世女性（壮年～熟年）と見られる。

郡本遺跡群（第25次）は、遺跡群の南部にあたり第21・23次調査地点に近接する。弥生時代後期、古墳時代前期、奈良・平安時代の竪穴建物跡の広がりが確認されたほか、中世の地下式坑と溝状遺構が検出されている。

五霊台遺跡（第３地点）・椎津城跡は、椎津城跡主郭南方約150mの平坦面を対象とした調査で、中世の大規模な造成痕跡が確認されたほか、弥生時代終末期、奈良・平安時代の竪穴建物跡が検出され、１次調査区からの遺構分布の連続性が認められた。

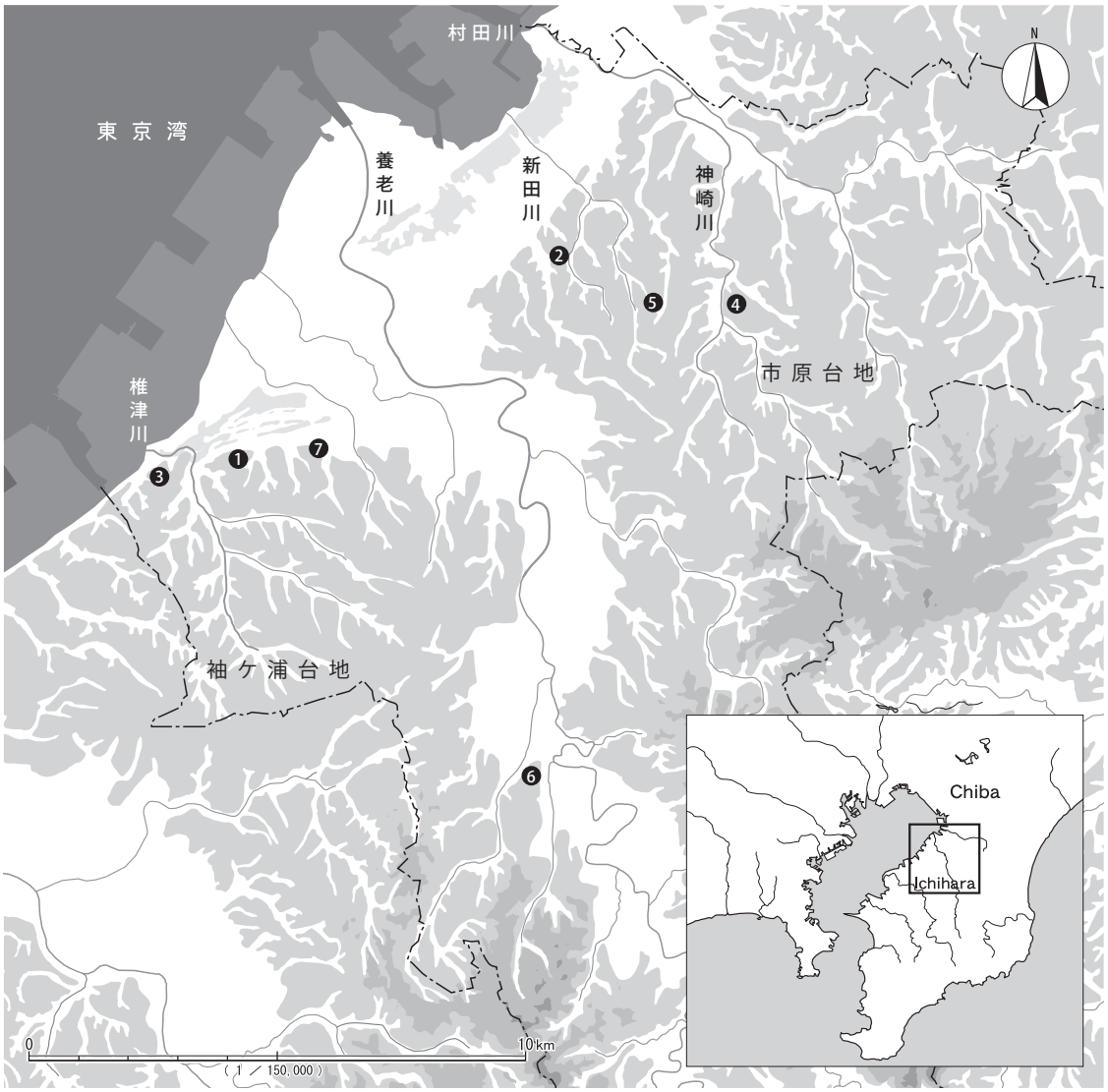
祭り野遺跡（第３地点）は、台地平坦面に展開する弥生時代後期から古墳時代前期の竪穴建物跡群を検出した。第１地点検出の弥生時代終末期竪穴建物跡と同一集落跡を構成すると見られる。

能満分区遺跡群（上小貝塚地区第５地点）は、縄文時代遺物包含層の広がりを確認したほか、弥生時代終末期の竪穴建物跡、中世地下式坑を検出した。

南岩崎遺跡群（寺後地区）は、弥生時代終末期から古墳時代前期の竪穴建物跡を検出した。

海保供養塚群・海保大塚遺跡（第３地点）は、平成29年度に遺跡整備を目的とする確認調査を実施した結果、墳丘推定直径60mの大型円墳が六角形６段の塚へ、24mの円墳が方形３段の塚へと改変されていることが明らかになっている（小橋・近藤2018）。今回報告する物理探査は、確認調査によって明らかになった下層古墳２基について、墳頂部に予想される埋葬施設の存否と遺存状態を非破壊で探るため実施したものである。地中レーダ探査の結果、海保大塚古墳墳頂部に長さ4m以上の埋葬施設の存在が推定でき、本来の墳頂面がある程度遺存することが判明した。磁気探査では反応が認められず、この埋葬施設推定部に鉄製の副葬品は伴わないと見られる。南側斜面の探査では墳丘構築時の段築状単位を示すかのような階段状の反応が確認され、その段の上に長さ1mほどの物体の存在が読み取られている。海保三山塚古墳では埋葬施設、鉄製副葬品とも確認されなかった。調査の詳細については本書所収の報告を参照されたい。

なお、海保大塚墳頂部の磁気探査の準備段階において、金属探知器による方形段表面の金属片除去作業を進めた際に、幕末の文久永寶、昭和16年鋳造の一銭硬貨（アルミ製）が検出されたほか、出羽三山登拝記念碑の破片と思われる石造物片が採集できた。方形段最上段及び２段目にはプラス



❶ 鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡（第3地点）
❷ 郡本遺跡群（第25次）
❸ 五霊台遺跡（第3地点）・椎津城跡
❹ 祭り野遺跡（第3地点）
❺ 能満分区遺跡群（上小貝塚地区第5地点）
❻ 南岩崎遺跡群（寺後地区）
❼ 海保供養塚群・海保大塚遺跡（第3地点）

第1図　調査遺跡位置図

チックゴミが混入しており、方形段上部が近年に整形されたことは確実であるが、墳頂部の各期銭貨の存在は、六角形段部が富士宝永テフラ直上に見られるという確認調査結果を勘案すると、海保大塚の整備が遅くとも18世紀以降、継続的に行われてきたことの反映と考えられる。初期の整備は宝永テフラ降下以前に周溝を埋め立てた段階に遡ると推定できることから、現状は再整形されている墳頂部方形段についても、近世に遡る六角塚整備に伴う構造が踏襲されたものである可能性が考えられる。

引用参考文献

大山祐喜・北森友梨 2018『市原市海保地区遺跡群 III　海保大塚遺跡（第 2 地点）』国際文化財株式会社
小橋健司・近藤　敏 2018『平成 29 年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
杉山晋作・高橋　学・風間栄一 1990「海保大塚遺跡の測量調査」『関東地方における終末期古墳の研究』白石太一郎

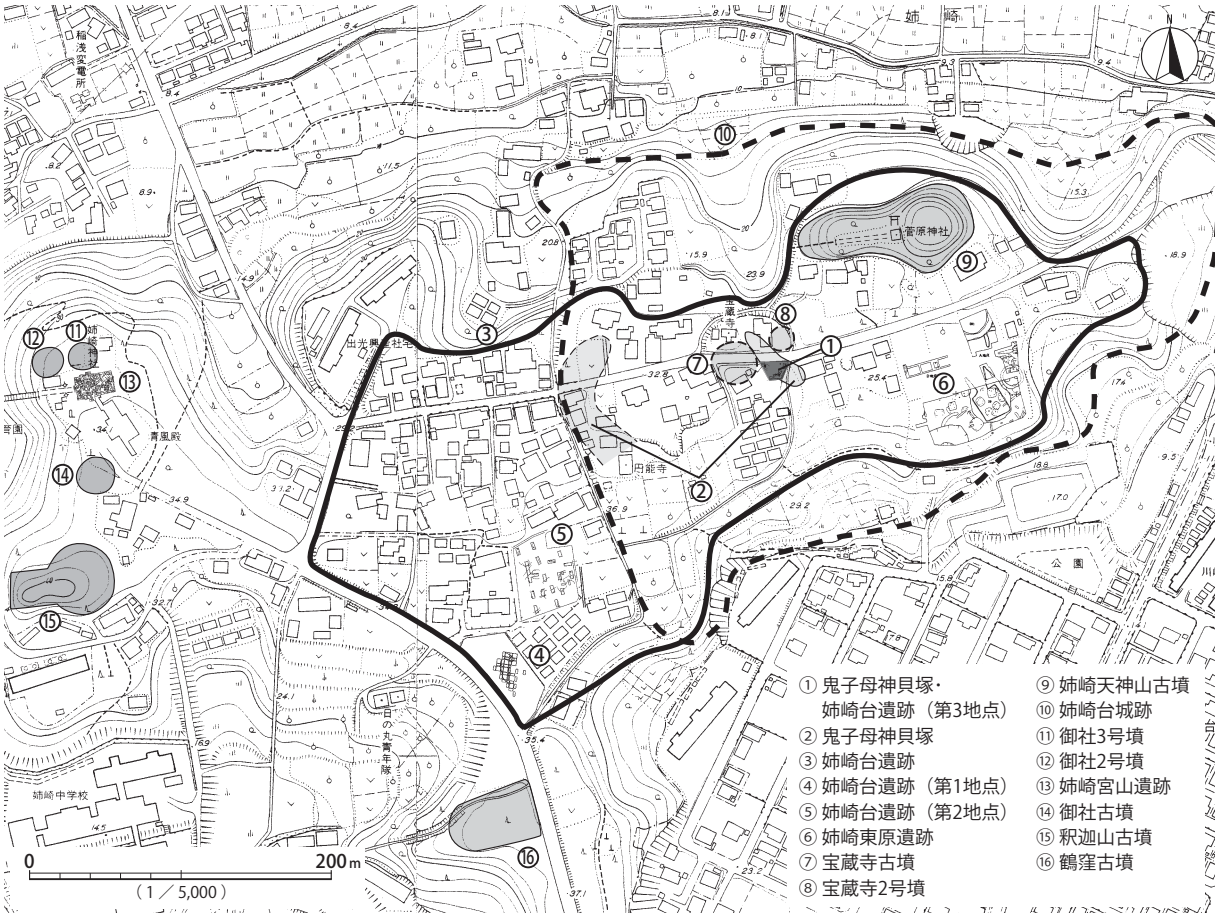
2　鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡（第３地点）

遺跡の位置　遺跡は、市原市の北西部、養老川と椎津川に挟まれた標高35ｍ程度の台地上に立地し、調査区は台地の北側に開口する小支谷の最奥地に位置する（第２図）。台地には古墳時代前期から後期を通じて古墳が築造されており、調査区から北東に100ｍ程の場所には、古墳時代前期の大型前方後円墳である姉崎天神山古墳が築かれている。また、調査区に隣接して宝蔵寺古墳群が分布する（墳丘消滅）。東側には姉崎東原遺跡が存在し、A・B・C・D地点の調査が行われている（高橋1990・1993・2000、浅利1993、櫻井1994）。鬼子母神貝塚を含む各遺跡は姉崎台城跡の範囲と重複する。姉崎台城跡としては、平成27年度に調査が行われている（北見2016）。鬼子母神貝塚はこれまで発掘調査が行われていないが、地形と残存貝層から馬蹄形を呈すると想定されている。

調査概要　調査は個人住宅の建設に伴って行われ、まず、確認調査として調査対象面積168.71㎡の10%程度を目途にトレンチを４箇所設定した（第３図）。そして、確認調査終了後、１トレンチを中心とした切土予定範囲の32㎡について本調査に移行した。調査の結果、調査区全体から混貝土層、２トレンチと３トレンチでは混土貝層を検出した。地山はソフトローム層であり、混貝土層は基本的に地山層か地山漸移層の直上に堆積している。遺構は、縄文時代早期炉穴、縄文時代後期土坑、中世土坑墓を検出した。

遺構と遺物　１トレンチの001号遺構は人骨がほぼ完全に遺存する土坑墓である（第４図）。被葬者は女性で、頭蓋は上面観が中頭型を呈し、前頭鼻骨縫合部の窪みが弱く、上顎歯槽がやや張り出すなどの傾向があり、縄文人の特徴とはかけ離れた顔面形状を示す。年齢は壮年後半から熟年前半程度、身長は148～151cm程度である[1]。右側面接地の横臥屈葬で、頭位を北西に向けている。土坑墓の時期を示す遺物は確認されていないが、人骨の形態的特徴から中世の所産と考えられる。002号遺構は炉穴である。地山を２段に掘り込んでおり、最下段において２つの火床面が南北方向に隣接して存在する。遺物は縄文時代早期の貝殻条痕文土器片が出土した（第５図２・３）。003号遺構と004号遺構は土坑である。003号遺構は混貝土層とソフトローム層を掘削して形成されており、貝塚由来と想定される混貝土層によって埋没している。遺物は縄文時代後期の土器片が出土している（第５図５～７）。004号遺構も003号遺構と同様に混貝土層とソフトローム層を掘削して形成されており、下層を除き、混貝土層によって埋没している。遺物は縄文時代後期の深鉢形土器片が出土している（第５図９～11）。４トレンチの005号遺構も土坑であり、遺物は加曽利B式を中心とした縄文時代後期の深鉢形土器片が出土している（第５・６図12～18）。２トレンチでは、南東側から混土貝層を検出した。貝層内から磨石が出土しているほか、貝層の推定範囲内において縄文時代と見られる石皿が採集されている（第７図41・51）。出土土器の様相から、調査区内の貝層は縄文時代後期頃に形成されたものと推測される。各トレンチから採取した貝層サンプルの詳細については、第１～４表に示した[2]。

貝類の組成は内湾干潟の砂泥底に生息する種が主体となり、養老川右岸の貝塚と同様だが、祇園原貝塚・西広貝塚でイボキサゴ・ハマグリ・アサリ・シオフキの組み合わせが主体となるのに対し、鬼子母神貝塚ではシオフキに代わってサルボウが多く認められる点が異なる。ハマグリの殻長計測値は25.1～42.5mmを中心に分布し、32.5～35.0mmの階級幅が最多で西広貝塚の堀之内式期の値



第2図　鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡（第3地点）周辺地形図

と近似する。魚類はアジ・イワシ類などの沿岸表層部を群泳する小型魚が圧倒的に多く、これを捕食するブリ属・サバ属の若魚も僅かに含む。同時期の貝塚に多いクロダイ・スズキが僅少である点は特徴的であり、サンプルの示す組成からは網漁を中心とした漁撈活動が想定される。養老川下流左岸の貝塚の調査例は乏しかったが、今回、詳細なデータを得られたことは重要な成果と言える。

註

（1）渡辺新氏と金井慎司氏（パリノ・サーヴェイ株式会社）に御教示いただいた。記して感謝申し上げる。

（2）動物骨の種同定について上奈穂美氏の御協力を賜った。記して感謝申し上げる。その他については鶴岡英一の助力を得た。

引用参考文献

浅利幸一 1993「姉崎東原遺跡 D 地点」『平成 4 年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会

大村　直 1991『市原市姉崎宮山遺跡・小田部向原遺跡・雲ノ境遺跡』財団法人市原市文化財センター

北見一弘 2016「姉崎台城跡」『平成 27 年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会

小橋健司・近藤　敏 2018「姉崎台遺跡（第 2 地点）」『平成 29 年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会

櫻井敦史 1994『姉崎東原遺跡 C 地点』財団法人市原市文化財センター

高橋康男 1990『市原市姉崎東原遺跡』財団法人市原市文化財センター

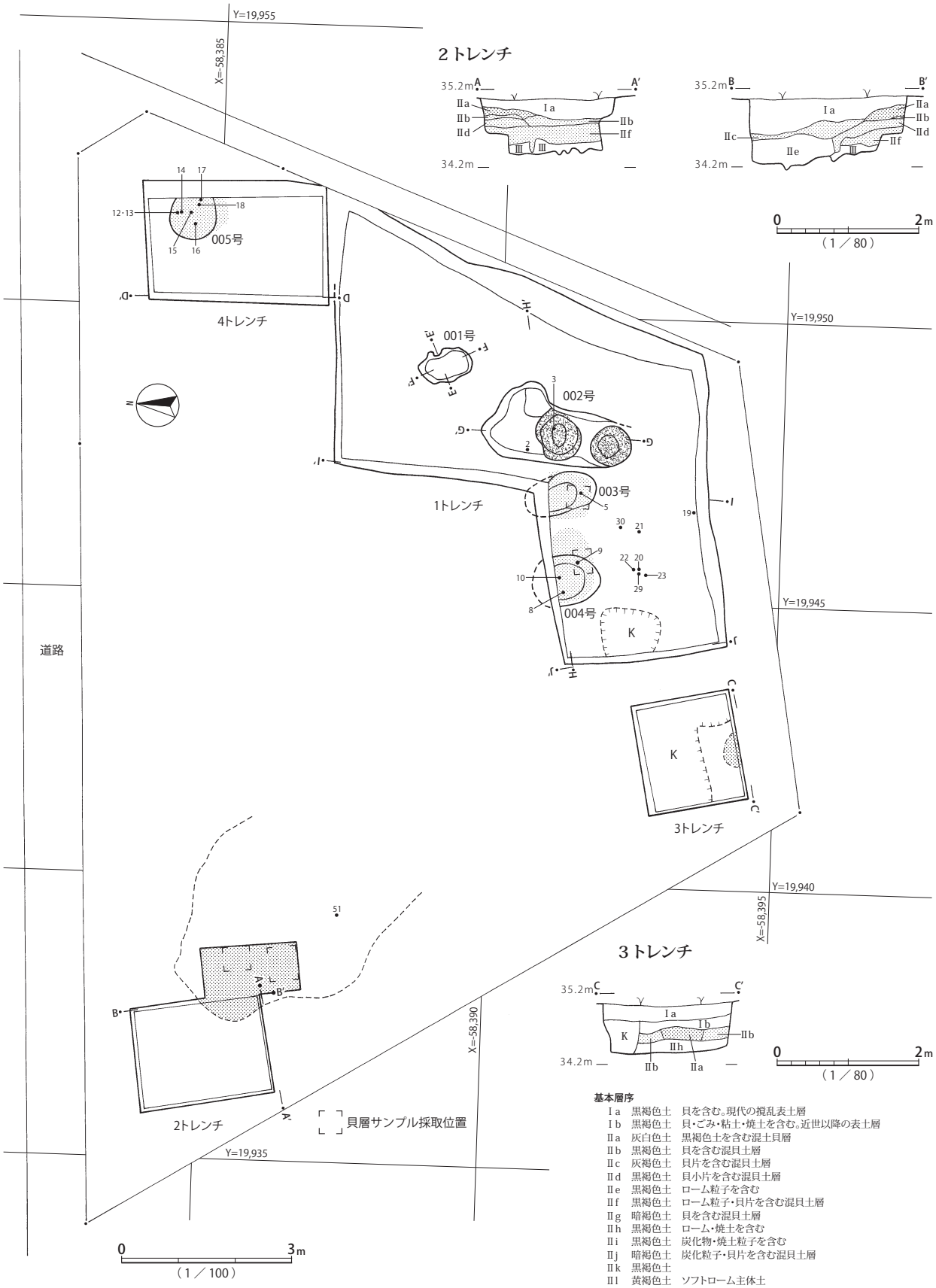
高橋康男 1993『姉崎東原遺跡 B 地点』財団法人市原市文化財センター

高橋康男 2000『姉崎東原遺跡 C 地点（2）』財団法人市原市文化財センター

千葉県教育委員会 1970『姉ヶ崎台遺跡発掘調査概報』

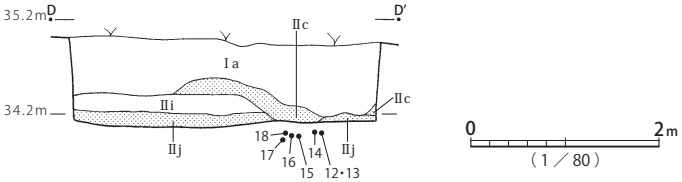
千葉県教育委員会 1978「鬼子母神貝塚」『千葉県所在貝塚遺跡詳細分布調査報告書』

千葉県教育委員会 1994「市原市姉崎古墳群」『千葉県重要古墳群測量調査報告書』

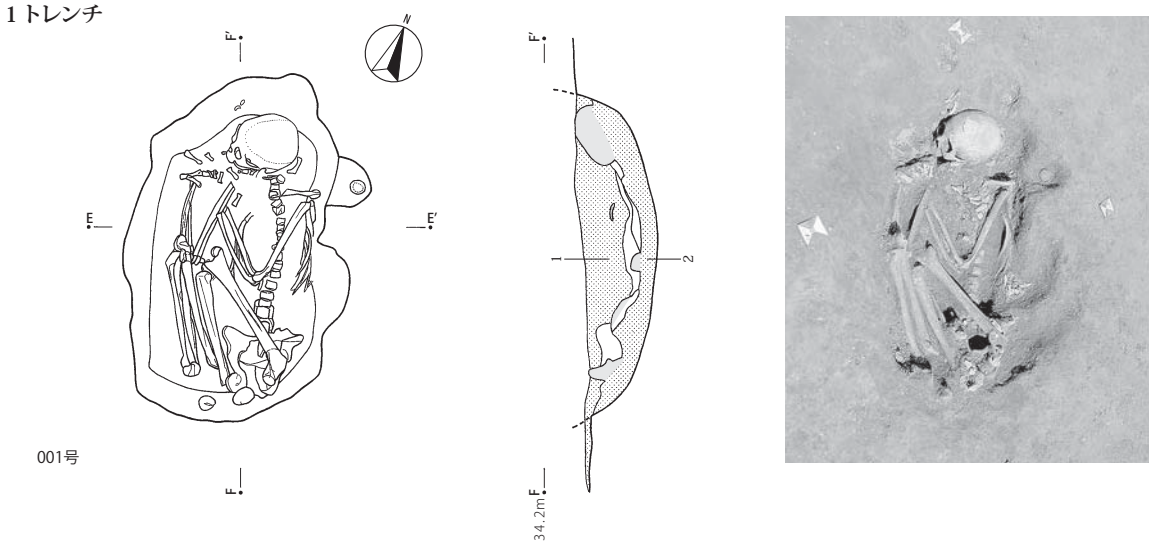


第3図　鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡（第3地点）平面図（1）・断面図（1）

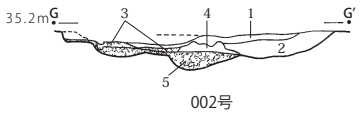
4 トレンチ



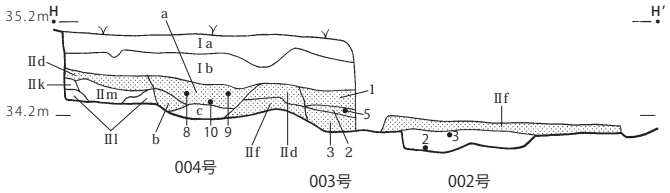
1 トレンチ



1 トレンチ 001 号 EE′、FF′
1　黒褐色土　貝片を含む混貝土層
2　黒褐色土　ロームブロック・貝片を含む混貝土層

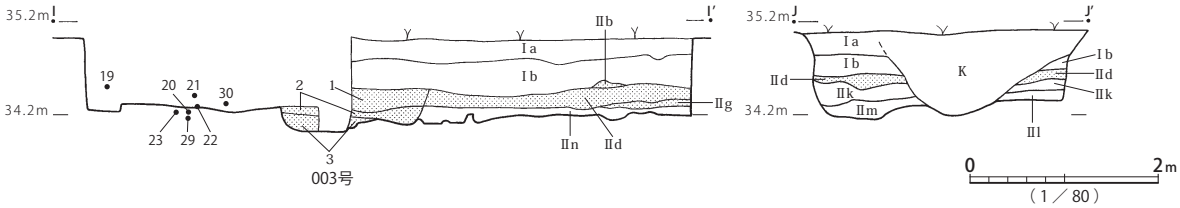


1 トレンチ 002 号 GG′
1　暗褐色土　ローム粒子・焼土粒子を含む
2　黒褐色土　ローム粒子・焼土粒子を含む
3　橙色土　焼土
4　黒褐色土　焼土ブロックを含む
5　橙色土　硬化した焼土

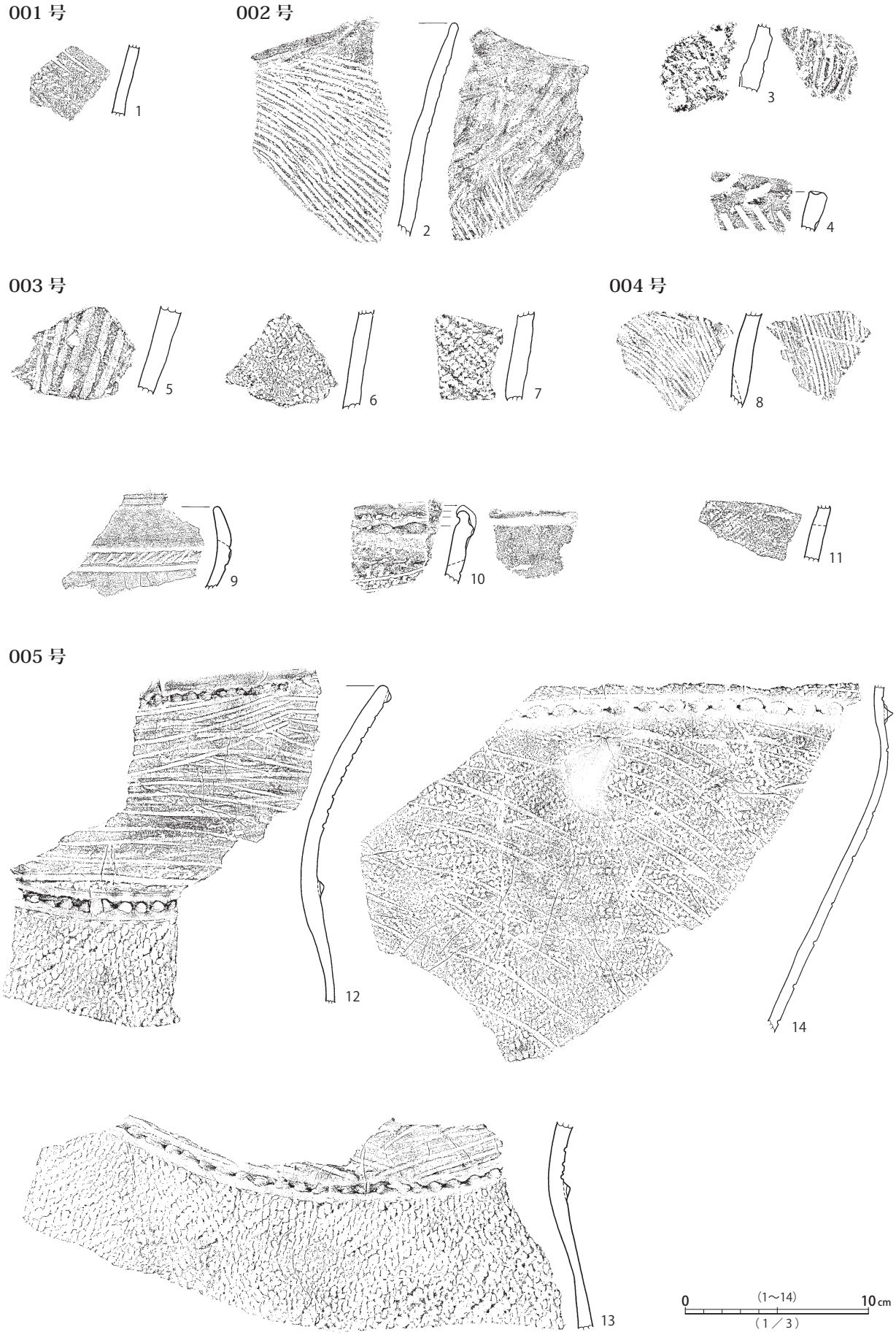


1 トレンチ 004 号 HH′
a　黒褐色土　貝を含む混貝土層
b　黒褐色土　貝片を含む混貝土層
c　黒褐色土　ローム粒子を含む

1 トレンチ 003 号 HH′、II′
1　黒褐色土　貝片を含む混貝土層
2　黒褐色土　貝を含む混貝土層
3　暗褐色土　ローム粒子・貝を含む混貝土層

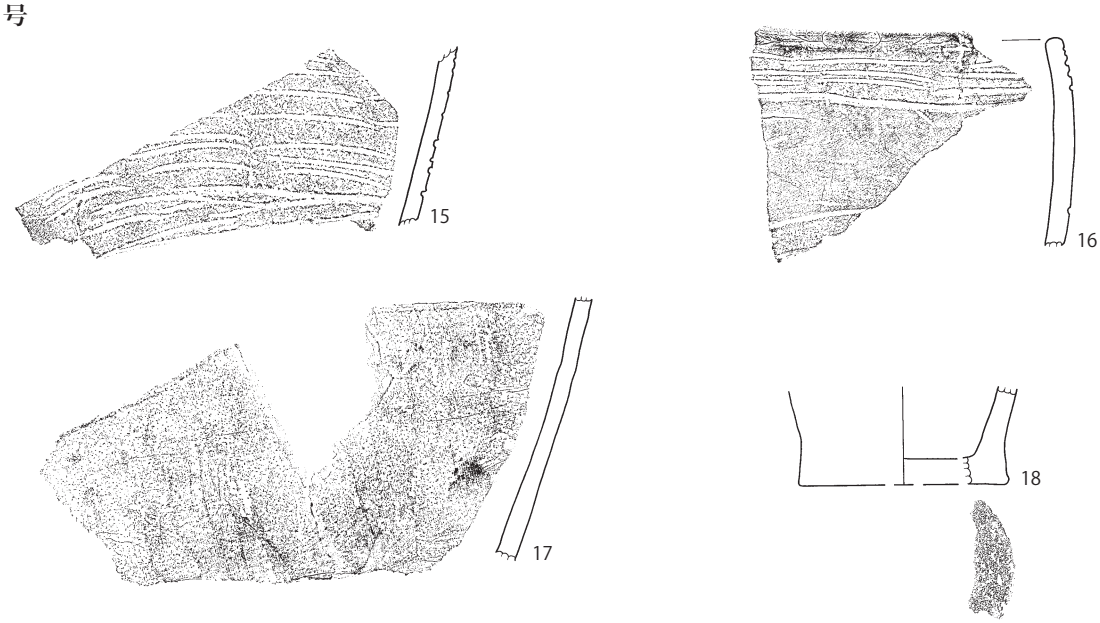


第4図　鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡（第3地点）平面図（2）・断面図（2）

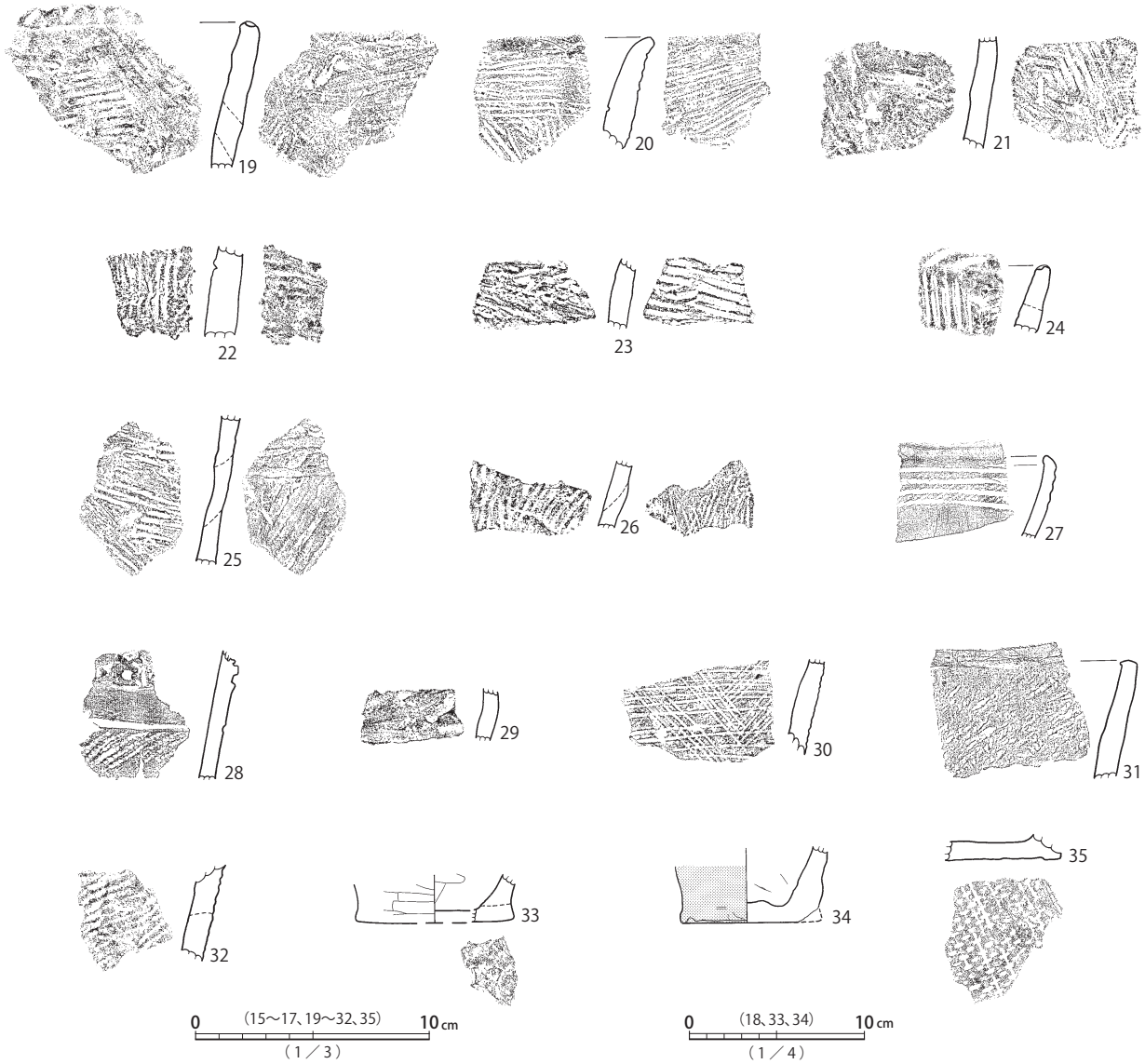


第5図　鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡（第3地点）出土遺物 実測図（1）

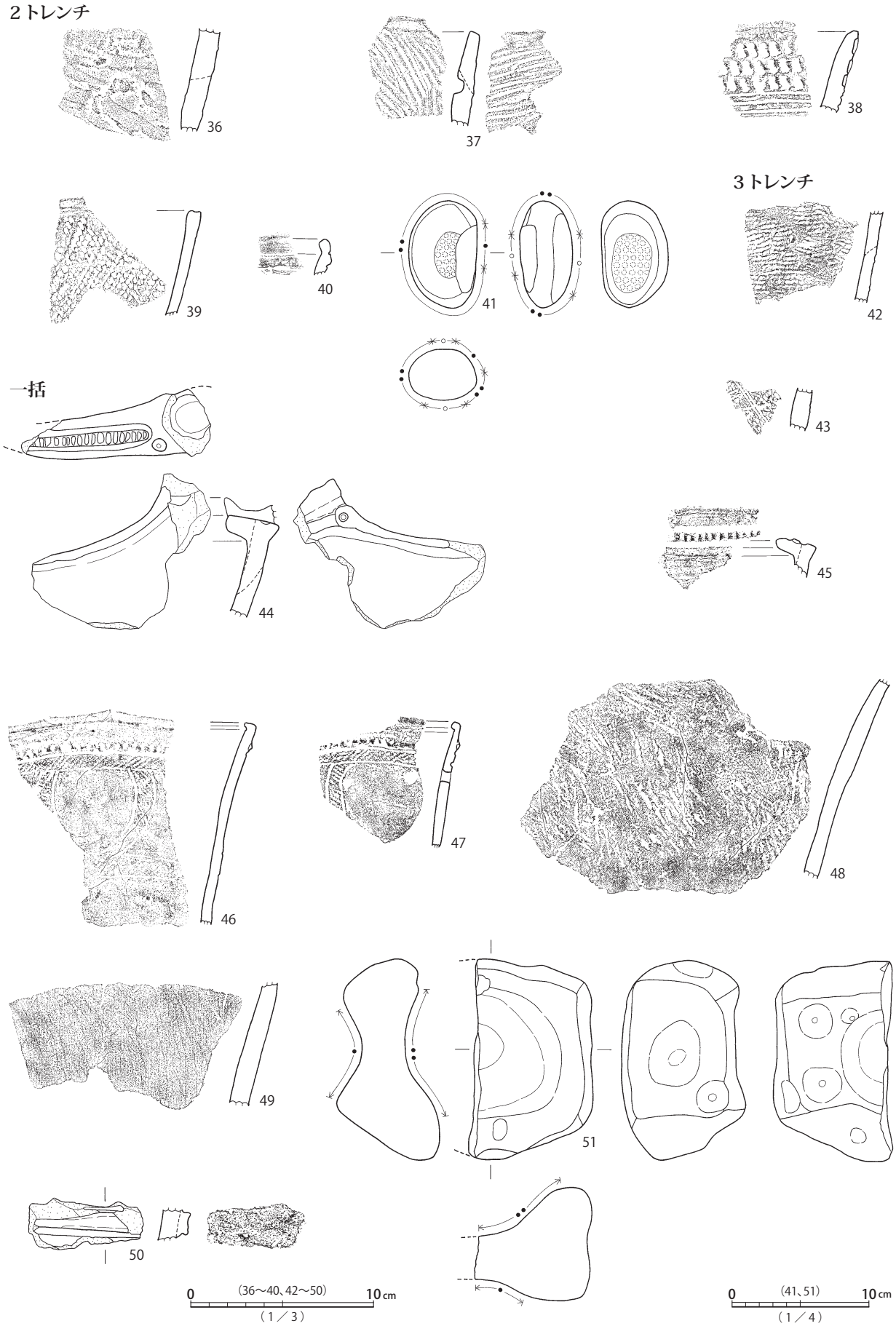
005 号



1 トレンチ



第6図　鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡（第3地点）出土遺物 実測図（2）



第7図　鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡（第3地点）出土遺物 実測図（3）

市原市鬼子母神貝塚出土の動物遺体

はじめに　本遺跡は、市原市を北西に流れる椎津川が形成する小支谷の最奥部、標高約35mの袖ケ浦台地先端に立地する。平成30年度実施の発掘調査では、4つのトレンチから縄文時代早期の炉穴の他、同時代後期の土坑内貝層など馬蹄形貝塚に由来する貝層が調査区全体で検出され、動物遺体はこの貝層から主に出土した（本書所収報告）。この他に、中世の土坑墓も確認されている。

今回報告する資料は、4地点6箇所の貝層サンプルと1箇所の点上げ資料から得られた両生類・鳥類・哺乳類遺体である。貝塚由来資料が大部分であるため遺存状態は比較的良好である。サンプルに対しては7・3・1mmメッシュの篩を用い資料が回収された。種同定には、市原市教育委員会生涯学習部ふるさと文化課埋蔵文化財調査センター所蔵の現生標本を使用した。同定作業と併せて、加工痕や病変等の骨の損傷に関する観察を実施している。

遺跡出土の両生類・鳥類・哺乳類遺体　第1表に示すように、両生類は無尾目（カエル）、哺乳類についてはニホンザルやムササビ、イノシシ、ニホンジカを確認できた。出土地点や分類群ごとの集計結果を第2表に示す。総点数163点中、目科属種及び部位の同定に至ったもの（NISP）は25点、未同定のものは11点である。この他、脊椎動物亜門・両生綱・鳥綱・哺乳綱・陸獣に分類したものは138点で、このうち著しく破損し部位の同定ですら不可能な破片資料は128点に上った。

両生類・鳥類については、種同定には至っていないものの、両生類は1個体分のヒキガエル程度の大きさの骨を2点、鳥類はキジと同大の中足骨や指／趾骨を4点、破片3点を確認した。地点が離れての出土であることを考慮すると、鳥類の最小個体数（MNI）は3個体と考えられる。

哺乳類遺体については、魚類遺体に比べ数は少ないものの、調査区全体から出土している。ニホンジカは各地点でみられ、5個体分の成獣の上下顎遊離歯や角片、四肢骨などを7点確認した。イノシシは、第1後臼歯が萌出直後の6か月未満（林ほか1977、小池・林1984、新美1991）の幼獣の下顎骨と亜成獣の踵骨、2個体分を確認した。ムササビも2個体分の上顎遊離歯と橈骨を各1点確認した。ニホンザルは下顎遊離歯が1点見つかっているのみである。

シカやイノシシの四肢や肢端部の骨2点には、イヌなどの食肉類と推定される咬み痕が残されていた。また、哺乳類骨とみられる10点の破片には、被熱による収縮やひび割れ、破砕、黒～灰白色への色調変化などが認められた。被熱が骨の表面に留まらず内部まで観察できていることから、骨が高温の蒸焼き状態で焼かれたことが推定される。

以上、同遺跡の動物遺体の概要を述べた。いずれも本遺跡周辺の縄文時代中後期の貝塚に多く認められる種である。今回はNISPが25点と非常に少なく各分類群の比は明確ではないものの、多量の魚類遺体に次いでシカ・イノシシなどの大型陸獣とサル・ムササビなどの中型陸獣が主体をなす哺乳類遺体に加え、僅かに鳥類遺体が加わるという構成もまた周辺貝塚と共通する。

参考文献

小池裕子・林　良博1984「遺跡出土ニホンイノシシの齢査定について」『古文化財の自然化学的研究』同朋舎出版
新美倫子1991「愛知県伊川津貝塚出土ニホンイノシシの年齢及び死亡時期について」『国立歴史民俗博物館研究報告』29
林　良博・西田隆雄・望月公子・瀬田季茂1977「日本産イノシシの歯牙による年令と性の判定」『日本獣医学雑誌』39-2

第 1 表　鬼子母神貝塚貝層サンプル 種名表

脊索動物門	脊椎動物亜門	両生綱	無尾目		無尾目の一種	Anura fam. indet.
		鳥綱			鳥綱の一種	Aves order indet.
		哺乳綱	食虫目	モグラ科	モグラ科の一種	Talpidae gen. indet.
			霊長目	オナガザル科	ニホンザル	*Macaca fuscata*
			齧歯目	リス科	ムササビ	*Petaurista leucogenys*
				ネズミ科	ネズミ科の一種	Muridae gen. indet.
			偶蹄目	イノシシ科	イノシシ	*Sus scrofa*
				シカ科	ニホンジカ	*Cervus nippon*
		計	5 目	6 科	4 種	

第 2 表　鬼子母神貝塚貝層サンプル 動物骨集計表

トレンチ / 遺構 No.	遺構種	Cut No. / 層位	分類群	部位	左右	残存	成長段階	骨の損傷 / 歯列 / 萌出・咬耗程度	集計		
									点数	NISP	MNI
2 トレ（サンプル）			鳥綱	同定不可能	−	破片			1		1
			ニホンザル	下顎遊離歯	右	ほぼ完存			1	1	1
			ニホンジカ	脛骨	右	遠位部	成		1	1	1
				角	−	又状部	若？	研磨？	1	1	
			ムササビ？	上顎遊離歯	右	ほぼ完存			1	1	1
			未同定	部位不明	−				3		
			大型陸獣	四肢骨骨幹部	−	破片			1	1	
			哺乳綱	同定不可能	−	破片			7		
			脊椎動物亜門	同定不可能	−	破片		焼骨（黒色）	2		
									8		
4 トレ（サンプル）			哺乳綱	同定不可能	−	破片			2		
			脊椎動物亜門	同定不可能	−	破片			2		
文トレ 002 号南部（サンプル）		③ 2/2 / 焼骨（縄文）	大型陸獣	四肢骨骨幹部	−	破片		焼骨（灰〜黒色）	2		1
		⑮ 2/2	イノシシ	頭蓋骨	右	上顎骨	幼	（dp2,3,4,M1）（中 , 中〜強 , 中〜強 , 萌出中）	1	1	1
文 2 トレ 1 トレ東縁（点上げ）		工事立会い（貝層中）	イノシシ	踵骨	右	ほぼ完存			1	1	1
			ニホンジカ	上腕骨	左	遠位部	成	咬痕（遠位部・食肉目による？）	1	1	1
				踵骨	右	近位部	成		1	1	1
001 号（中世）（サンプル）	土坑墓		ニホンジカ	上顎遊離歯	右	破片	成	M1（中〜強）	1	1	1
003 号（縄文後期）（サンプル）	土坑	2 層	両生綱	椎骨（環椎）	−	ほぼ完存			1	1	1
		3 層	哺乳綱	同定不可能	−	破片			6		
			脊椎動物亜門	同定不可能	−	破片			3		
			未同定（両生綱）	部位不明	−				3		1
			未同定（鳥綱）	部位不明	−				1		
			鳥綱	四肢骨骨幹部	−	破片			2	2	
				指 / 趾骨	−	ほぼ完存			2	2	1
				同定不可能	−	破片			1		
			ニホンジカ	遊離歯	−	破片	成	M（中〜強）	1	1	1
			中型陸獣	椎骨（尾椎）	−	ほぼ完存			1	1	1
			未同定	部位不明	−				2		
			哺乳綱	同定不可能	−	破片		焼骨（灰〜黒色）	3		
									5		
			脊椎動物亜門	同定不可能	−	破片			15		
004 号（縄文後期）（サンプル）	土坑		未同定（鳥綱）	中足骨	右	遠位部			1	1	1
				同定不可能	−	破片			1		
			タヌキ	尺骨	右	近位部	成		1	1	1
			中型陸獣	四肢骨骨幹部	−	破片	成		1	1	
			大型陸獣	四肢骨骨幹部	−	破片			1	1	1
			鳥綱	指 / 趾骨（末節骨）	−	ほぼ完存			1	1	
			ニホンジカ	角	−	破片			1	1	1
			ムササビ？	橈骨	右	近位部	成		2	1	1
			中〜小型陸獣	指 / 趾骨（中節骨）	−	ほぼ完存			1	1	
			未同定	部位不明	−				1		
			哺乳綱	同定不可能	−	破片		焼骨（灰〜黒色）	3		
									7		
			脊椎動物亜門	同定不可能	−	破片			59		
									163	25	20

第 3 表　鬼子母神貝塚貝層サンプル 貝類集計表

遺構番号			001 号					003 号							004 号					2 トレ										3 トレ			4 トレ					合計
サンプル番号			1	4	75	76	計	2	3	4	5	6	7	計	1	2	3	4	計	10	11	12	13	14	15	16	17	18	計	2	3	計	3	4	5	12	計	
遺構種別			土坑墓					土坑							土坑					貝層										貝層			貝層					
腹足綱	イボキサゴ		652	1,057	224	120	2,053	983	765	493	373	659	285	3,558	855	397		927	2,179	2,983	4,534	3,150	4,601	2,282	505	982	911	760	20,708	526	267	793	496	382	470	454	1,802	31,093
	スガイ																				1	1	3	1	1	1			8									8
	ヤマタニシ																				1							1	2									2
	ウミニナ科		1	3	1		5	11	5	6	2	6	2	32	3			9	12	21	33	29	15	12	9	10	6	10	145	8	3	11	1	3	3	1	8	213
	ツメタガイ		5	11	2		18	5	3	3		4	2	17	2	1		4	7	26	74	79	142	62	28	31	16	71	529	2	5	7	8	8	5	7	28	606
	アカニシ		7				7		1		1			2				3	3	17	22	13	25	10	6	12	5	15	125	3	2	5	12	1	3		16	158
	イボニシ											1		1				1	1	2	6	7	6	2	2	3		3	31	1		1	1			1	2	36
	アラムシロガイ		4	7	1	1	13	12	12	7	8	14	8	61	12	4		20	36	22	39	44	48	23	3	9	13	7	208	5	5	10	4	4	4	1	13	341
	バイ																	2	2	1							5	19	25	1		1						28
二枚貝綱	サルボウ	L	1				1	2						2						8	32	27	59	18	11	5	2	6	168	106	62	168						339
		R						1						1						10	31	27	56	26	7	1	2	1	161	137	68	205	1				1	368
	ハイガイ	L							1					1				1	1																			2
		R													3			1	4								1		1									5
	タマキガイ	L																										1	1									1
		R																																				0
	マガキ	L																				1	1						2									2
		R																													1	1						1
	バカガイ	L										1		1							1	1	7		1		2	7	19	4	2	6						26
		R																			1		1		1	3	3	1	10	7	3	10			1		1	21
	シオフキガイ	L	1				1	4		1	3		2	10	5	1		2	8	15	21	30	39	24	3	5	5	3	145		2	2	3				3	169
		R	2	2			4	2	5	3	1		1	12	3	1		3	7	17	16	27	39	15	4	1	3	8	130		1	1	3	1	1	3	8	162
	マテガイ	L																																				0
		R																				1							1									1
	カガミガイ	L		1			1														1		1	1			1		4	2		2	7			1	8	15
		R							2	1	1			4							1		2			1			4				1	1			2	10
	アサリ	L		5			5		2	2		1	2	7	1			2	3	16	32	34	32	15	4	5	4	2	144	192	69	261	1	2	1	2	6	426
		R		2			2		2	1	1		1	5				2	2	16	29	16	27	9	8	11	6	1	123	191	91	282			2	2	4	418
	ハマグリ	L	8	13	1	3	25	12	5	5	2	7	5	36	14	5		14	33	14	21	17	43	19	13	12	13	22	174	21	16	37	290	13	35	56	394	699
		R	10	15	3	1	29	13	14	10	4	11	3	55	12	3		10	25	16	14	15	38	13	11	13	11	9	140	24	15	39	366	12	56	30	464	752
	オキシジミ	L																				1							1	1		1						2
		R																															1				1	1
	オオノガイ	L						3	1		1			5						1	5	7	24	12		1	4	1	55									60
		R							1					1							2	5	14	7				1	29									30
合計			691	1,116	232	125	2,164	1,048	819	532	397	704	311	3,811	910	412	0	1,001	2,323	3,185	4,917	3,532	5,223	2,551	617	1,106	1,013	949	23,093	1,231	612	1,843	1,195	427	581	558	2,761	35,995

第４表　鬼子母神貝塚貝層サンプル 魚類骨集計表

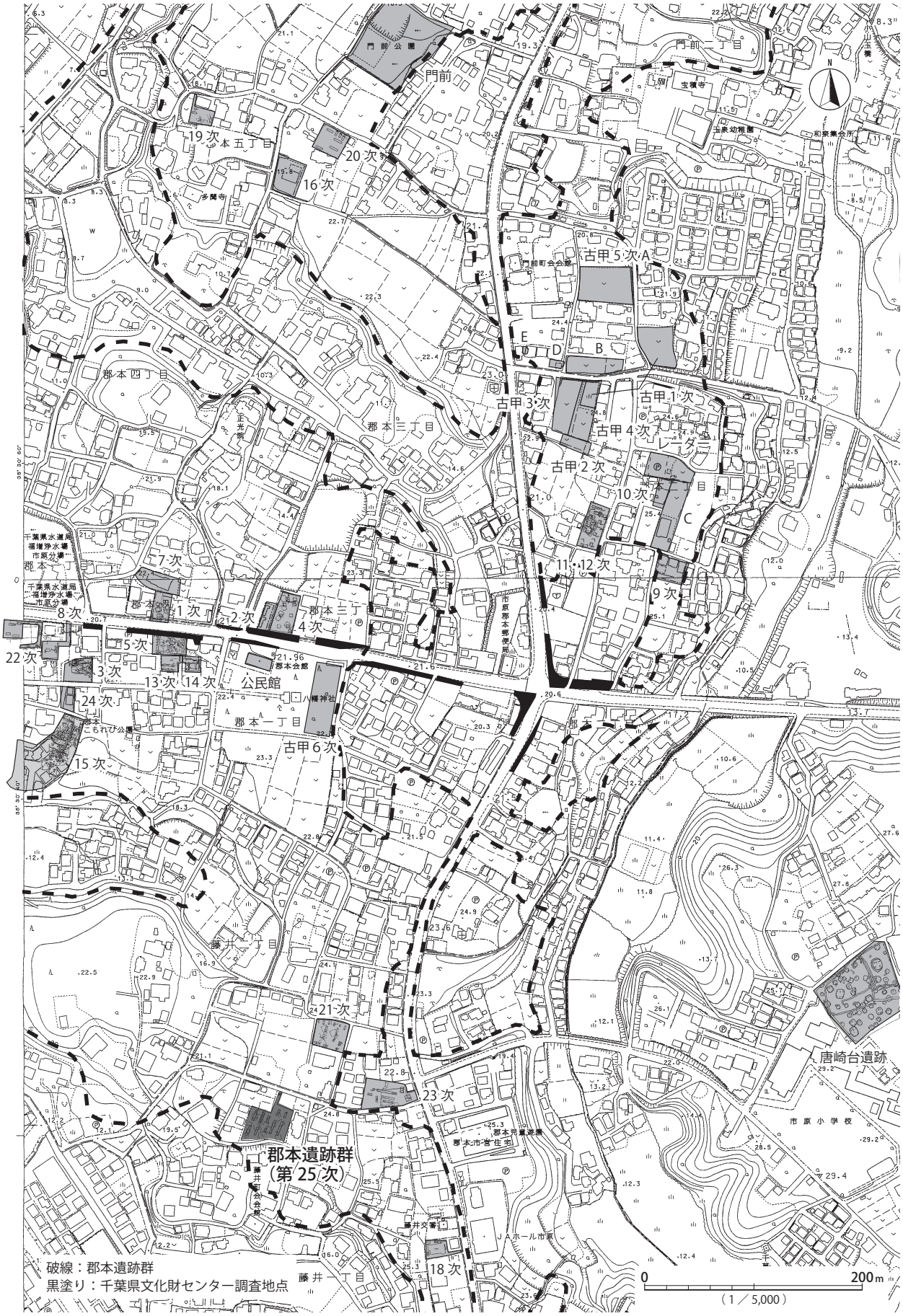
遺構番号			001 号					003 号							004 号				2 トレ										3 トレ			4 トレ					合計
サンプル番号			1	4	75	76	計	2	3	4	5	6	7	計	1	2	4	計	10	11	12	13	14	15	16	17	18	計	2	3	計	3	4	5	12	計	
遺構種別			土坑墓					土坑							土坑				貝層										貝層			貝層						
サメ類	遊離歯																					1						1									1
	椎骨			1			1										2	2	1	1	1	8	9					20									23
アカエイ科	遊離歯											2	1	3					1	1								2									5
エイ目	椎骨		1	1			2		4	1		2		7	1	1		2	1				3	1				5	2		2						18
	楯鱗																																	1	4	5	5
マイワシ	第１脊椎				1		1		1					1					7	5	5	9	4	1				31									33
	第２脊椎							1			1	1		3		1	1	2	3	2	1	7	6		1			20									25
コノシロ	第１脊椎																		4	2	5	4		1				16									16
	第２脊椎		1				1												1	1	1	2	4	1				10						1	1		12
ニシン科	角骨	L																			1							1									1
	角骨	R																		1								1									1
	方骨	R								1		1		2																							2
	第１脊椎																					2						2									2
	腹椎		2			3	5	8	11	8	4	6	4	41	6	2	10	18	25	40	15	94	62	25	2		1	264		2	2	3		1		4	334
	尾椎			1	2		3	7	5	2	3	5		22	6	1	8	15	26	65	13	97	97	30	1		1	330				1				1	371
カタクチイワシ	腹椎											1		1					1	1			3	4				9									10
	尾椎							5	3	1	1	1		11	5		3	8		8		14	23	8	2			55	1		1	1			1	2	77
ウナギ	腹椎																			3	1		2					6									6
	尾椎				1		1				1			1	1		1	2	9	9	2	15	17	5				57	1		1						62
ボラ科	方骨	L										1		1																							1
	涙骨	R																					1					1									1
	腹椎																		1		1							2									2
	尾椎											2		2	1			1	1									1									4
スズキ属？	尾椎							1						1								1						1									2
キス属	前上顎骨	R																			1							1									1
	方骨	R																		1								1									1
	後側頭骨	L																					1					1									1
	第１脊椎																					1						1									1
	腹椎												1	1	1		1	2	1	3	5	6	13	2	1	1		32						1	2	3	35
	尾椎								5					5		1	3	4	1	20	10	34	34					99						1	2	3	111
ブリ属	前上顎骨	R																	1									1									1
	尾骨																					1	1					2									2
アジ科	前鋤骨																					1						1									1
	前上顎骨	L																				4						4									4
	前上顎骨	R						1						1					1		1	3	1	2				8									9
	主上顎骨	L	1				1								1			1		1		2	2	1				6									8
	主上顎骨	R																			1		2					3									3
	歯骨	L																		2	3	2						7									7
	口蓋骨	L																					1					1									1
	角骨	L			1		1						1	1						1	2	3	4					10									12
	角骨	R													1			1			3	3	2	2				10									11
	方骨	L								1	1			2		1		1			1	4	3					8									11
	方骨	R		1			1														1	3		1				5									6
	舌顎骨	L															1	1				3	4					7									8
	舌顎骨	R																				2	3					5									5
	角舌骨	L	1				1														1	4		1				6									7
	角舌骨	R								2				2		1		1	1				3					4									7
	肩甲骨	L																			1	3	1	1	1			7									7
	肩甲骨	R																	1	1	2	5	3	3				15									15
	上疑鎖骨	L																		1								1									1
	第１脊椎			1			1			1				1			1	1		3	3	7	5	1				19					1			1	23
	腹椎		2	2			4		1			1	1	3	2			2	3	2	2	10	18	2				37						1		1	47
	尾椎			3			3	1	1	1	2	3	2	10	6	3		9	2	10	14	45	53	3				127	1		1			1		1	151
	稜鱗		3	10	9	1	23	17	13	6	4	9	10	59	14	13	25	52	15	63	60	236	239	62	1		3	679	4	4	8	7	2		4	13	834
クロダイ属	前上顎骨	R						fr.																													0
	口蓋骨	L																				1						1									1
	角骨	L								1				1	1			1				1						1									3
	方骨	L								1				1	1			1		1																	2
	方骨	R								1				1									1					1									2
	前鰓蓋骨	L																					1					1									1
	上舌骨	L																					1					1									1
	肩甲骨	R																			1							1									1
	後側頭骨	R																				1						1									1
	上疑鎖骨	L																				1						1									1
	上疑鎖骨	R																				1	1					2									2
タイ科	腹椎																						1					1									1
	尾椎																					2						2									2
タイ類	切歯			1	2		3	3	2	1		1	1	8	2		4	6	4	1		4	3					12	3		3	1		1	1	3	35
	臼歯		4	1			5	5	6	3	1	4	2	21	6		14	20	8	5	2	16	15	7	11	4		68	1	4	5	10	6	7	4	27	146
サバ属	前上顎骨	R																				1						1									1
	歯骨	L																						1				1									1
	角骨	R																					1					1									1
	腹椎																								1			1									1
	尾椎																					1	1					2									2
ハゼ科	前上顎骨	R																					2					2									2
	主上顎骨	L																						1				1									1
	歯骨	R		1			1																														1
	尾椎																							2				2									2
コチ属	前上顎骨	L																			1							1									1
	腹椎											1		1																							1
	尾椎																					1						1									1
ウシノシタ上科？	尾骨																			1								1									1
フグ科	前上顎骨	L																	1	1			1					3									3
	前上顎骨	R																		1	1	2						4									4
	歯骨	L																	1									1									1
	歯骨	R																			1	1	1					3									3
	方骨	R																					1					1									1
	角舌骨	L																					1					1									1
	角舌骨	R								1				1																							1
	尾椎																		1			2	4					7									7
真骨類	前鋤骨																				1							1									1
	主上顎骨	L																				1						1									1
	角骨	L																			1	1						2									2
	角骨	R																				1						1									1
	方骨	L	1		1		2														1							1									3
	方骨	R																												1	1						1
	前鰓蓋骨	L				1	1																														1
	前鰓蓋骨	R																									1	1									1
	肩甲骨	L																			1	1						2									2
	肩甲骨	R																			1							1									1
	基後頭骨																		1				2	2				5									5
	第１脊椎																1	1	3	1	3	2	3					12									13
	腹椎		1	1	4		6	3	5	1		2		11	1		5	6	13	19	6	50	46	6	1		1	142						1		1	166
	尾椎		3	2	4	3	12	5	3	8	1	8	6	31	13	7	13	33	31	23	42	96	59	28			1	280		2	2	7			2	9	367
	尾部棒状骨			3			3			1				1					1	2		4	6	1				14				1				1	19
	臀鰭棘								1					1						1		7	6	1				15									16
ワタリガニ科	指節																													1	1						1
合計			20	29	25	8	82	57	61	42	19	51	29	259	69	31	93	193	171	303	219	834	781	206	22	5	8	2,548	13	14	27	31	9	14	19	73	3,182

3　郡本遺跡群（第25次）

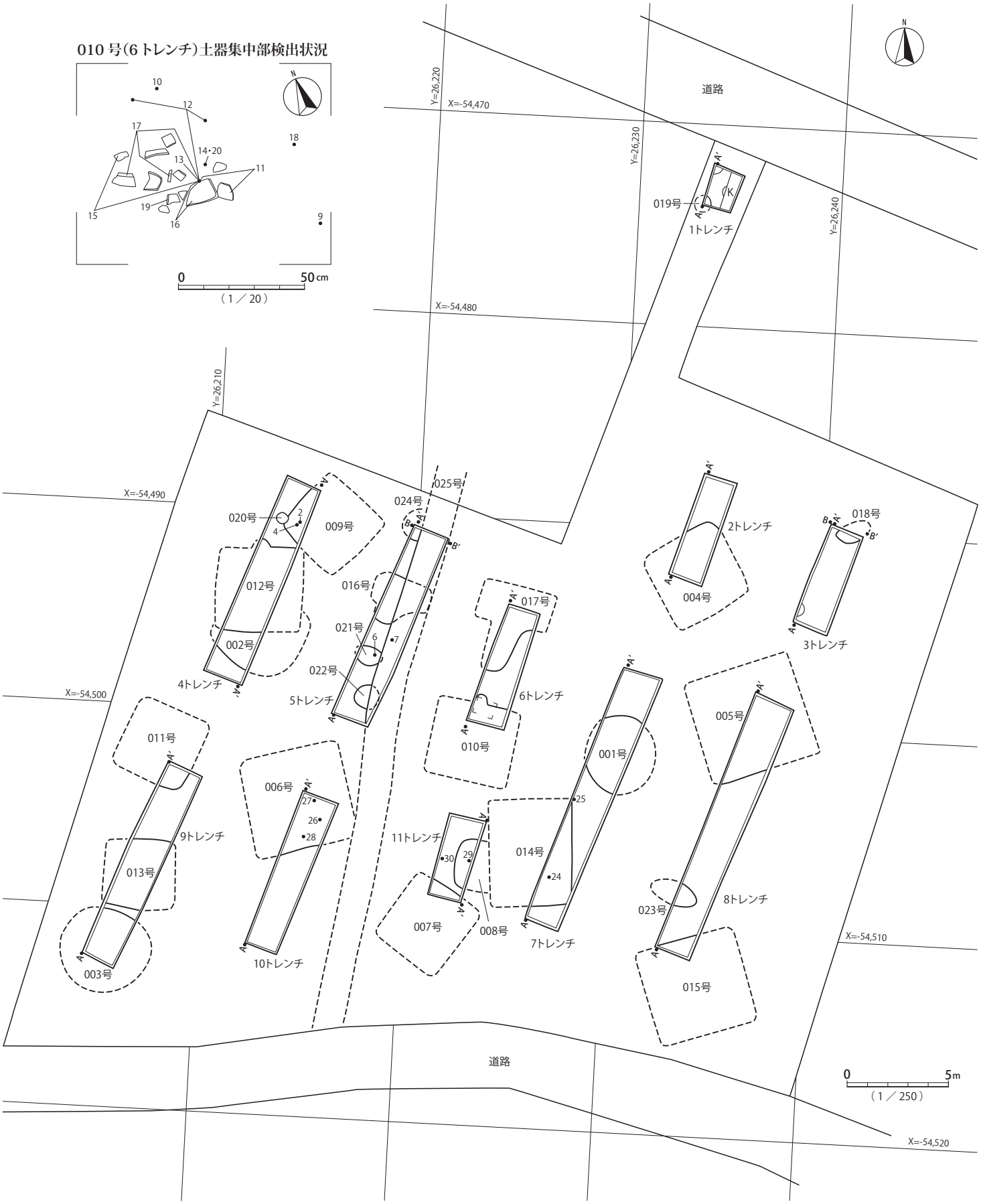
遺跡の位置　調査区は、市原台地中央部新田川左岸、標高25ｍ前後の台地平坦部に位置する（第8図）。東の谷を流れる新田川との高低差は10ｍほどである。調査区北側に面する道路は西へ傾斜し、南側は細い道路を挟んで急傾斜に続く。郡本遺跡群は市原郡衙の有力推定地の一つで、これまで地中レーダ探査を含め調査が重ねられており、発掘調査事例も豊富である。今回調査区の近隣では、約100ｍ東方の第23次調査区において、中世土坑が検出されたほか、奈良・平安時代を主体とする土器片が得られている（小橋・近藤2018）。北東約100mの第21次調査区では、古墳時代前期の竪穴建物跡２棟、奈良時代の竪穴建物跡１棟、平安時代の竪穴建物跡３棟、中世方形竪穴が検出されており、今回調査区と比較的似た様相を示す（小川2014）。

調査概要　調査は1,259㎡を対象とし、住宅基礎施工予定範囲を中心に11箇所のトレンチを設定して行った（第９～11図）。南部ほど表土堆積が厚くなる傾向があるものの、いずれも表土下約60～100cmで地山ソフトローム層に達し、遺構確認面となった。検出された遺構・遺物は、古墳時代と奈良・平安時代の所産が主体だが、調査区を縦断すると見られる幅約1.5ｍの溝状遺構は、覆土から常滑片口鉢片（15世紀前半か）が出土しており、土地利用は中世に及ぶ可能性が高い。

遺構と遺物　1トレンチは東部が排水管埋設により大規模な撹乱を受けていたが、南西隅において古墳時代の土坑019号が確認された。2トレンチでは古墳時代竪穴建物跡004号、3トレンチでは陥し穴と思しき縄文時代の土坑018号が検出された。1～3トレンチの出土遺物は乏しく、図示には及んでいない。4トレンチでは、奈良時代の土坑020号がトレンチの北寄りから1基、古墳時代前期の竪穴建物跡002号が南寄りで検出され、平安時代の竪穴建物跡2棟（009・012号）が両者を切っている。009号からは土師器杯と甕口縁部（第12図1・2・4）、012号からは土師器杯と千葉産須恵器甕底部が出土している（3・5）。5トレンチは、遺構では奈良時代の土坑3基（021・022・024号）が検出され、021号からは永田・不入III期の須恵器杯（6）も出土している。他に中世の地下式坑016号やトレンチを南北に通る中世溝状遺構025号も検出された。6トレンチ北部でも中世地下式坑017号が確認されたほか、遺構に伴わない一括取り上げ遺物に瀬戸・美濃系陶器の瓶子（14世紀前葉）の小片（8）が含まれており、中世後期における土地利用の痕跡が明瞭に認められる。6トレンチ南側からは北辺にカマドを設けた平安時代の竪穴建物跡010号と、その覆土上面に伴う土器集中部が検出された。土師器甕・杯、灰釉陶器椀、置きカマドが集中して出土している（10～20）。7トレンチでは、北部に円形と推定される竪穴建物跡001号が検出され、弥生時代後期後半から終末期と見られる壺形土器片が伴う（第13図21・22）。また7トレンチ南部において平安時代竪穴建物跡014号が検出されており、転用硯と見られる須恵器甕片（24）が出土している。8トレンチでは、北端で古墳時代竪穴建物跡005号、南端で平安時代竪穴建物跡015号が検出されたほか、奈良・平安時代の土坑023号が検出されている。9トレンチからは弥生時代の竪穴建物跡003号と平安時代の竪穴建物跡2棟（011・013号）が検出されたものの、図示に至る遺物はなかった。10トレンチからは弥生時代終末期から古墳時代前期の竪穴建物跡006号が検出され、椀・広口壺・高杯の破片（26～28）等が出土した。11トレンチからは007号・008号の古墳時代竪穴建物跡2棟が確認された。同トレンチ内では転用硯が出土したほか、椀形鉄滓が確認されている（30・31）。

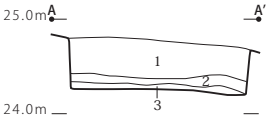


第8図　郡本遺跡群（第25次）周辺地形図



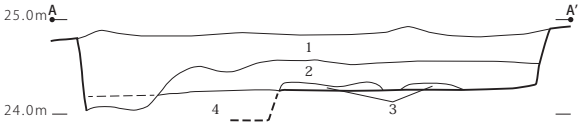
第9図　郡本遺跡群(第25次) 平面図

1 トレンチ



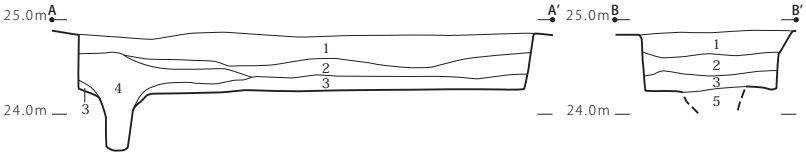
1　耕作土　現表土
2　暗灰褐色土　ローム粒(1 ～ 3mm 大・微量)
3　暗褐色土　ソフトローム(ブロック状・5 ～ 30mm 大・下層を中心に均等)

2 トレンチ



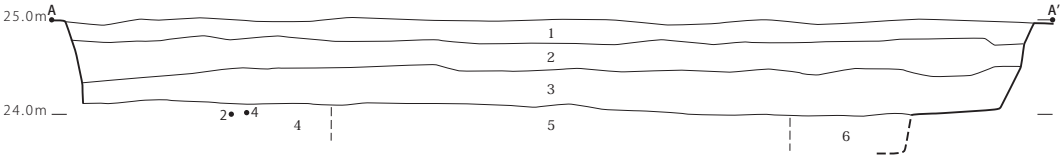
1　耕作土　現表土
2　暗黒褐色土(やや灰色味がかる)
　ロームブロック(ソフトローム化している。10 ～ 30mm 大・下層を中心に均等に散る)
3　暗黒褐色土　ロームブロック(ソフトローム化している。10 ～ 20mm 大・均等)
4　暗黒褐色土　ロームブロック(5 ～ 20mm 大・少量)(004 号覆土)

3 トレンチ



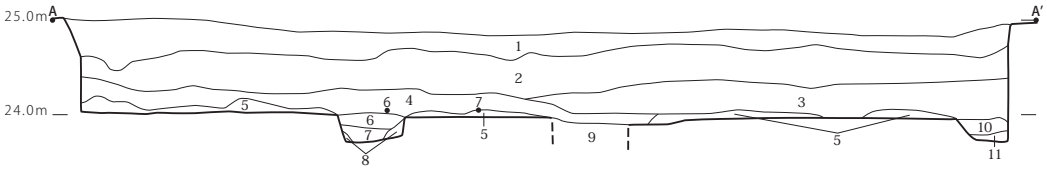
1　現表土
2　暗灰褐色土　ローム粒(1 ～ 2mm 大・微量)
3　暗黒褐色土　ロームブロック(ソフトローム化している。10 ～ 40mm 大・少量だが均等)
4　暗灰色褐色土　ローム粒ブロック(ソフトローム化している。20 ～ 40mm 大・少量だが均等)
5　暗黒褐色土(黒色やや強い)　ローム粒(1 ～ 5mm 大・微量)(018 号覆土)

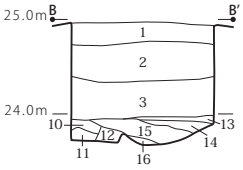
4 トレンチ



1　現表土
2　暗灰褐色土　ローム粒(1 ～ 5mm 大・微量)
3　暗黒褐色土　ローム粒(1 ～ 5mm 大・微量)
4　暗黒褐色土(3 より褐色味強い)　ロームブロック(5 ～ 10mm 大・微量)・焼土粒(1 ～ 5mm 大・微量)(009 号覆土)
5　暗黒褐色土(4 より褐色味強い)　ローム粒(1 ～ 5mm 大・少量だが均等)・焼土粒(1 ～ 5mm 大・微量)(012 号覆土)
6　暗褐色土　ロームブロック(5 ～ 10mm大・少量)(002 号覆土)

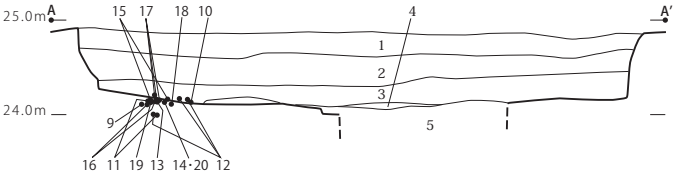
5 トレンチ





1　現表土
2　暗灰褐色土　ローム粒(1 ～ 5mm 大・少量)
3　暗黒褐色土(やや灰色味がかる)　ロームブロック(5 ～ 30mm 大・少量)
4　暗褐色土　ローム粒(1 ～ 5mm 大・少量だが均等)
5　暗褐色土　ロームブロック(ソフトローム化している。5 ～ 20mm 大・均等)。漸移層的
6　暗黒褐色土(やや褐色味がかる)　ロームブロック(5 ～ 10mm 大・少量)
7　暗黒褐色土(黒色味強い)　ロームブロック(5 ～ 8mm 大・少量)
8　暗黒褐色土　ロームブロック(5 ～ 40mm 大・均等)。埋め土と思われる
9　暗黒褐色土(黒色味がかる)　ロームブロック(5 ～ 10mm 大・微量)(021 号覆土)
10　暗黒褐色土(やや黒色味強い)　ロームブロック(5 ～ 10mm 大・少量)(025 号覆土)
11　暗黒褐色土　ロームブロック(ソフトローム化している。5 ～ 40mm 大・均等)(025 号覆土)
12　地山　ソフトローム
13　暗褐色土(やや灰色味がかる)　ロームブロック(5 ～ 10mm 大・微量)(025 号覆土)
14　暗褐色土(やや灰色味がかる)(025 号覆土)
15　暗褐色土　ロームブロック(5 ～ 20mm 大・微量)(025 号覆土)
16　暗褐色土　ロームブロック(5 ～ 30mm 大・均等)(025 号覆土)

6 トレンチ

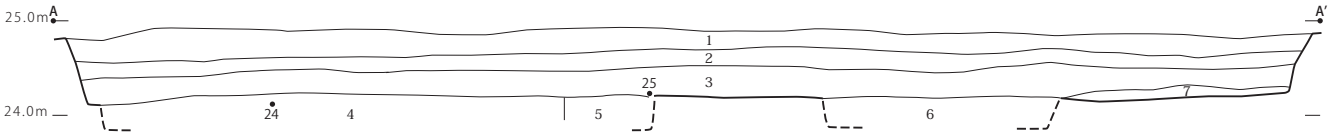


1　現表土
2　暗灰色褐色土　ローム粒(1 ～ 5mm 大・少量)
3　暗黒褐色土　ローム粒(1 ～ 5mm 大・少量)
4　暗黒色土
5　暗黒色土(やや褐色味がかる)(017 号覆土)

0　2m
(1／80)

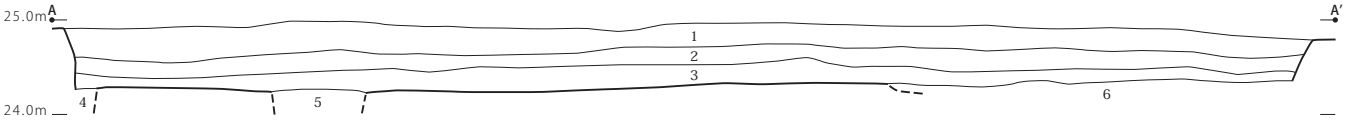
第10図　郡本遺跡群(第25次) 断面図(1)

7トレンチ



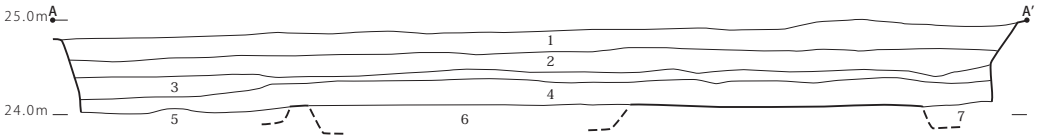
1　現表土
2　暗灰褐色土(褐色味強い)　ローム粒(1 ～ 5mm 大・少量だが均等)
3　暗黒褐色土(褐色味強い)　ローム粒(1 ～ 5mm 大・微量)
4　暗黒褐色土(褐色味がかる)　ロームブロック(5 ～ 20mm 大・少量)(014 号覆土)
5　暗褐色土　ロームブロック(ソフトローム化している。5 ～ 20mm 大・均等)。ローム漸移層的
6　暗褐色土　ローム粒(1 ～ 5mm 大・少量だが均等)(001 号覆土)
7　暗黒褐色土(3より褐色味強い)　ローム粒(1 ～ 5mm 大・少量だが均等)

8トレンチ



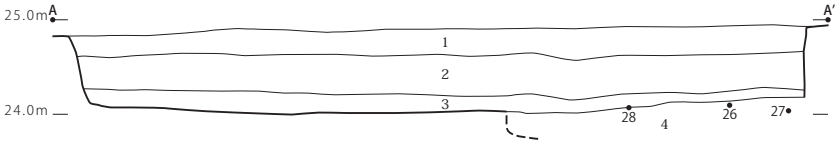
1　現表土
2　暗黒褐色土(やや灰色味がかる)　ローム粒(1 ～ 3mm 大・少量だが均等)
3　暗褐色土　ロームブロック(ソフトローム化している。10 ～ 50mm 大・少量)
4　暗黒褐色土　ローム粒(1 ～ 2mm 大・微量)。覆土は新しくない(015 号覆土)
5　暗黒褐色土　ローム粒(1 ～ 5mm 大・少量)。覆土は新しくない(023 号覆土)
6　暗黒褐色土(やや褐色味強い)　ロームブロック(ソフトローム化している。10 ～ 50mm 大・均等)・焼土・炭化物(1 ～ 5mm 大・微量)(005 号覆土)

9トレンチ



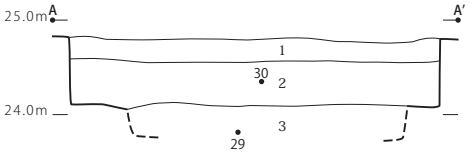
1　現表土
2　暗灰褐色土　上層に一部宝永火山灰が散る
3　暗褐色土　ローム粒(1 ～ 5mm 大・少量だが均等)
4　暗黒褐色土(褐色味強い)　ロームブロック(ローム粒状・10 ～ 40mm 大・下層を中心に均等)
5　暗褐色土(やや黒色味がかる)　ロームブロック(ローム粒状・10 ～ 30mm 大・少量だが均等)。しまりゆるい(003 号覆土)
6　暗黒褐色土(013 号覆土)
7　暗黒褐色土　ローム粒(1 ～ 5mm 大・微量)(011 号覆土)

10トレンチ

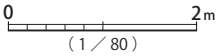


1　現表土
2　暗褐色土　ロームブロック(5 ～ 10mm 大・少量だが均等)
3　暗褐色土(2より褐色味強い)　ロームブロック(10 ～ 40mm 大・少量だが均等)
4　暗黒褐色土　ローム粒(1 ～ 5mm 大・少量)。しまりゆるい(006 号覆土)

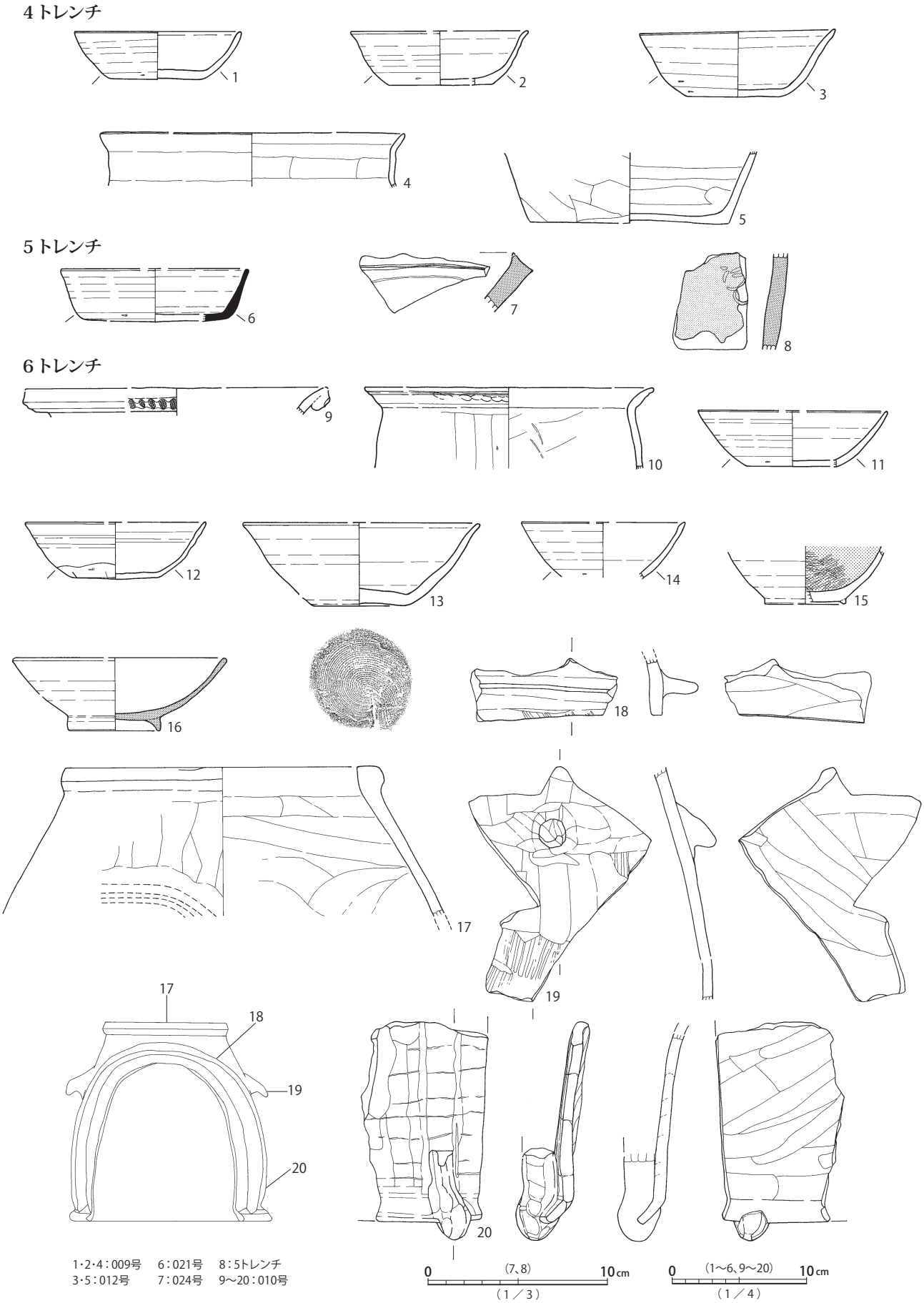
11トレンチ



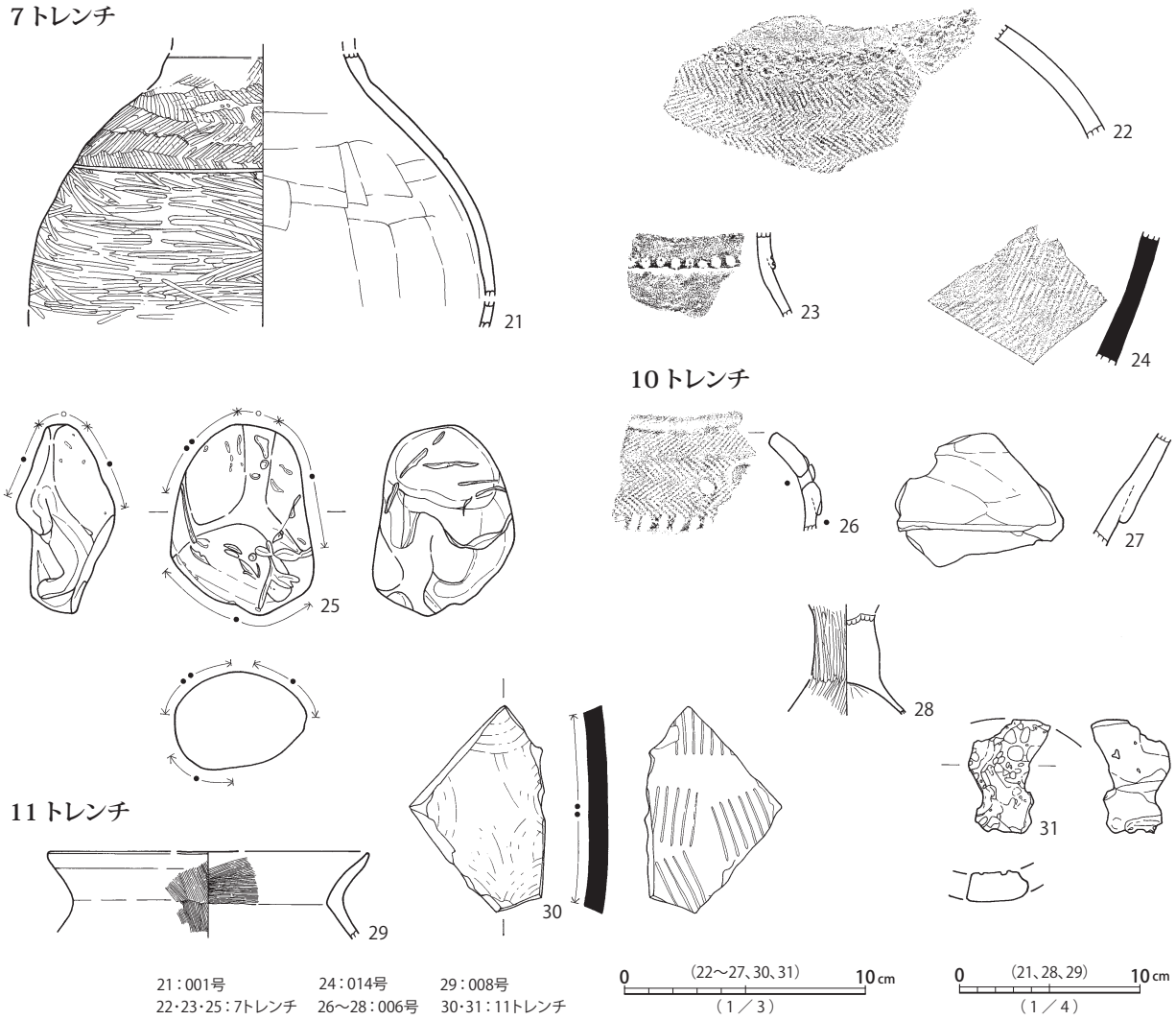
1　現表土
2　暗灰褐色土(やや灰色味がかる)　ロームブロック(5 ～ 20mm 大・少量だが均等)
3　暗黒褐色土　ロームブロック(5 ～ 10mm 大・少量)(008 号覆土)



第11図　郡本遺跡群(第25次) 断面図(2)



第12図　郡本遺跡群（第25次）出土遺物 実測図（1）



第13図　郡本遺跡群（第25次）出土遺物 実測図（2）

今回の調査では、縄文時代から中世までの断続的な土地利用が明らかになり、第18次調査区（忍澤2014）で推定された弥生時代遺構の存在を確認することができた。また、これまでの調査においても郡本遺跡群では奈良・平安時代の遺構・遺物が多く検出されている。010号土器集中地点から出土したK90型式の灰釉陶器椀（第12図16）の存在も、「貞観十七年」銘墨書土器や大量の施釉陶器の出土で知られる稲荷台遺跡に想定される公的施設に近接するという、本調査区の立地を反映したものと考えられる。書字文化の浸透を示す転用硯や、近隣で行われた鍛冶操業の所産と見られる椀形滓の出土も当時の社会環境の反映を示す可能性があるように思われる。

引用参考文献

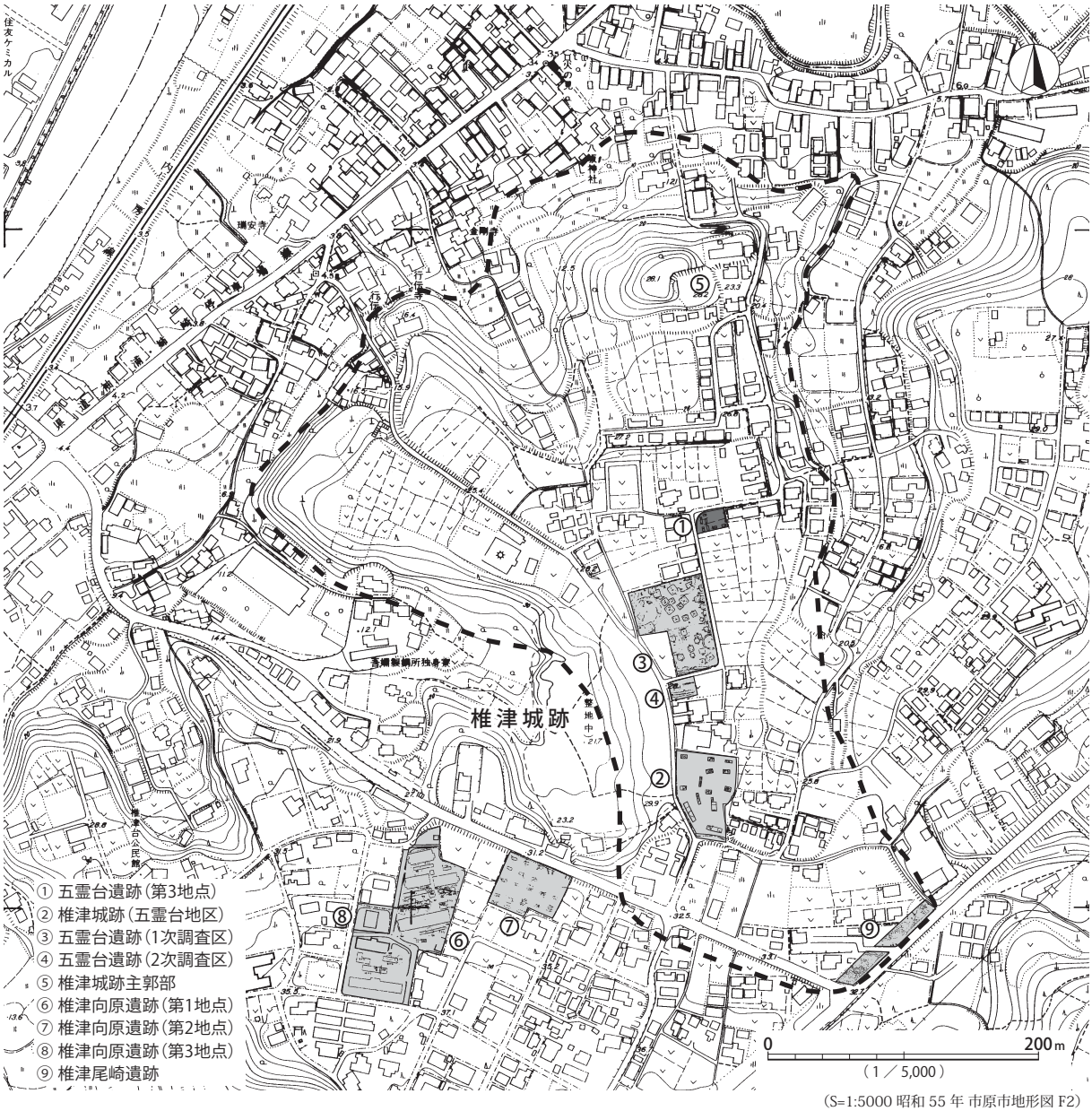
浅利幸一他 2003『市原市稲荷台遺跡』財団法人市原市文化財センター
小川浩一 2014「郡本遺跡群（第 21 次）」『平成 25 年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
忍澤成視 2014「郡本遺跡群（第 18 次）」『平成 25 年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
小橋健司・近藤　敏 2018「郡本遺跡群（第 23 次）」『平成 29 年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
田中清美 2015『市原市稲荷台遺跡 L1・L4 地点』市原市教育委員会

4　五霊台遺跡（第３地点）・椎津城跡

遺跡の位置　遺跡は、東京湾を北西に望む椎津川河口部の左岸台地上に立地する（第14図）。調査区は椎津城跡主郭の約200m南方、北に向かって緩やかに傾斜する標高約29mの平坦面に位置する。五霊台遺跡は１次調査区において古墳時代の居住域と円墳周溝群が検出され、２次調査区では、椎津城の南側境界に関わると見られる東西堀跡２条が検出されている（高橋1998）。

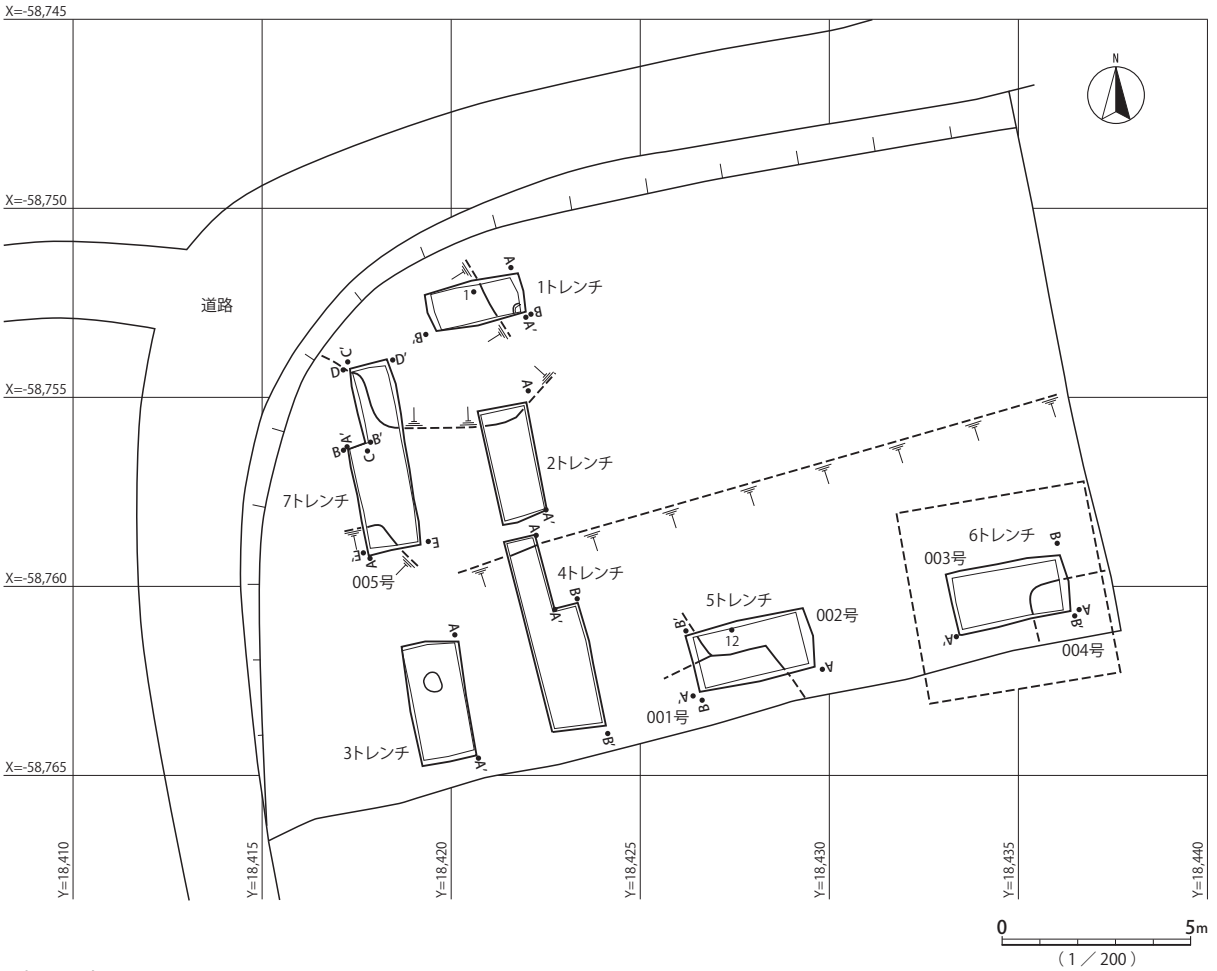
調査概要　調査では７本のトレンチを設定した（第15図）。トレンチごとに、遺構確認面となるローム層が検出される深度にばらつきが大きく、地山整形が疑われたため、掘り下げは慎重に実施した。浄化槽埋設予定範囲に設定した１トレンチにおいて、遺構の所在が明らかになったため、確認調査後、１トレンチのみ本調査を実施した。

遺構と遺物　１トレンチでは、２トレンチと７トレンチでその西端と南端を捉える大規模な土地改変

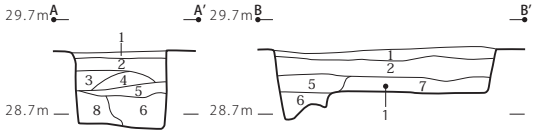


（S=1:5000 昭和 55 年 市原市地形図 F2）

第14図　五霊台遺跡（第3地点）・椎津城跡 周辺地形図

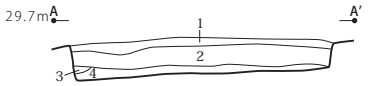


1トレンチ



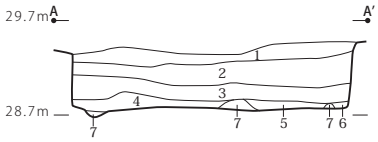
1　7.5YR3/2 黒褐色土～ 3/3 暗褐色土　現表土
2　7.5YR3/2 黒褐色土　ローム粒（1 ～ 3mm 大・少量）・焼土粒（1 ～ 3mm 大・少量）
3　7.5YR3/3 暗褐色土　ローム粒（1 ～ 3mm 大・少量）・焼土粒（1 ～ 3mm 大・少量）
4　7.5YR4/3 褐色土　ローム粒（1 ～ 3mm 大・少量）ロームブロック（10mm 大・少量）・焼土粒（1 ～ 3mm 大・少量）
5　7.5YR3/4 暗褐色土　ローム粒（1 ～ 5mm 大・やや多い）・焼土粒（1 ～ 3mm 大・少量）
6　7.5YR4/4 褐色土　ローム粒・ブロック（5 ～ 30mm 大・かなり多量）
7　7.5YR5/8 明褐色土　ソフトローム。地山。粘性強い
8　7.5YR5/8 明褐色土　ハードローム。粘性・しまり強い

2トレンチ



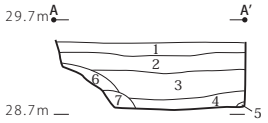
1　7.5YR3/2 黒褐色土～ 3/3 暗褐色土　現表土
2　7.5YR3/2 黒褐色土　ローム粒（1 ～ 3mm 大・均等）・焼土粒（1 ～ 3mm 大・少量）
3　7.5YR3/3 暗褐色土　ローム粒（1 ～ 3mm 大・やや多い）・ロームブロック（10mm 程度・少量）・焼土粒（1 ～ 3mm 大・少量）
4　7.5YR5/6 明褐色土　ソフトローム。地山

3トレンチ

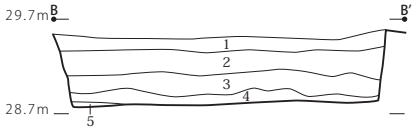


1　7.5YR3/2 黒褐色土～ 3/3 暗褐色土　現表土
2　7.5YR2/3 極暗褐色土　ローム粒（1 ～ 5mm 大・均等）・焼土粒（1 ～ 3mm 大・少量）
3　7.5YR3/3 暗褐色土　ローム粒（1 ～ 5mm 大・均等）・焼土粒（1 ～ 3mm 大・少量）
4　7.5YR3/4 暗褐色土　ローム粒（1 ～ 5mm 大・多量）・焼土粒（3 ～ 5mm 大・少量）
5　7.5YR4/4 褐色土　ローム粒・ブロック（1 ～ 10mm 大・多量）・焼土粒（1 ～ 3mm 大・少量）
6　7.5YR3/3 暗褐色土　ローム粒（1 ～ 3mm 大・多量）
7　7.5YR5/8 明褐色土　ハードローム。粘性・しまり強い

4トレンチ



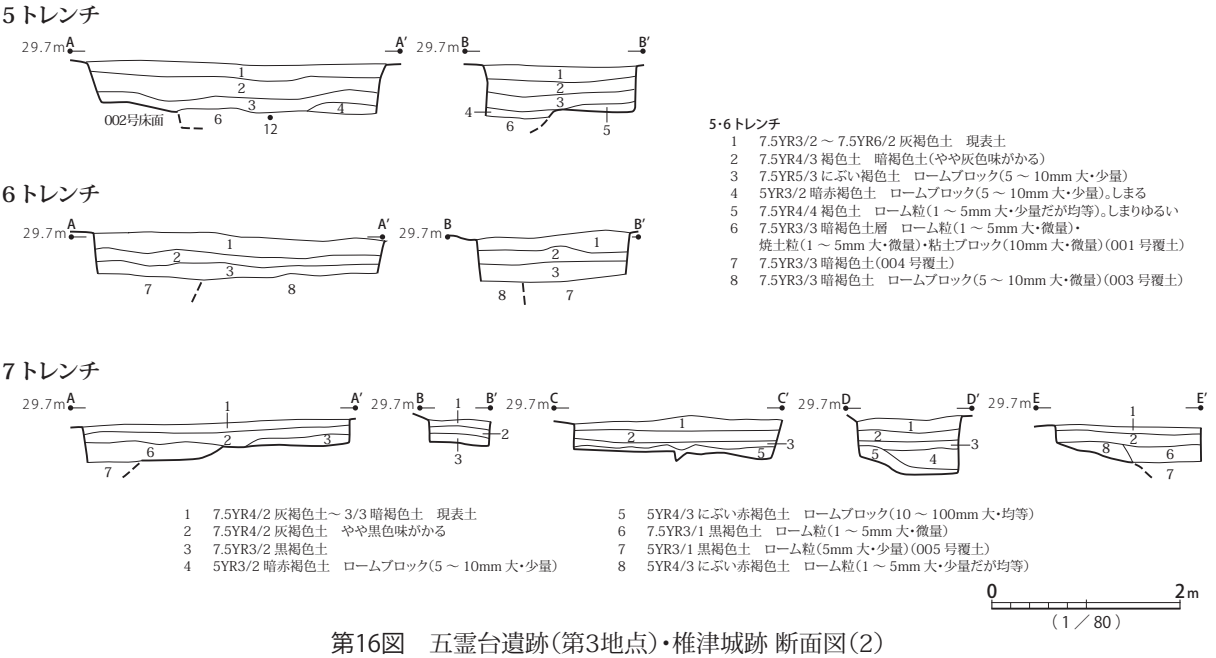
1　7.5YR3/2 黒褐色土～ 3/3 暗褐色土　現表土
2　7.5YR4/2 灰褐色土　ロームブロック（5 ～ 7mm 大・微量）。しまっている
3　7.5YR3/2 黒褐色土　ロームブロック（5 ～ 10mm 大・少量）
4　5YR3/2 暗赤褐色土　ロームブロック（5 ～ 30mm 大・少量だが均等）。しまりややゆるい
5　5YR4/3 にぶい赤褐色土　ロームブロック（10 ～ 40mm 大・多量）
6　7.5YR4/3 褐色土　ロームブロック（5 ～ 30mm 大・少量）
7　7.5YR4/4 褐色土　ロームブロック（5 ～ 20mm 大・均等）



1　7.5YR3/2 黒褐色土～ 3/3 暗褐色土　現表土
2　7.5YR2/3 極暗褐色土　ローム粒（1 ～ 5mm 大・均等）・焼土粒（1 ～ 3mm 大・少量）
3　7.5YR3/3 暗褐色土　ローム粒（1 ～ 5mm 大・多量）・焼土粒（1 ～ 3mm 大・少量）
4　7.5YR3/4 暗褐色土　ローム粒（3 ～ 5mm 大・多量）・焼土粒（1 ～ 3mm 大・少量）
5　7.5YR4/4 褐色土　ローム粒・ブロック（1 ～ 10mm 大・多量）・焼土粒（3 ～ 5mm 大・少量）

0　2m
（1／80）

第15図　五霊台遺跡（第3地点）・椎津城跡 平面図・断面図（1）



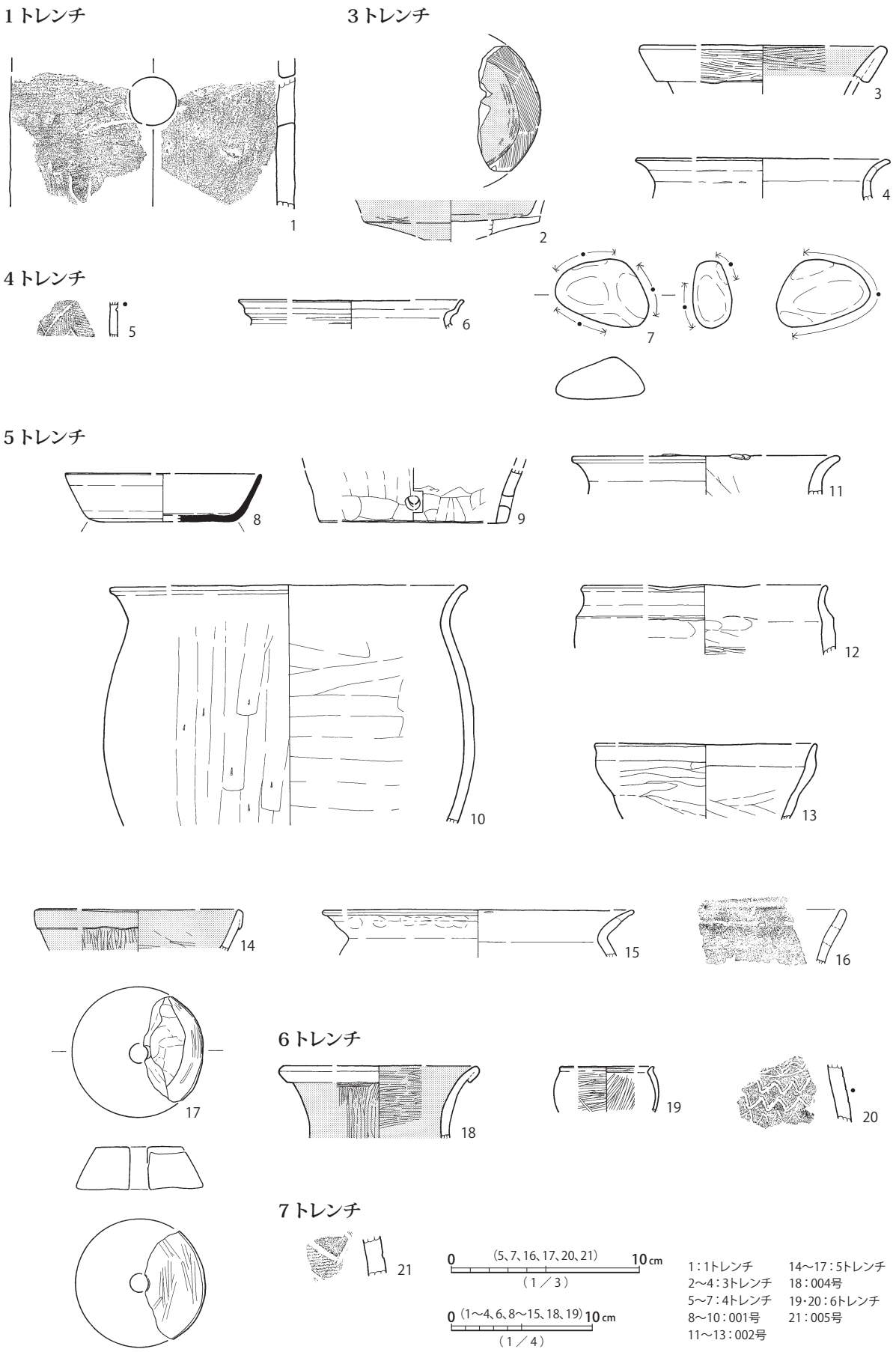
第16図　五霊台遺跡(第3地点)・椎津城跡 断面図(2)

の痕跡が検出された。椎津城跡に関連して行われた造成と考えられ、盛土層中に円筒埴輪片(第17図1)が検出されている。椎津城跡主郭部に存在が推定される外郭古墳由来の遺物と思われる。1トレンチ東部は造成を免れており、中世以前のピット1基が検出されている。2トレンチでは土地改変の痕跡が明瞭に認められるが、図示できる遺物は検出されなかった。2トレンチと平行する7トレンチは北端と南端で別の造成の痕跡を捕捉している。7トレンチ南端及び4トレンチの北端で捉えられた痕跡によって、当調査区の南側は大規模な造成を受けていることが明らかになり、層序から1・2・7トレンチ検出の整形痕は、この大規模改変後に行われたことが明らかになった。3トレンチでは中世と見られる土坑(柱穴か)が見つかったが、トレンチ内の上位層に焼土が多量に混じることから、後世の撹乱を受けている可能性がある。遺物は、結合器台形土器を含む古式土師器片等(2～4)が検出されている。4トレンチからは弥生土器壺形土器片、S字状口縁台付甕形土器口縁部片、磨石が出土した(5～7)。5トレンチでは奈良・平安時代の竪穴建物跡である001号・002号が検出されており、001号覆土が002号覆土を切るように見受けられる。6トレンチにおいても2棟の竪穴建物跡003号・004号を捕捉している。弥生時代終末期の003号を古墳時代の004号が掘り込んでいる。

今回検出された中世以前の遺構群は、椎津城跡に伴う造成を免れた部分的なものと思われるが、1次調査区で確認された集落跡の想定限界を北に広げる参考資料になると言える。

引用参考文献

小川浩一 2016「椎津向原遺跡第 3 地点 」『平成 27 年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
小高春雄 1999「椎津城跡」『市原の城』
近藤　敏 2016「椎津城跡」『平成 27 年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
櫻井敦史 1997「椎津尾崎遺跡」『市原市文化財センター年報(平成 6 年度)』財団法人市原市文化財センター
高橋康男 1998『椎津五霊台遺跡』財団法人市原市文化財センター
牧野光隆 2001「椎津正坊山遺跡」『平成 12 年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会



第17図　五霊台遺跡（第3地点）・椎津城跡 出土遺物 実測図

5　祭り野遺跡（第３地点）

遺跡の位置　遺跡は村田川の支流である神崎川右岸の、北西方向に張り出した標高44ｍ程度の舌状台地上に位置する（第18図）。周囲の台地上には弥生時代中期から古墳時代前期の居住域・墓域が集中している。本遺跡北側の広大な舌状台地上には、弥生時代後期から古墳時代前期の集落跡が確認された下鈴野遺跡（大村1987、土屋他2003）や、弥生時代中期から古墳時代前期の方形周溝墓群と居住域が検出された潤ヶ広遺跡（鶴岡他2006）が存在する。また、対岸の台地上には、弥生時代後期の竪穴建物跡が確認された東官台遺跡（高橋1994）が立地する。

遺跡の概要　祭り野遺跡は、昭和52年に一部が調査されている（第1地点）。その際、縄文時代の土坑、弥生時代終末期の竪穴建物跡１棟、古墳時代中期の竪穴建物跡３棟、古墳時代後期の竪穴建物跡３棟等が確認されている（祭り野遺跡・山王後１号墳発掘調査団1982）。また、平成28年度にも調査が行われ、弥生時代後期後半から終末期頃の竪穴建物跡が見つかっている（第２地点）。今回の調査区は第１地点からおよそ100ｍ南に位置している。調査区周辺の現状は人工林であり、開発予定区域のみ樹木を伐採して調査を行った。

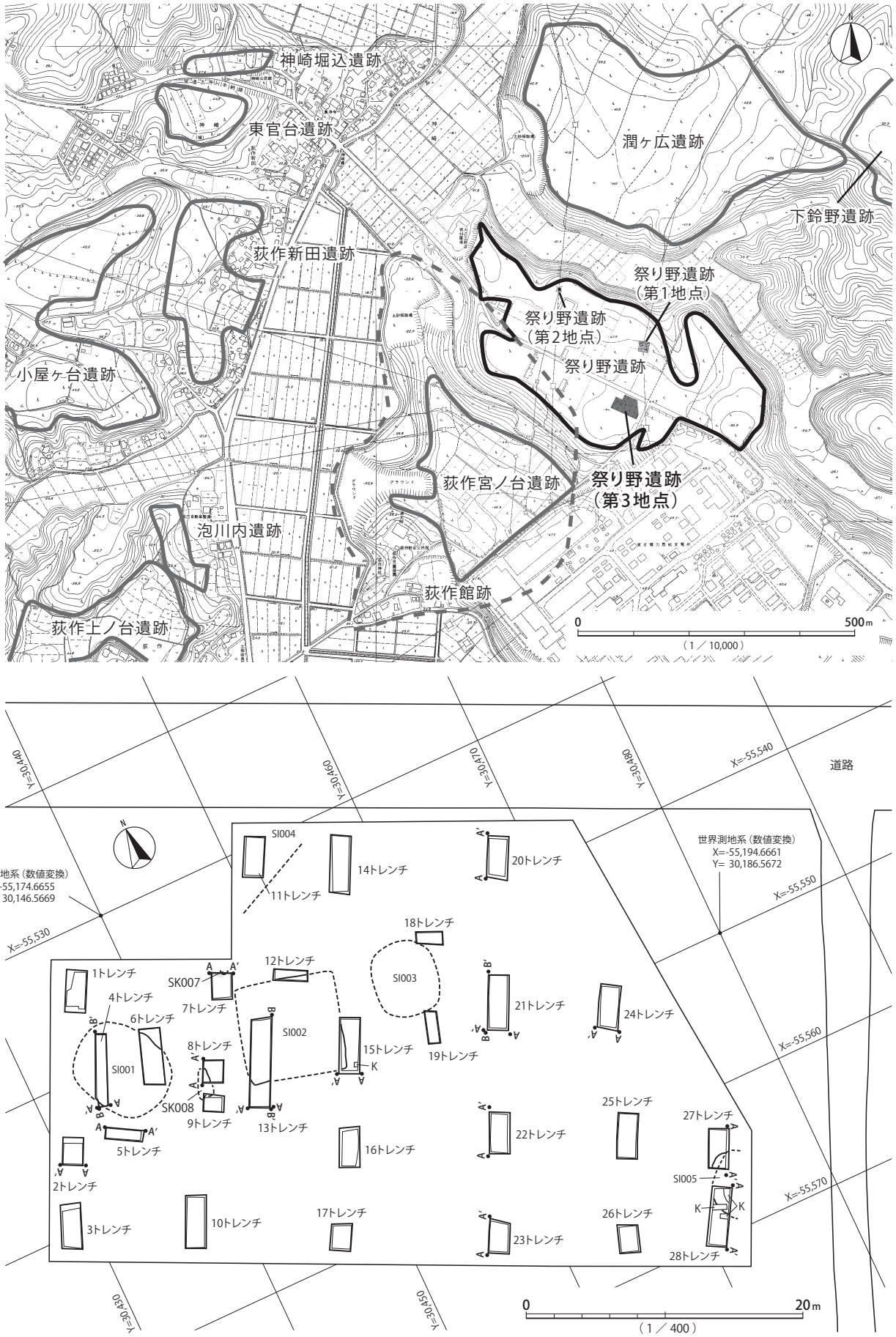
調査概要　調査は、太陽光発電所変電設備設置に伴い実施した確認調査で、対象面積1,198.5㎡の約10%、合計119.76㎡のトレンチ28箇所を設定した。伐採後の切株が多数並ぶ状態にあり、極力それらを避けて均等に配置した。遺構検出面は現地表下80cm前後のソフトローム層である。調査区域の地表面はほぼ平坦だが、地山は南西～南方向へ僅かに傾斜する。

遺構と遺物　遺構は、縄文時代の土坑１基、弥生時代終末期の竪穴建物跡２棟・土坑１基、古墳時代前期の竪穴建物跡２棟を確認した（第18・19図）。12・13・15トレンチで検出したSI002は焼失住居であり、覆土中に焼土粒と炭化物粒を多く含み、炭化材片も見られた。７トレンチのSK007においても、覆土中に多量の焼土粒子が見られる。いずれもソフトローム上層の暗褐色土層まで遺構の立ち上がりが確認できる。なお、遺構番号は本調査後に付与したものを表示している。

SI001・SI005からは中台式（大村2009）に比定される弥生土器が、SI002・SI004からはいずれも小片であるが草刈式（大村2009）に比定される古式土師器が出土している。

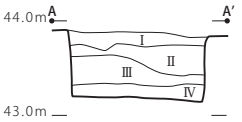
今回調査区は確認調査の結果を踏まえ、平成30年10月から12月まで本調査を実施した。詳細は本調査報告書（齊木2019）を参照されたい。

引用参考文献
大村　直 1987『下鈴野遺跡』財団法人市原市文化財センター
大村　直 2009「南中台遺跡と周辺遺跡の土器編年」『市原市南中台遺跡・荒久遺跡 A 地点』市原市教育委員会
齊木　誠 2019『市原市祭り野遺跡（第３地点）』市原市教育委員会
高橋康男 1994『平成５年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
土屋治雄他 2003『市原市下鈴野遺跡』財団法人千葉県文化財センター
鶴岡　健他 2006『市原市中潤ヶ広遺跡（上層）』財団法人千葉県教育振興財団
祭り野遺跡・山王後１号墳発掘調査団 1982『千葉県市原市潤井戸地区　祭り野遺跡・山王後１号墳』



第18図　祭り野遺跡（第3地点）周辺地形図・平面図

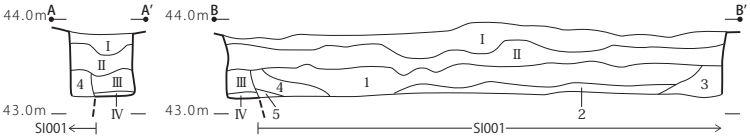
2トレンチ



基本層序

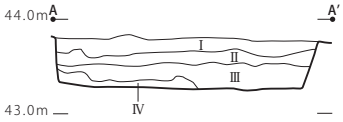
Ⅰ　7.5YR2/2 黒褐色土　しまり弱い。粘性弱い。有機物を含む。現表土
Ⅱ　7.5YR2/2 黒褐色土　しまりやや強い。粘性あり。ローム粒(小)、ローム粒(中)、焼土粒(小)少量
Ⅲ　7.5YR2/3 極暗褐色土　しまりやや強い。粘性あり。ローム粒(小)、焼土粒(小)微量
Ⅳ　7.5YR2/2 黒褐色土　しまり強い。粘性強い。ソフトローム層
Ⅴ　7.5YR2/3 極暗褐色土　しまる。粘性やや強い。ロームブロック(大)多量。耕作土

4トレンチ

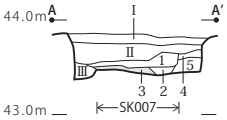


1　7.5YR3/4 暗褐色土　しまる。粘性あり。ローム粒(大)やや多い、ロームブロック(大)微量
2　7.5YR3/4 暗褐色土　しまる。粘性あり。ローム粒(大)やや少ない、焼土粒微量
3　7.5YR3/4 暗褐色土　しまる。粘性あり。ローム粒(大)やや多い
4　7.5YR3/3 暗褐色土　しまる。粘性あり。ローム粒(大)やや少ない、焼土粒微量、炭化粒微量
5　7.5YR4/4 褐色土　しまりやや強い。粘性やや強い。ローム粒極めて多量

5トレンチ

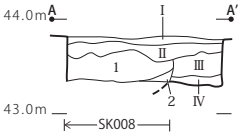


7トレンチ



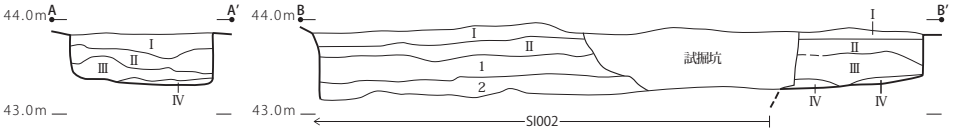
1　7.5YR3/4 暗褐色土　しまりやや強い。粘性あり。ローム粒やや多い、焼土粒少量
2　7.5YR3/4 暗褐色土　しまる。粘性あり。ローム粒(小)、焼土粒微量、ロームブロック(小)
3　5YR3/6 暗赤褐色土　しまり強い。粘性あり。焼土粒極めて多量、焼土層
4　7.5YR3/4 暗褐色土　しまりやや強い。粘性あり。ローム粒(小)多量、焼土粒微量、ロームブロック(小)多量
5　7.5YR4/3 褐色土　しまりやや強い。粘性やや強い。ローム粒極めて多量、ロームブロック(中)極めて多量、ロームブロック(大)極めて多量

8トレンチ

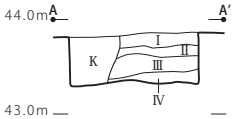


1　7.5YR3/4 暗褐色土　しまりやや強い。粘性やや強い。ローム粒多量、ロームブロック(小)多量、ロームブロック(中)多量
2　7.5YR3/4 暗褐色土　しまりやや強い。粘性やや強い。ローム粒多量

13トレンチ

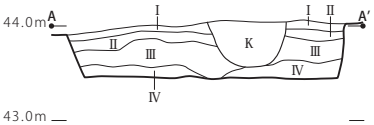


15トレンチ

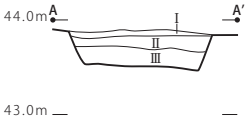


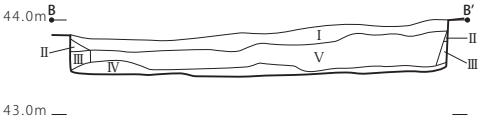
1　7.5YR3/4 暗褐色土　しまりやや弱い。粘性やや強い。ローム粒やや多い、ロームブロック(小)やや多い、焼土粒やや少ない
2　7.5YR3/4 暗褐色土　しまりやや弱い。粘性やや強い。ローム粒多量、ロームブロック(小)多量、ロームブロック(中)多量、ロームブロック(大)多量、焼土粒やや少ない

20トレンチ

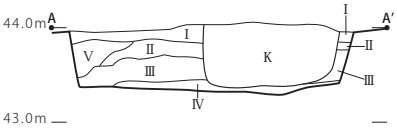


21トレンチ

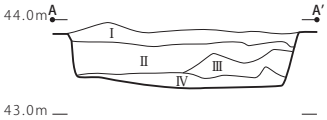




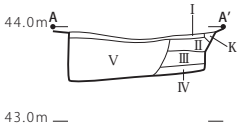
22トレンチ



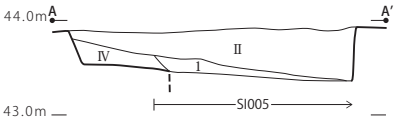
23トレンチ



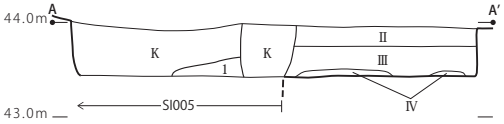
24トレンチ



27トレンチ



28トレンチ



27・28トレンチ

1　7.5YR3/4 暗褐色土　しまる。粘性あり。ローム粒多量、ロームブロック(小)やや多い

0　2m
(1／80)

第19図　祭り野遺跡(第3地点) 断面図

6　能満分区遺跡群（上小貝塚地区第５地点）

遺跡の位置　能満分区遺跡群は、市原台地の南東側に南北1.5kmほどにわたって広がる遺跡である。北端部には能満上小貝塚、南端部には能満分区貝塚が所在する（第20図）。

調査区は新田川と神崎川の開析谷に挟まれた、標高42m前後の台地上に位置し、隣接する市道よりやや低い地点にあたる。近隣では、北西約120m（第１地点：忍澤1989）、北に約100m（第３地点：忍澤1995）、南南西約200mの市道部分（第２地点：半田1990）、住宅部分（第４地点：近藤2017）において調査が行われている。

調査概要　調査は個人住宅建設に伴う確認調査で、10本のトレンチを設定した。今回調査区はイノシシ形土製品等の出土した平成６年度調査の第３地点からほど近く、遺構・遺物の分布状況が共通すると予測されたため、各トレンチとも第３地点調査で確認された縄文時代後期の遺物包含層の検出を図りながら掘り下げを進めた。

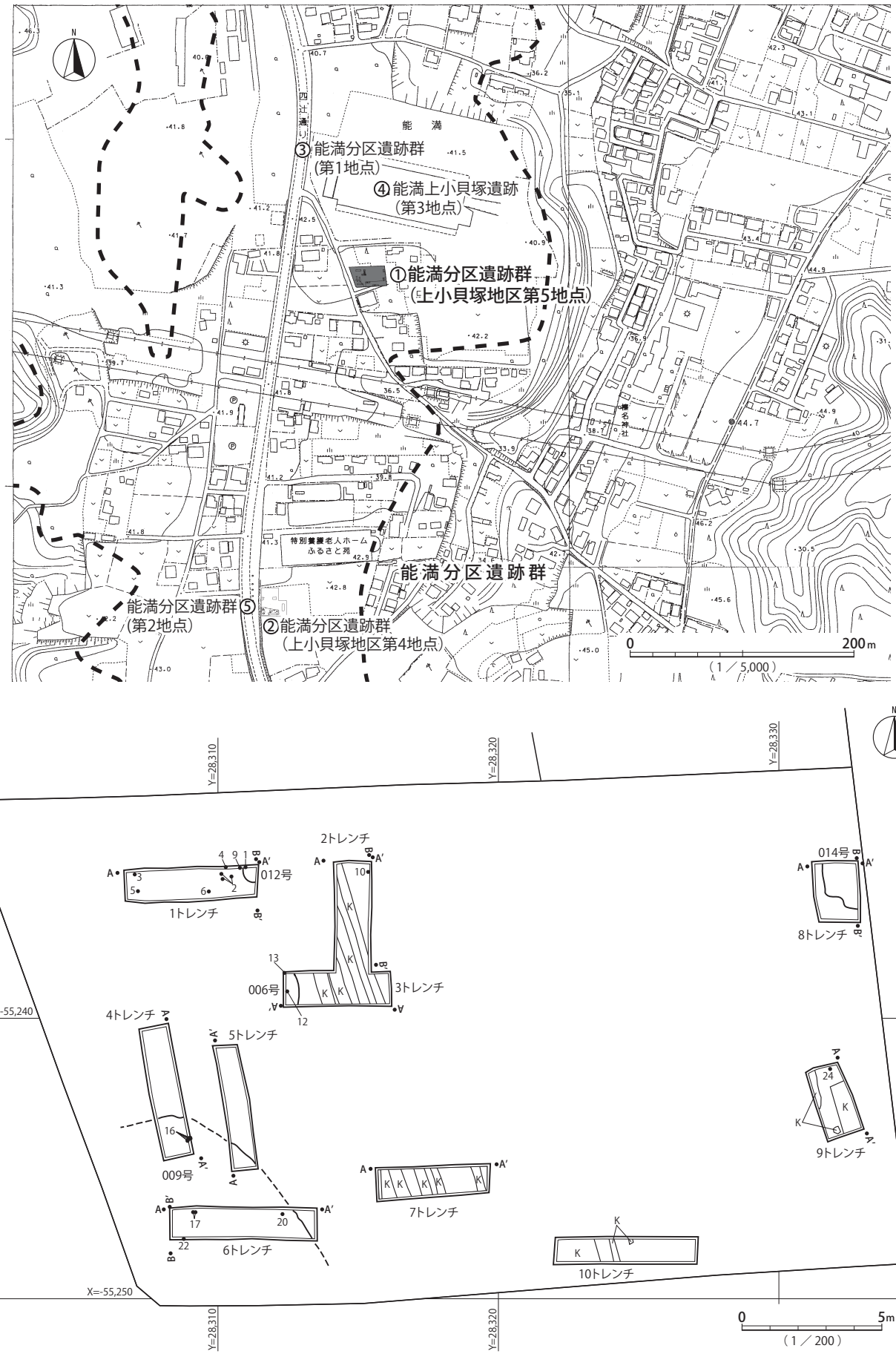
遺構と遺物　１トレンチ及び、4・5トレンチの北端において縄文時代遺物包含層を検出した。包含層は第３地点調査区寄りほど層厚があり、北西部に位置する１トレンチでは明確な土層として識別できるものの、南部トレンチでは確認できなくなる。１トレンチを中心に縄文後期を主体とする土器等が出土している（第22図）。

その他の遺構として、１トレンチは小竪穴状遺構012号、８トレンチは中世地下式坑014号が確認され、4・5・6トレンチにかけて弥生時代終末期の所産と見られる竪穴建物跡009号が検出された。2トレンチ及び3トレンチは、トレンチャー耕作によって深く撹乱されているが、縄文時代の小竪穴状遺構006号が検出された。

遺物については竪穴建物跡009号に伴うガラス小玉（第22図20）の出土が特筆される。

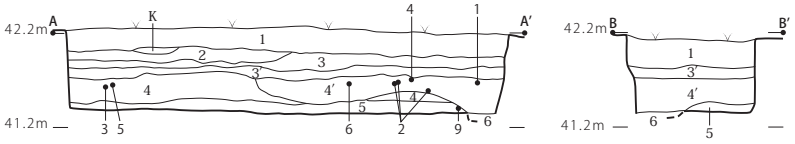
今回調査区の遺構・遺物は、第３地点調査で確認された様相に近いが、その密度は相対的に低く、東側の谷へ続く傾斜変換地点に立地することが影響していると思われる。

引用参考文献
忍澤成視 1989「能満分区遺跡群」『市原市文化財センター年報（平成元年度）』財団法人市原市文化財センター
忍澤成視 1995『市原市能満上小貝塚』財団法人市原市文化財センター
近藤　敏 2017「能満分区遺跡群（上小貝塚地区第４地点）」『平成 28 年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
半田堅三 1990「能満分区遺跡群」『市原市文化財センター年報（平成２年度）』財団法人市原市文化財センター



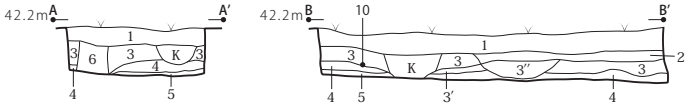
第20図　能満分区遺跡群（上小貝塚地区第5地点）周辺地形図・平面図

1 トレンチ



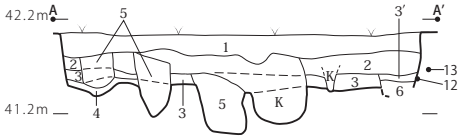
1　表土
2　暗褐色土(旧耕作土)
3　暗褐色土
3′　7.5YR2/3 極暗褐色土　粘性・しまりなし。粒子細かい。
「能満上小貝塚」1995 調査の 2a 層に相当(遺物包含層)
4　ローム漸移層(遺物包含層)
4′　ローム漸移層　4 層とほぼ同様だが、炭化物と
10YR4/4 褐色土(20mm 大)が混じる(遺物包含層)
5　ローム(地山)
6　7.5YR4/3 褐色土　粘性・しまりあり(012 号覆土)

2 トレンチ



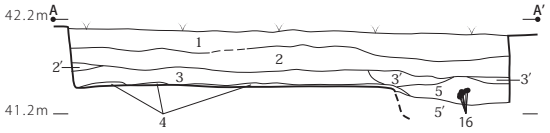
1　表土
2　暗褐色土(旧耕作土)
3　暗褐色土
3′　暗褐色土にロームブロック混じる。一部マーブル状に混じり、3 層に比べやや明るい
3″　暗褐色土　ローム土(30 ～ 40mm)が混じる
4　ローム漸移層
5　ローム(地山)
6　トレンチャー痕(撹乱)

3 トレンチ



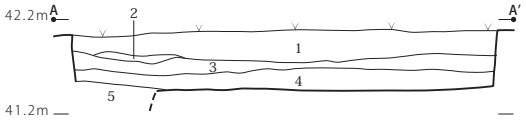
1　表土
2　暗褐色土(旧耕作土)
3　ローム漸移層
3′　4 層と 6 層の中間的様相
4　ローム(地山)
5　トレンチャー痕(撹乱)
6　7.5YR4/2 灰褐色土　7.5YR4/3 褐色土(30mm)がまばらに混じる(006 号覆土)

4 トレンチ



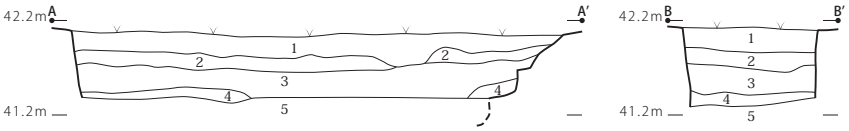
1　表土
2　暗褐色土(旧耕作土)
2′　暗褐色土　1995 調査 2a 層に相当
3　ローム漸移層
3′　ローム漸移層　ローム粒(3 ～ 4mm)を含む。3 層に比べややしまりがない
4　ローム(地山)
5　褐色土　ローム粒(10mm)多く、ロームブロック(20 ～ 30mm)がまばらに混じる(009 号覆土)
5′　5YR3/3 暗赤褐色土　炭化物含む。焼土粒やや多い。粘性・しまりあり(009 号覆土)

5 トレンチ



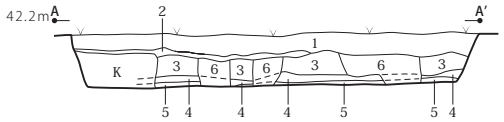
1　表土
2　旧耕作土
3　7.5YR3/3 暗褐色土　粘性・しまりややある。下部やや明るい
4　ローム漸移層　7.5YR3/3 暗褐色～ 7.5YR4/3 褐色に漸移。粘性あり、しまりややある
5　7.5YR4/3 褐色土　7.5YR5/8 明褐色のブロック(10mm 大)がまばらに混じる。粘性・しまりあり(009 号覆土)

6 トレンチ



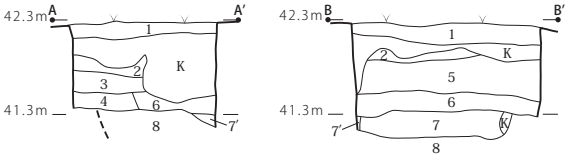
1　表土
2　旧耕作土
3　7.5YR3/2 黒褐色土　7.5YR4/6 褐色のスコリア
(10 ～ 20mm)を下部に多く含む。粘性あり、しまりややなし
4　7.5YR2/3 極暗褐色土　7.5YR4/6 褐色のスコリア
(7 ～ 8mm)を含む。粘性・しまりややあり
5　7.5YR3/3 暗褐色土　粒子細かい。明褐色のローム粒
(4 ～ 20mm)を多く含む。粘性・しまりややなし。(009 号覆土)

7 トレンチ



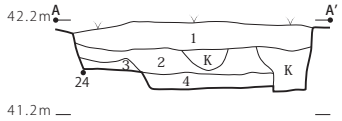
1　表土
2　旧耕作土
3　7.5YR3/2 黒褐色土　粘性なし、しまりあり
4　ローム漸移層　7.5YR4/3 褐色　明褐色土にマーブル状に暗褐色土が混じる。粘性なし、しまりあり
5　ソフトローム(地山)
6　トレンチャー痕(撹乱)　7.5YR3/2 黒褐色土　粒子細かく、粘性・しまりなし

8 トレンチ



1　表土
2　旧耕作土
3　7.5YR3/4 暗褐色土　マーブル状に、2 割ほどの比率で 7.5YR4/4 褐色土 (ローム) が混じる
4　ローム漸移層　7.5YR4/3 褐色　粘性ややあり、しまりややなし
5　黒褐色土　7.5YR5/8 明褐色のローム粒(5 ～ 10mm)を多量に含む。粘性ややあり、しまりあり
6　7.5YR3/4 暗褐色土　粒子粗い。7.5YR5/8 明褐色のローム粒(1 ～ 4mm)を多量に含む。
粘性・しまりなし
7　7.5YR4/6 褐色土　ローム主体。粘性あり、しまり強い(014 号覆土)
7′　粒子の粗い 7.5YR3/4 暗褐色土が多く混じる。8 層よりしまりがない(014 号覆土)
8　7.5YR4/4 褐色土　一部 7.5YR3/4 暗褐色土(約 50mm)が混じる。粘性あり、しまりややなし。
粒子粗い(014 号覆土)

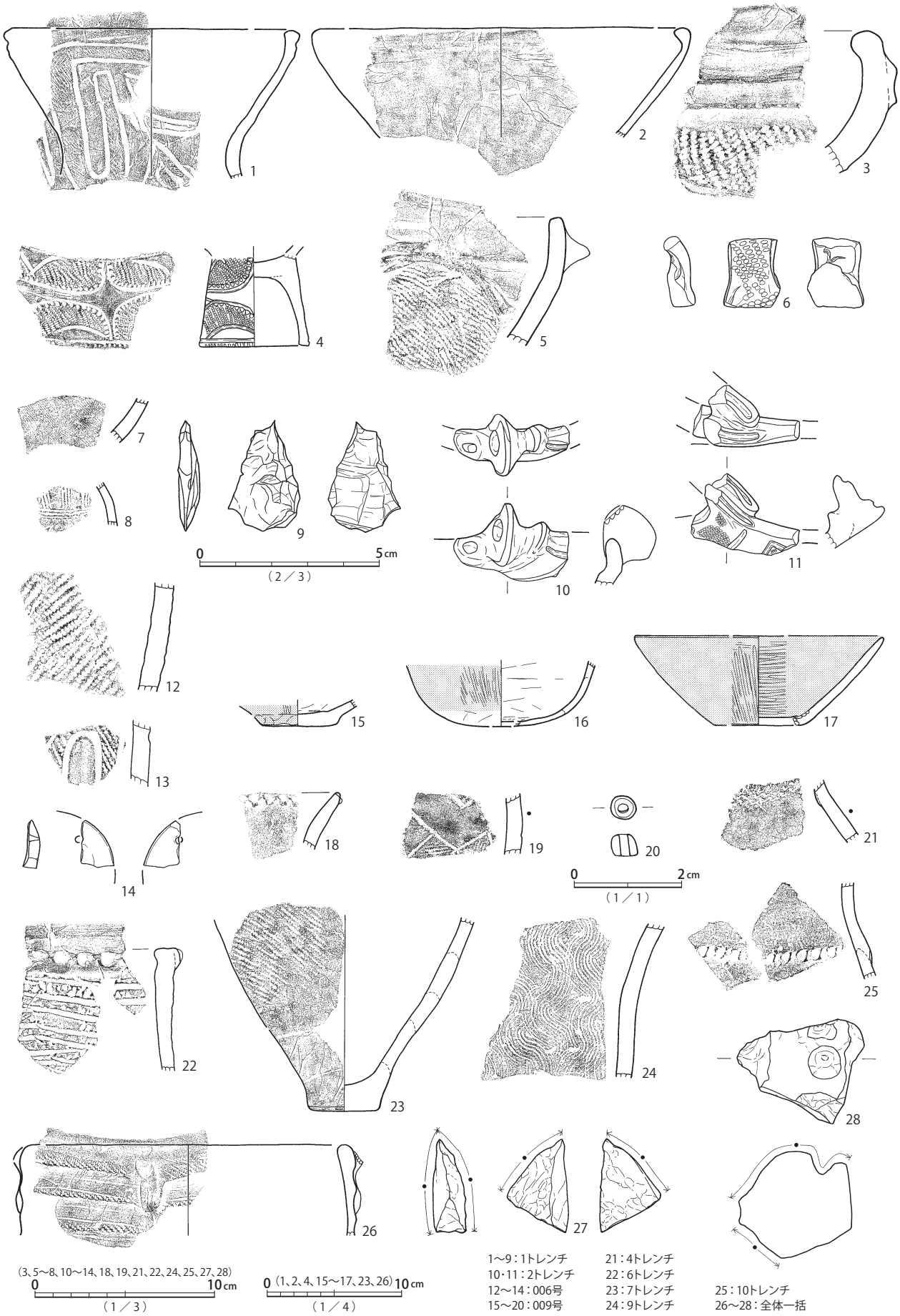
9 トレンチ



1　表土
2　旧耕作土
3　ローム漸移層　7.5YR3/4 暗褐色　粘性あり、しまりなし
4　撹乱　7.5YR3/3 暗褐色土　粘性ややあり、しまりなし。粒子粗い

0　2m
(1 ／ 80)

第21図　能満分区遺跡群(上小貝塚地区第5地点) 断面図



第22図　能満分区遺跡群（上小貝塚地区第5地点）出土遺物 実測図

7　南岩崎遺跡群（寺後地区）

遺跡の位置　遺跡は、本市をほぼ南北に縦貫する養老川の中流域左岸を望む標高35ｍ前後の台地上に位置する（第23図）。

本遺跡が所在する台地は、養老川が形成した沖積平野に面して、南北に延びる地形を呈する。

東側は、養老川及び支流である西国吉川が流れ、西側は、養老川の支流である戸田川が北に向かって流れている。

南岩崎遺跡群は本台地の広範囲に及び、北端部を中心に西国吉砦が重複する。西国吉砦については、砦跡の内容は判然としていない。

南西約0.4kmには、平成11～14年度に調査が行われた南岩崎遺跡群（塚越地区）があり、弥生時代中期後半（宮ノ台式期）と古墳時代中期に盛期を持つ集落跡が検出されている。

弥生時代中期には環濠集落が形成されたと考えられており、周囲に環濠域が展開しているものと想定される。

また、本台地状地形の東西縁辺部と周辺平坦面には円墳を中心とする吉野古墳群が展開する。群中には近辺の中心的な古墳と位置付けられる全長約45mの前方後円墳、吉野１号墳が存在しており、市指定史跡となっている。

南西約1.2kmにおいては、西側縁辺部に展開する後期と考えられる円墳群の周溝確認が行われ、須恵器の杯や高杯の脚部等が出土している。

周辺では西方約0.8kmに、分断された台地上において、報恩寺古墳群の中核と考えられる３号墳の調査が行われ、後期と考えられる前方後円墳の周溝確認等が行われた。

本遺跡が立地する台地状地形は、河岸段丘面であり、いわゆるローム土は流失してしまって存在せず、その下層部分にあたる黄灰色粘土質シルトが、遺構確認面となった。

調査区の北西に隣接して、円墳である吉野古墳群の３号墳が存在しており、今回の調査ではその周溝範囲の把握も期待された。

調査概要　今回は、個人住宅の建設に先立って確認調査が行われ、調査対象面積458.91㎡に対し、６本のトレンチ計46.0㎡を設定した（第24図）。

その結果、調査前に建てられていた旧家屋に伴う撹乱が著しく、２～６トレンチからは遺構が確認されなかったが、１トレンチにおいて竪穴建物跡１棟を検出した。

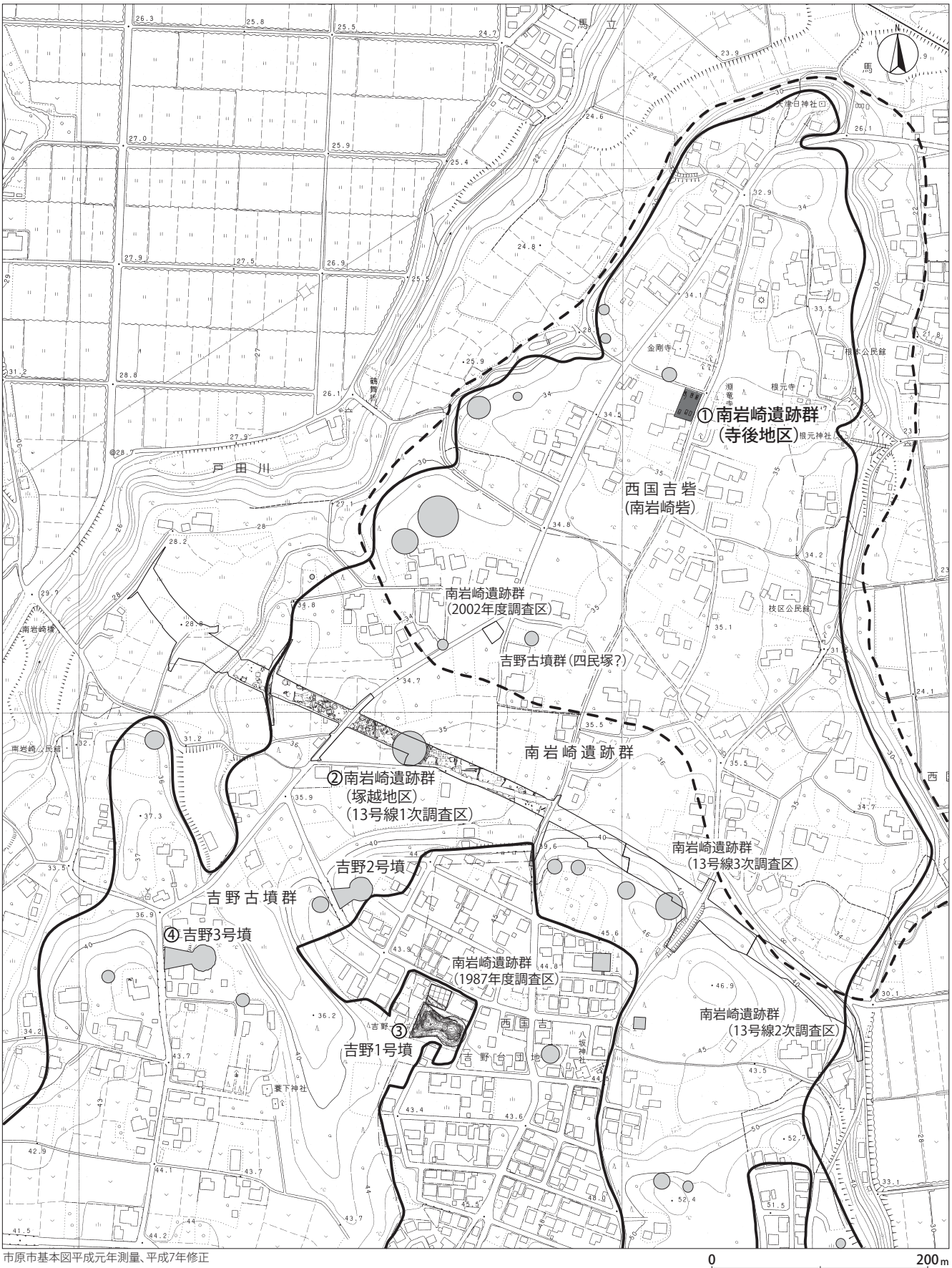
遺構と遺物　１トレンチで確認された竪穴建物跡１棟は、プラン北側中央部付近を検出したものと考えられ、西側部分の多くは、調査区外に展開しているものと考えられる。

遺構は床面付近のみの残存のため、確認された遺構の平面形はやや不明瞭で、辺が弧状を呈していた。遺構覆土の遺存状態が悪く、0.1m程度の深さで床面に達すると考えられる。

覆土は、黒色味の強い暗黒褐色土を基本とし、黄褐色のシルト質粘土ブロックを均等に混入する。帰属時期は、弥生時代終末期～古墳時代初頭を中心とすると考えられる。

１トレンチ内の北側において、溝状の落ち込みを確認したが、傾斜が緩やかであり、出土遺物も皆無であることから、古墳の周溝とは積極的に判断できなかった。

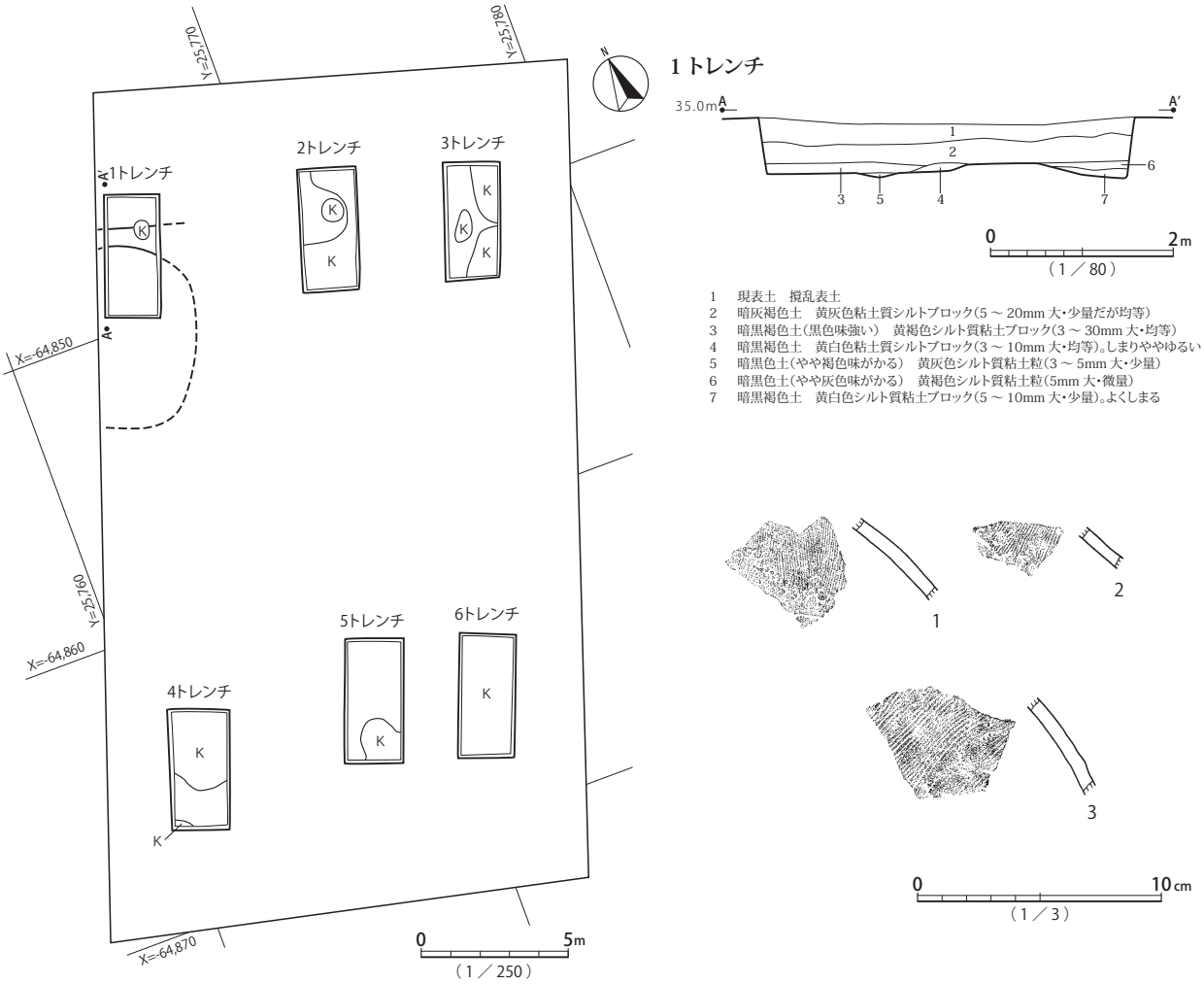
３トレンチにおいては、近現代の撹乱の下部に方形状の掘り込みを確認したが、覆土は暗黒灰色



市原市基本図平成元年測量、平成7年修正

0　200m
（1／5,000）

第23図　南岩崎遺跡群（寺後地区）周辺地形図



第24図　南岩崎遺跡群（寺後地区）平面図・断面図・出土遺物 実測図

土を基本とし、出土遺物は近世に帰属するものに限られ、江戸期の土坑と考えられる。

遺物の出土は僅少で図示できる遺物の出土はほとんどなかった。第24図1～3は1トレンチで出土した土器片で、いずれも外面にハケメを有する土師器甕形土器の胴部片である。確認された遺構の平面形から推定される時期に比べ、出土遺物は新相の印象を受ける。

引用参考文献

大村　直他 2006『市原市南岩崎遺跡』市原市教育委員会
小川浩一 2002「南岩崎遺跡」『平成 13 年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会
小川浩一 2008「南岩崎仲山遺跡（第 3 次）」『平成 19 年度市原市内遺跡発掘調査報告』市原市教育委員会

8　海保供養塚群（海保大塚・三山塚）物理探査報告書

東京工業大学　亀井研究室

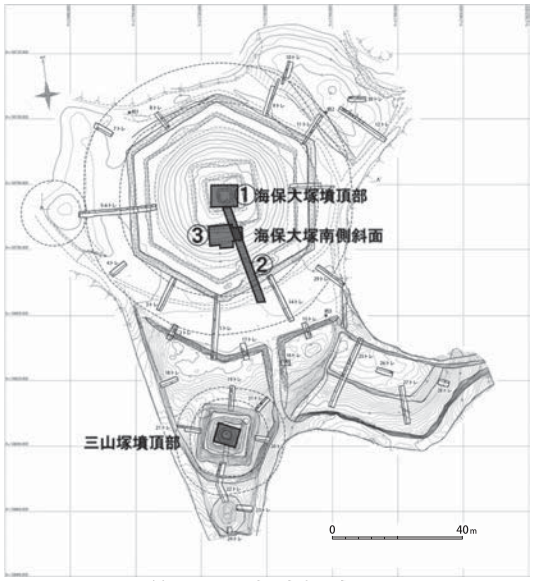
探査概要

埋葬主体の有無の確認と墳丘構造の確認のために地中レーダ探査と磁気探査を実施した。

探査場所：千葉県市原市海保供養塚群（第25図）

探査日時：2018年2月24、25日

探査機材：Sensor&Software社製pulseEKKO pro（250MHzアンテナ）地中レーダ、GEOMETRICS社製G-858 MagMapper セシウム磁力計



第25図　探査領域

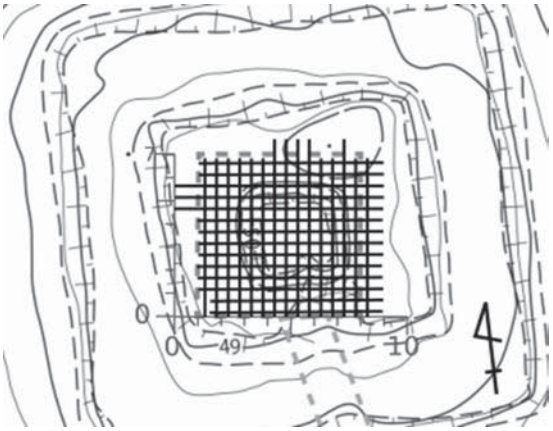
レーダ探査

レーダの反射時間から深度に変換するにあたり、国内の平均的な電波伝播速度0.07m/nsの値を用いる。

（ア）海保大塚（海保大塚古墳）

① 墳頂部

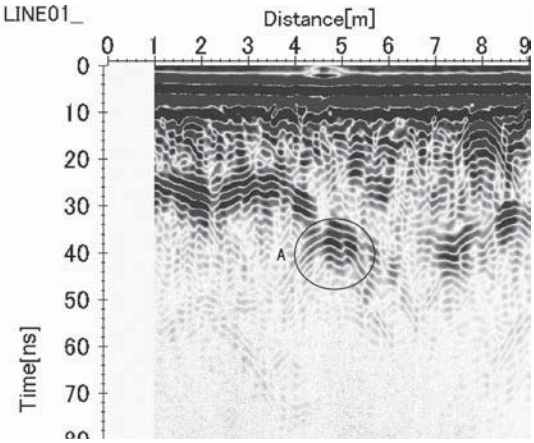
埋葬主体の有無を確認するため、第25図①に示すように、海保大塚の墳頂部で地中レーダ探査を実施した。測線配置を第26図に示す。南北7m×東西9mの領域を東西と南北に測線間隔0.5mでレーダアンテナを走査させた。この領域の中央には高さ0.7mほどのマウンドが存在する。



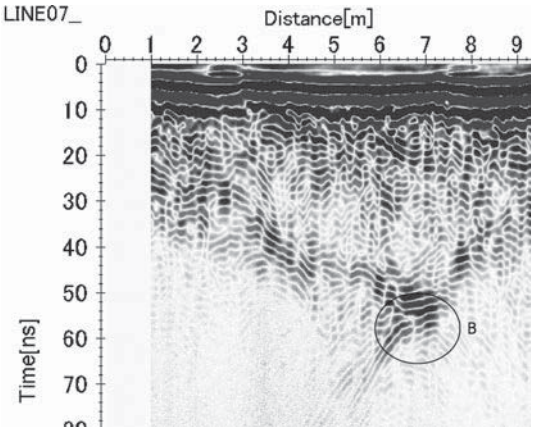
第26図　海保大塚墳頂部測線配置図

西から東へ走った測線のレーダプロファイルの一部を第27・28図に示す。第27図は、北端から0.5mの位置でマウンドの裾を走っており、第28図は、北端から3.5mの位置で、マウンドの上を横切るように走っている。第27図では西端から東へ1～4mにわたって深さ25nsに層状の反射が見られる。さらに東に進むとこの反射は次第に深くなっていくように見えるが、これは、マウンドの裾にレーダアンテナが乗り上げているため見かけ上深くなって表れているだけであり、実際は水平な広がりを捉えていると考えられる。同様のことが第28図についても言える。西端から1～3mにわたって深さ25nsの位置に見える層状の反射が、さらに東では深い位置（45ns）に沈み込んで見える。その差は約70cmであり、地形図に見えるマウンドの高さとおおよそ一致する。このような反射が全ての測線で見られたことから、墳丘最上段から約1.5m下に面が広がっていることが考えられる。探査領域内に存在する最上段のマウンドとその下の段の境界面はレーダで捉えることができず、一体となっていると考えられる。

第27図のAのようにマウンドから外れた測線の西端から5mの深さ35nsあたりに孤立の反射が見



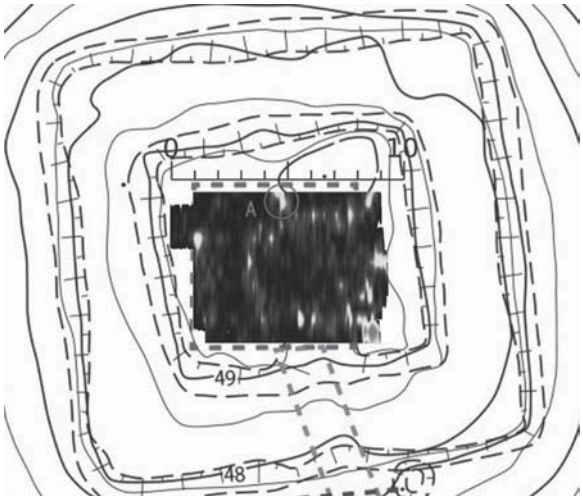
第27図　北端から0.5mのレーダプロファイル



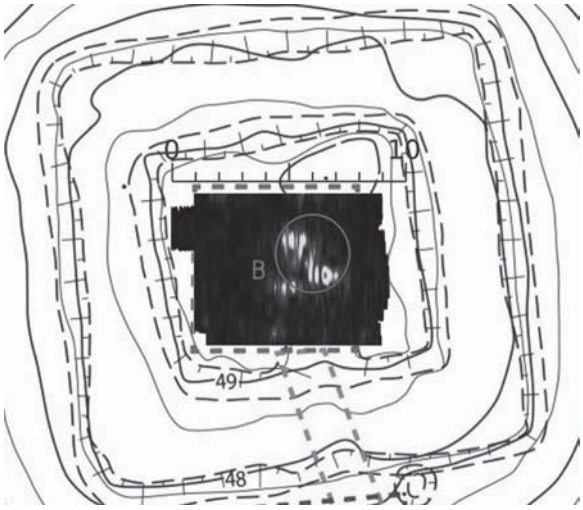
第28図　北端から3.5mのレーダプロファイル

られ、第28図のBのようにマウンドの下の西端から7mの深さ50nsあたりに孤立の反射が見られた。いずれも、先程述べた下面の段の直下に存在している。これらの反射が見られた深さで切り出した平面図（タイムスライス図）が第29図と第30図である。

反射Bは南北に3mほど続いており、その延長線上に反射Aが存在している。反射Aと反射Bが見られた反射時間の差と地形を考慮すると、これらは連続した反応と考えられ、南北に連続した長さ4mほどの埋葬主体を捉えているのかもしれない。



第29図　海保大塚墳頂部35nsのタイムスライス図

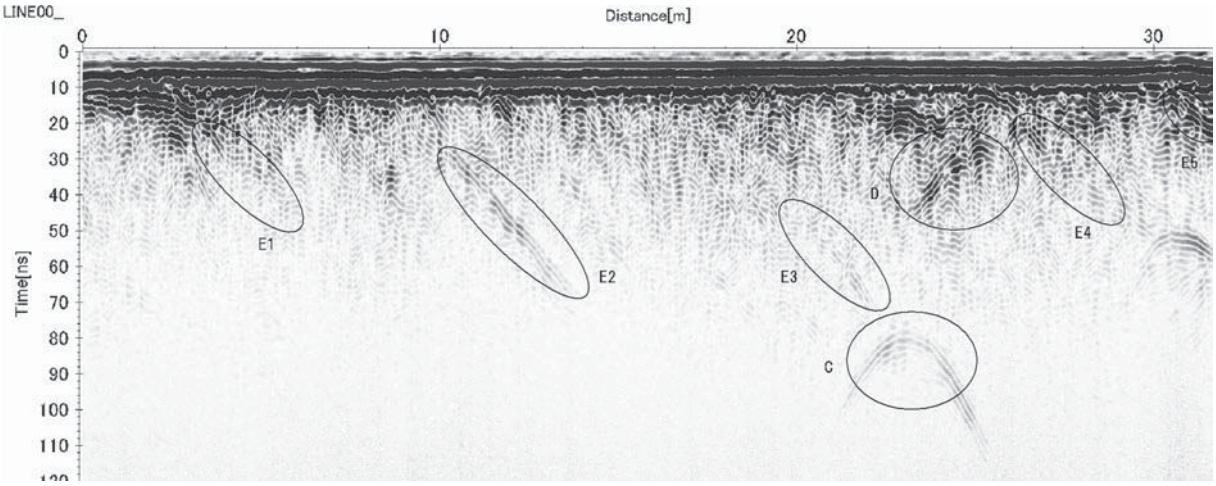


第30図　海保大塚墳頂部50nsのタイムスライス図

② 南側斜面

第25図②に示すように、墳丘裾から墳頂にむかって30mほどレーダアンテナを4本走査させた。最西端の測線のレーダプロファイルを第31図に示す。裾からおよそ20m、深さ80nsの位置に孤立物体を表す典型的な双曲線状の反射Cが見られた。また、裾から25m、深さ20～30nsの位置に深さが少しずつ上っていくような途切れ途切れの反射Dが見られた。これは階段のような形状の構造物であると考えられる。さらに、裾から墳頂に向かって深くなっていくような5つの反射E1～5が見られた。斜面であることを考慮すると、これらの反射は水平方向に広がる面を捉えていると考えられ、墳丘の段構造を示すものであると考えられる。E1は地山と墳丘の境目であり、その上に5段の段築

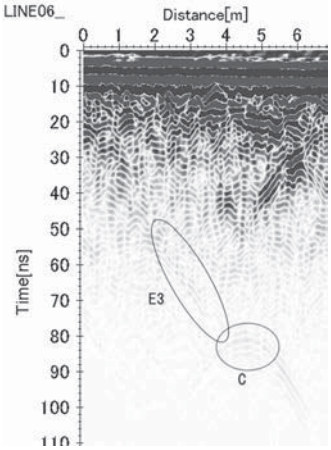
が確認できる。①で確認できた墳丘最上段から1.5m下の面は、反射E5の示す面につながっていると考えられる。



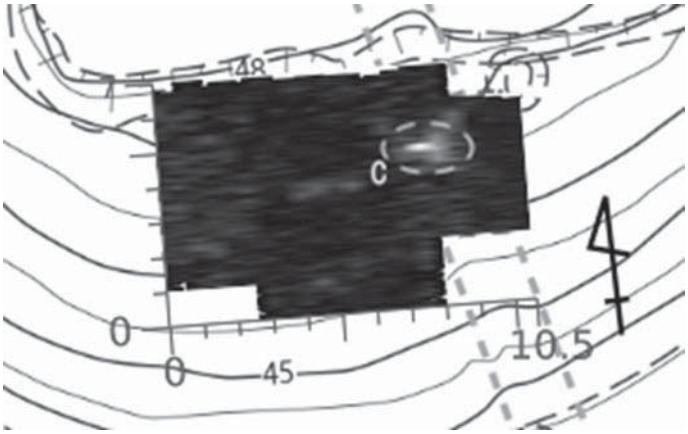
第31図　②南側斜面レーダプロファイル

③ 南側斜面

領域②で見られた反射Cを面的に調査するため、第25図③に示すように、南北7m×東西10.5mの領域を測線間隔0.5mで20本、斜面を下から上へ登る向き（南から北へ）でレーダ探査を行った。その一例として西端から7.5mの測線のレーダプロファイルを第32図に示す。第31図で確認された反射Cがこの測線の前後3本の測線において見られた。反射Cの広がりを示す80nsでのタイムスライス図を第33図に示す。東西に長さ1mほどの反射が続いているのが確認できる。また、第31図で見えた反射E3が本領域でも第32図に示すように、すべての測線で50nsから80nsあたりにわたって見られた。これは南側から北に向かって斜面を登るようにして計測しているため、地形を考慮すると水平方向に続いていると考えられる。さらに、Cの反応を示す物体は水平方向の反射E3のすぐ上に存在することが見て取れる。このことから、墳丘の段が埋まっていること、埋没している段築面の少し上に東西に長さ1mほどの細長い物体が存在することが推定される。



第32図　西端から7.5mのレーダプロファイル



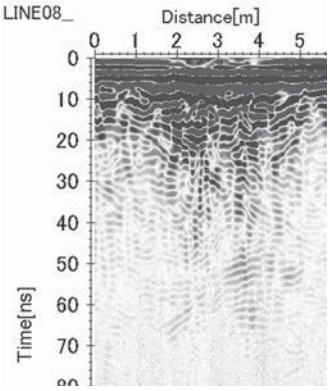
第33図　③海保大塚南側斜面80nsにおけるタイムスライス図

（イ）三山塚（海保三山塚古墳）

第25図に示すように、墳頂部の南北5.5m×東西6.5mの領域を測線間隔0.5mで南北方向と東西方向にグリッドを切るような測線配置でレーダ探査を実施した。この領域の中央には高さ約0.5m程度

のマウンドが存在する。

第34図に西端から2.5mをマウンドの上を含めて南から北に走った測線のレーダプロファイルを示す。南端から2～4mの位置にマウンドがあり、その直下でレーダプロファイルに乱反射が確認できる。埋葬に関する反応は確認できなかった。



第34図　西端から2.5mのレーダプロファイル

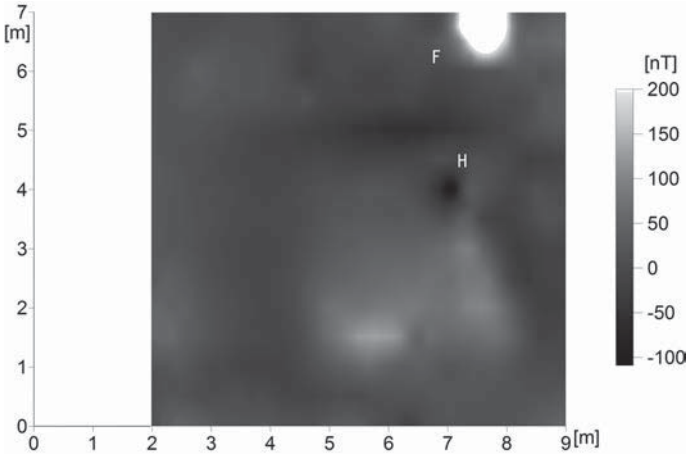
磁気探査

（ア）海保大塚（海保大塚古墳）

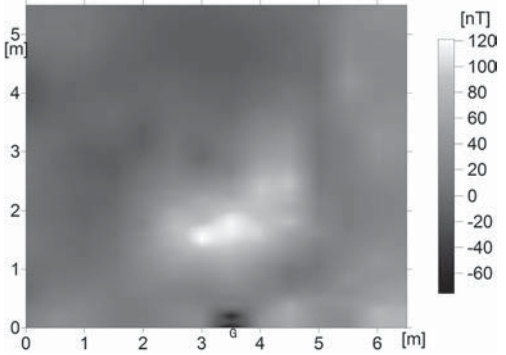
墳頂部（領域①）において、レーダ探査を実施した領域と同じ場所を原点として、東から西へ測線間隔0.5mで磁気探査を行った。結果を第35図に示す。マウンド部分が反応しており、マウンドの土の磁化率が高いことが推測される。北側に見られる磁気異常Fは探査領域北方に設置されている三角点の影響であると考えられる。磁気異常Hは地中レーダ探査で確認された埋葬主体らしきものの位置と重なる位置に見られるが、反応のピークが鋭いため、浅い位置にあるものの反応であると考えられる。

（イ）三山塚（海保三山塚古墳）

墳頂部において、レーダ探査を実施した領域と同じ南西角を原点として、南から北へ測線間隔0.5mで磁気探査を行った。結果を第36図に示す。海保大塚古墳と同様にマウンド部分が反応しており、マウンドの土の磁化率が高いことが推測される。南側に見られる磁気異常Gは、反応のピークが鋭いため、埋蔵物ではなく浅い位置にあるものの反応であると考えられ、測量杭の釘がこの付近に存在したため、その影響であると考えられる。



第35図　海保大塚墳頂部磁気探査結果



第36図　三山塚墳頂部磁気探査結果

まとめ

レーダ探査の結果、海保大塚は、現在の最上段とその直下の段は一体の築成であり、それを一段と数えれば、もともと5段の段築成であったことが推定される。南側斜面の下から2段目と3段目の境界面付近に長さ1mほどのものが埋まっていること、南側斜面の2段目と3段目の間に階段らしき構造が埋もれていること、4段目と5段目の境界面の直下に長さ4m以上の埋葬主体らしきものが存在することが推定された。三山塚については、埋葬主体が確認できなかった。

第５表　出土遺物観察表

凡例：寸法の（ ）は現存値、？は推定復元値を示す。

鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡（第３地点）土器観察表

挿図No.	図版No.	遺物No.	トレンチNo.	遺構No.	注記	種別	器種	部位	遺存	寸法 cm 口径	器高	底径	焼成	胎土	色調 外面	色調 内面	特徴 外面	特徴 内面	備考
5	5	1	1	001号	1号80	縄文土器	深鉢	胴部片	小片	－	(3.9)	－	良好	密　礫・砂・白色粒・赤色粒・雲母・骨針を含む	10YR3/1 黒褐	10YR6/4 にぶい黄橙	縦方向のヘラケズリ・工具による２本の沈線文	横方向のヘラミガキ	縄文後期
5	5	2	1	002号	2号9	縄文土器	深鉢	口縁～胴部片	小片	－	(11.6)	－	不良	やや粗　砂・白色粒・赤色粒・雲母・骨針・繊維を含む	5YR3/4 暗赤褐～10YR3/1 黒褐	2.5YR5/8 明赤褐～10YR3/1 黒褐	斜め～横方向の貝殻条痕文	口縁部～体部上半部縦方向のナデ 体部下半部貝殻条痕文	縄文早期条痕文系土器
5	5	3	1	002号	2号2	縄文土器	深鉢	胴部片	小片	－	(3.7)	－	不良	粗　砂・白色粒・赤色粒・雲母・繊維を含む	7.5YR2/2 黒褐	5YR5/8 明赤褐～7.5YR4/3 褐	縦方向・斜め～横方向の貝条痕文 器面剥離が激しい	縦方向の貝殻条痕文	縄文早期条痕文系土器
5	5	4	1	002号	2号1	縄文土器	深鉢	口縁片	小片	－	(2.2)	－	良好	密　砂・白色粒・赤色粒・雲母・骨針を含む	5YR6/6 橙～7.5YR3/1 黒褐	2.5YR5/8 明赤褐	口縁端部ヘラ状工具による斜め方向の押圧痕 口縁部横方向のナデ・竹管等の工具による斜め～横方向の沈線文	器面摩耗により識別不可	
5	5	5	1	003号	3号1	縄文土器	深鉢	胴部片	小片	－	(4.7)	－	良好	密　黒色粒・白色粒・雲母・骨針を含む	5YR4/6 赤褐	5YR4/4 にぶい赤褐	横方向のヘラミガキ→縦方向の工具ナデ	縦方向のヘラミガキ	縄文後期？
5	5	6	1	003号	3号12	縄文土器	深鉢	胴部片	小片	－	(5.3)	－	良好	密　砂・白色粒・赤色粒・雲母・骨針を含む	10YR3/2 黒褐	10YR3/1 黒褐	斜め～横方向のヘラケズリ・単節縄文 LR	縦方向のヘラミガキ	
5	5	7	1	003号	3号12	縄文土器	深鉢	胴部片	小片	－	(4.8)	－	良好	密　砂・黒色粒・白色粒・雲母・骨針を含む	5YR4/6 赤褐	10YR3/1 黒褐	単節縄文 LR を縦方向に施文	縦方向のヘラケズリ・一部に横方向のナデ	
5	5	8	1	004号	本12	縄文土器	深鉢	胴部片	小片	－	(5.1)	－	やや不良	密　砂・黒色粒・白色粒・赤色粒・雲母・骨針・繊維を含む	5YR4/8 赤褐	5YR6/8 橙	斜め～横方向の貝殻条痕文	縦方向の貝殻条痕文	縄文早期条痕文系土器
5	5	9	1	004号	本24	縄文土器	深鉢	口縁片	小片	－	(4.4)	－	良好	密　砂・黒色粒・白色粒・雲母・骨針を含む	7.5YR4/3 褐	7.5YR4/6 褐	口縁端部ヘラケズリ 口縁下部沈線によって凸帯状に区画・区画内に工具による押圧痕 口縁部・胴部横方向のヘラミガキ	横方向のヘラミガキ	縄文後期（加曽利Ｂ式）
5	5	10	1	004号	本11	縄文土器	深鉢	口縁片	小片	－	(4.2)	－	良好・二次焼成？	やや粗　礫・砂・黒色粒・白色粒・雲母・骨針を含む	2.5YR5/8 明赤褐	5YR5/6 明赤褐～10YR4/1 褐灰	口縁端部工具による押圧痕 口縁部横方向に隆帯を貼り付け・均等間隔で押圧痕 口縁下部横方向の沈線・単節縄文 LR 一部、口縁端部胴部中位まで粘土帯を貼り付け 無文帯横方向のナデ	口縁端部横方向のナデ 口縁部横方向の沈線 胴部摩耗気味	縄文後期
5	5	11	1	004号	4号5	縄文土器	深鉢	口縁片	小片	－	(3.1)	－	良好	密　石英・砂・黒色粒・白色粒・赤色粒・雲母・骨針を含む	7.5YR3/1 黒褐～7.5YR4/3 褐	7.5YR5/6 明褐	細かな単節縄文 LR	横方向のヘラミガキ	
5	5	12	4	005号	4トレ1･13一括・16一括	縄文土器	粗製深鉢	口縁～胴部片	小片	－	(17.1)	－	良好	密　砂・黒色粒・白色粒・赤色粒・雲母・骨針を含む	2.5YR4/6 赤褐～2.5YR5/8 明赤褐	2.5YR4/8 赤褐～5YR3/1 黒褐～7.5YR5/4 にぶい褐	口縁端部隆帯貼り付け・指圧痕 口縁部沈線文 頸部～胴部単節縄文 LR →頸部に隆帯貼り付け・指圧痕・隆帯上下を工具ナデ	横方向のヘラミガキ	13と同一個体 縄文後期（加曽利Ｂ式）
5	5	13	4	005号	4トレ1･13一括	縄文土器	粗製深鉢	頸部～胴部片	小片	－	(11.3)	－	良好	密　砂・黒色粒・白色粒・赤色粒・雲母・骨針を含む	2.5YR4/6 赤褐～7.5YR3/1 黒褐	5YR4/6 赤褐～7.5YR5/4 にぶい褐	口縁部沈線文、胴部単節縄文 LR 後に頸部に隆帯を施す　隆帯には指圧痕　隆帯接着後、上下を工具ナデ	横方向のヘラミガキ	12と同一個体 縄文後期（加曽利Ｂ式）
5	5	14	4	005号	4トレ6	縄文土器	粗製深鉢	胴部片	小片	－	(18.7)	－	良好	密　砂・黒色粒・白色粒・赤色粒・雲母・骨針を含む	7.5YR3/2 黒褐～10YR2/1 黒～10YR7/6 明黄褐	10YR2/1 黒～10YR6/4 にぶい黄橙	頸部２本の横方向の沈線・縄文 頸部下部隆帯貼り付け・指圧痕 胴部撚糸文施文後、工具による斜め～横方向の沈線文	横・斜め～横方向のヘラミガキ	縄文後期（加曽利Ｂ式）
6	5	15	4	005号	4トレ7･16一括	縄文土器	粗製深鉢	胴部片	小片	－	(7.0)	－	良好	密　砂・白色粒・赤色粒・雲母・骨針を含む	10YR2/1 黒～10YR3/1 黒褐	10YR3/1 黒褐～10YR5/4 にぶい黄褐	斜め方向の工具ナデ後、工具による横方向の沈線文	縦方向のヘラミガキ	16と同一個体 縄文後期（加曽利Ｂ式）
6	5	16	4	005号	4トレ9	縄文土器	粗製深鉢	口縁片	小片	－	(8.3)	－	良好	密　砂・白色粒・赤色粒・雲母・骨針を含む	5YR3/2 暗赤褐～10YR2/1 黒～10YR5/1 褐灰	5YR3/2 暗赤褐～10YR2/1 黒	工具による横方向の沈線文 無文帯横方向のヘラミガキ	縦・横方向のヘラミガキ	15と同一個体 縄文後期（加曽利Ｂ式）
6	5	17	4	005号	4トレ10･11一括	縄文土器	粗製深鉢	胴部片	小片	－	(10.3)	－	良好	密　砂・白色粒・赤色粒・雲母・骨針を含む	2.5YR4/4 にぶい赤褐～10YR3/1 黒褐	10YR2/1 黒～10YR3/1 黒褐	縦方向のヘラケズリ	縦方向のヘラミガキ	縄文後期（加曽利Ｂ式）

挿図No.	図版No.	遺物No.	トレンチNo.	遺構No.	注記	種別	器種	部位	遺存	寸法 cm 口径	器高	底径	焼成	胎土	色調 外面	内面	特徴 外面	内面	備考
6	6	18	4	005号	4トレ2	縄文土器	粗製深鉢	底部片	小片	－	(5.2)	11.0?	良好	密　礫・砂・黒色粒・白色粒・赤色粒・雲母・骨針を含む	5YR5/6 明赤褐～10YR7/4 にぶい黄橙	10YR8/2 灰白	縦方向のナデ	横方向のナデ	縄文後期 反転復元
6	6	19	1	－	本2	縄文土器	深鉢	口縁～胴部片	小片	－	(6.2)	－	やや不良	密　砂・黒色粒・白色粒・赤色粒・雲母・骨針・繊維を含む	7.5YR7/8 黄橙～10YR5/3 にぶい黄褐	7.5YR6/6 橙～10YR4/1 褐灰	口縁端部工具による押圧痕 胴部横・斜め～横方向の貝殻条痕文	横方向の貝殻条痕文	縄文早期条痕文系土器
6	6	20	1	－	5号2	縄文土器	深鉢	口縁片	小片	－	(4.7)	－	不良	粗　砂・白色粒・赤色粒・雲母・骨針・繊維を含む	7.5YR3/1 黒褐～7.5YR4/4 褐	7.5YR5/6 明褐～10YR3/1 黒褐	横・斜め～横方向の貝殻条痕文	横方向の貝殻条痕文	縄文早期条痕文系土器
6	6	21	1	－	本18	縄文土器	深鉢	胴部片	小片	－	(4.7)	－	やや不良	密　砂・黒色粒・白色粒・赤色粒・雲母・骨針・繊維を含む	10YR6/6 明黄褐	10YR4/1 褐灰	斜め～横方向の貝殻条痕文 器面摩耗気味	斜め～横方向の貝殻条痕文	縄文早期条痕文系土器
6	6	22	1	－	5号3	縄文土器	深鉢	胴部片	小片	－	(3.9)	－	不良	密　石英・砂・黒色粒・白色粒・赤色粒・雲母・骨針・繊維を含む	7.5YR7/4 にぶい橙	10YR8/3 浅黄橙	縦方向の貝殻条痕文	横方向の貝殻条痕文	縄文早期条痕文系土器
6	6	23	1	－	5号1	縄文土器	深鉢	胴部片	小片	－	(3.0)	－	やや不良	かなり密　白色粒・赤色粒・雲母・骨針・繊維を含む	10YR7/6 明黄褐	10YR7/4 にぶい黄橙	斜め～横方向の貝殻条痕文	横方向の貝殻条痕文	縄文早期条痕文系土器
6	6	24	1	－	サブ1一括	縄文土器	深鉢	口縁片	小片	－	(2.8)	－	やや不良・二次焼成？	密　石英・礫・白色粒・雲母・骨針・繊維を含む	2.5YR4/6 赤褐	5YR4/3 にぶい赤褐～10R6/8 赤橙	口縁端部工具による押圧痕 縦方向・斜め～横方向の貝殻条痕文	横方向の指ナデ 一部赤色塗料付着	縄文早期条痕文系土器
6	6	25	1	－	1トレ一括	縄文土器	深鉢	胴部片	小片	－	(6.3)	－	不良	密　砂・白色粒・赤色粒・雲母・骨針・繊維を含む	2.5YR3/3 暗赤褐～2.5YR4/8 赤褐	10YR3/1 黒褐～10YR4/2 灰黄褐	斜め～横方向の貝殻条痕文	斜め～横方向の貝殻条痕文	縄文早期条痕文系土器
6	6	26	1	－	1トレ一括	縄文土器	深鉢	胴部片	小片	－	(2.9)	－	不良	密　砂・白色粒・雲母・骨針・繊維を含む	7.5YR4/1 褐灰～7.5YR6/6 橙	10YR6/4 にぶい黄橙	縦方向の貝殻条痕文	縦・斜め～横方向の貝殻条痕文	縄文早期条痕文系土器
6	6	27	1	－	1トレ一括	縄文土器	深鉢	口縁片	小片	－	(3.6)	－	やや不良	密　砂・黒色粒・白色粒・金雲母を含む	7.5YR3/1 黒褐～7.5YR6/6 橙	10YR6/4 にぶい黄橙～10YR4/1 褐灰	口縁端部横方向のヘラミガキ 口縁部横方向の4本の沈線文・沈線文によって区画された凸部の2･3段目に細かな単節縄文LR 胴部縦方向のヘラミガキ	横方向のヘラミガキ	縄文後期
6	6	28	1	－	1トレ一括	縄文土器	深鉢	胴部片	小片	－	(5.5)	－	やや不良	密　白色粒・雲母を含む	N3 暗灰	N3 暗灰	胴部上側縦に並ぶ2個の円形刺突文 中位に横方向の沈線・沈線以下細かな単節縄文LR 無文帯横方向のヘラミガキ	ヘラミガキ	縄文後期
6	6	29	1	－	5号4	縄文土器	深鉢	胴部片	小片	－	(2.3)	－	やや不良	密　白色粒・赤色粒・雲母・骨針を含む	5YR4/4 にぶい赤褐～10YR3/1 黒褐	5YR4/8 赤褐～10YR3/1 黒褐	斜め～横方向の工具ナデ	横方向の指ナデ	
6	6	30	1	－	本17	縄文土器	深鉢	胴部片	小片	－	(4.0)	－	良好	密　砂・白色粒・赤色粒・雲母・骨針を含む	7.5YR4/2 灰褐	10YR3/1 黒褐	櫛歯状工具による横方向の沈線文施文後、4本1単位の櫛歯状工具による山形状の沈線文	指ナデ	
6	6	31	1	－	本一括	縄文土器	深鉢	口縁片	小片	－	(5.0)	－	良好	密　砂・黒色粒・白色粒・赤色粒・雲母・骨針を含む	10YR4/2 灰黄褐	10YR2/1 黒～10YR4/1 褐灰	まばらな無節縄文R 口縁部横方向のヘラミガキ	横方向のヘラミガキ	
6	6	32	1	－	本一括	縄文土器	深鉢	胴部片	小片	－	(4.2)	－	良好	やや粗　砂・黒色粒・白色粒・赤色粒・雲母・骨針を含む	7.5YR5/4 にぶい褐	10YR7/4 にぶい黄橙	撚糸文	斜め～横方向の工具ナデ	
6	6	33	1	－	1トレ一括	縄文土器	深鉢	底部片	小片	－	(2.7)	9.0?	良好	密　砂・黒色粒・白色粒・赤色粒・雲母・骨針を含む	7.5YR6/6 橙	7.5YR5/3 にぶい褐	横方向のヘラミガキ 底部工具痕	横方向のヘラミガキ 器面剥離気味	
6	6	34	1	－	本一括	縄文土器	深鉢	底部片	小片	－	(4.2)	7.7	良好	やや粗　礫・砂・黒色粒・白色粒・雲母・骨針を含む	5YR6/8 橙～10YR5/2 灰黄褐	5YR5/2 灰褐	横方向の工具ナデ 底部器面剥離	横方向の工具ナデ 見込み部ヘラケズリ・横方向の指ナデ	
6	6	35	1	－	サブ1一括	縄文土器	深鉢	底部片	小片	－	(0.7)	(4.9)	良好	密　砂・黒色粒・白色粒・赤色粒・雲母を含む	5YR4/1 褐灰～N2 黒	10YR2/1 黒～10YR6/4 にぶい黄橙	底部網代痕	ヘラミガキ	
7	6	36	2	－	2トレ9一括	縄文土器	深鉢	胴部片	小片	－	(5.6)	－	不良	粗　石英・砂・黒色粒・白色粒・赤色粒・雲母・骨針・繊維を含む	N2 黒	10YR6/4 にぶい黄橙	貝塔部による斜め～横方向の貝殻条痕文	器面摩耗気味	縄文早期条痕文系土器
7	6	37	2	－	2トレ31	縄文土器	深鉢	胴部片	小片	－	(5.1)	－	やや不良	密　砂・黒色粒・白色粒・雲母・骨針・繊維を含む	5YR4/4 にぶい赤褐～10YR3/1 黒褐	5YR5/6 明赤褐	斜め～横方向の貝殻条痕文	横方向の貝殻条痕文	縄文早期条痕文系土器
7	6	38	2	－	2トレ1一括	縄文土器	深鉢	口縁片	小片	－	(4.4)	－	やや不良	密　礫・砂・白色粒・雲母・骨針を含む	2.5YR5/6 明赤褐	2.5YR4/6 赤褐	口縁上部棒状工具による上下3列の刺突文 口縁下部横方向の3条の沈線文	横・縦方向の工具ナデ	縄文後期

挿図No.	図版No.	遺物No.	トレンチNo.	遺構No.	注記	種別	器種	部位	遺存	寸法 cm 口径	器高	底径	焼成	胎土	色調 外面	内面	特徴 外面	内面	備考
7	6	39	2	－	2 トレ 31	縄文土器	深鉢	口縁片	小片	－	(5.7)	－	良好	密　砂・黒色粒・白色粒・骨針を含む	5YR4/4 にぶい赤褐～7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/1 褐灰～7.5YR5/4 にぶい褐	単節縄文 LR	横方向のヘラミガキ	
7	6	40	2	－	2 トレ 24	縄文土器	深鉢	口縁片	小片	－	(2.0)	－	やや不良	密　黒色粒・白色粒・雲母・骨針を含む	5YR5/4 にぶい赤褐	10YR3/1 黒褐	横方向の２条の沈線文・沈線区画内に隆帯 沈線下部２本の波状文 無文帯横方向のナデ	横方向のヘラミガキ	
7	6	42	3	－	3 トレ１一括	縄文土器	深鉢	胴部片	小片	－	(5.0)	－	良好	密　白色粒・雲母・骨針を含む	5YR5/6 明赤褐～7.5YR3/1 黒褐	10YR5/3 にぶい黄褐	無節縄文 L	縦方向のヘラミガキ	
7	6	43	3	－	3 トレ 4	縄文土器	深鉢	胴部片	小片	－	(2.4)	－	良好	かなり密　黒色粒・白色粒・雲母・骨針を含む	10YR4/1 褐灰	7.5YR7/6 橙	撚糸文を１条のみ施文 斜め～横方向の工具による２本の沈線文・斜め～横方向の貝殻条痕文	横方向のヘラミガキ	
7	6	44	全体一括	－	文－ 14	縄文土器	深鉢	口縁片	小片	－	(6.4)	－	やや不良	やや粗　砂・白色粒・赤色粒・雲母・骨針を含む	10YR4/1 褐灰～10YR7/6 明黄褐	7.5YR6/6 橙	口縁端部ボタン状の突起・楕円状の沈線文・沈線区画内に工具による押圧痕 突起付近に刺突文 体部横方向のヘラミガキ	口縁端部突起物付近に刺突文 口縁端部横方向のナデ 胴部横方向のヘラミガキ	45 と同一個体？ 縄文後期（堀之内式）
7	6	45	全体一括	－	文－ 14	縄文土器	深鉢	口縁片	小片	－	(2.2)	－	やや不良	やや粗　砂・白色粒・赤色粒・雲母・骨針を含む	7.5YR5/4 にぶい褐	7.5YR6/6 橙	口縁端部２条の沈線文・沈線区画内に工具による押圧痕	口縁端部横方向のナデ	44 と同一個体？ 縄文後期（堀之内式）
7	6	46	全体一括	－	文－ 13・文一括	縄文土器	精製深鉢	口縁～胴部片	小片	－	(11.0)	－	良好	密　砂・白色粒・雲母・骨針を含む	7.5YR7/8 黄橙～10YR4/1 褐灰	10YR3/1 黒褐～10YR6/3 にぶい黄橙	口縁部横方向のナデ 口縁下端隆帯・工具による押圧痕 胴部２条の横方向の沈線文・沈線区画内に横方向の単節縄文 LR（上下２か所） 円弧状の２条の沈線文・沈線区画内縦方向の単節縄文 LR 無文帯斜め～横方向のヘラミガキ	口縁部横方向のヘラミガキ 胴部縦方向のヘラミガキ	47 と同一個体？ 縄文後期（加曽利 B 式？）
7	6	47	全体一括	－	文－ 13	縄文土器	精製深鉢	口縁～胴部片	小片	－	(6.8)	－	良好	密　砂・白色粒・雲母・骨針を含む	10YR4/1 褐灰～10YR7/4 にぶい黄橙	10YR3/1 黒褐～10YR6/3 にぶい黄橙	口縁部横方向のナデ 口縁下端隆帯・工具による押圧痕 胴部２条の横方向の沈線文・沈線区画内に横方向の単節縄文 LR 円弧状に２条の沈線文・沈線区画内に縦方向の単節縄文 LR 無文帯斜め～横方向のヘラミガキ 棒状工具による穿孔（径 6mm）	口縁部横方向のヘラミガキ 胴部縦方向のヘラミガキ 棒状工具による穿孔（径 6mm）	46 と同一個体？ 縄文後期（加曽利 B 式？） 胴部の穿孔は先鋭な棒状工具によって内外両面から刺突される
7	6	48	全体一括	－	文－ 16	縄文土器	粗製深鉢	胴部片	小片	－	(10.9)	－	良好	密　礫・砂・黒色粒・白色粒・赤色粒・雲母・骨針を含む	2.5YR2/1 赤黒～5YR4/4 にぶい赤褐	7.5YR3/4 暗褐～10YR3/1 黒褐	ヘラミガキ まばらな無節縄文 L	上部縦方向のヘラミガキ 下部横方向のヘラミガキ	
7	6	49	全体一括	－	文－ 13	縄文土器	粗製深鉢	胴部片	小片	－	(6.7)	－	やや不良	密　黒色粒・白色粒・雲母・骨針を含む	5YR4/6 赤褐	10YR5/3 にぶい黄褐	縦方向のヘラミガキ	縦方向のヘラミガキ	

鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡（第３地点）その他観察表

挿図No.	図版No.	遺物No.	トレンチNo.	遺構No.	注記	種別	寸法 cm 長軸	短軸	高さ	重量 g	材質等	特徴
7	6	41	2	一括	2 トレンチ貝層サンプル	磨石	7.8	4.9	3.7	202.1	結晶質凝灰岩	研磨面が全体に広がる　完形
7	6	50	全体一括	－	文２－２	円筒埴輪	6.2	2.7	1.8	28.3	やや粗い胎土（礫・砂・白色粒・赤色粒・雲母・骨針を含む）	（外面）凸帯貼り付け→指ナデ／（内面）横方向の指ナデ　古墳時代中期末～後期か
7	6	51	全体一括	－	文２－６	石皿	14.5	8.5	8.1	1343.8	軽石凝灰岩（新第三紀）	元の平面形は長辺が外に張る長方形か　両広面に敲打痕による最大の凹部があり、それらの中央付近で直線的に破断する　側面も摩耗して平坦面をなし凹状の敲打圧擦痕が広がる　50% 程度残存

郡本遺跡群（第 25 次）土器観察表

挿図No.	図版No.	遺物No.	トレンチNo.	遺構No.	注記	種別	器種	部位	遺存	寸法 cm 口径	器高	底径	焼成	胎土	色調 外面	内面	特徴 外面	内面	備考
12	5	1	4	009 号	4 トレ 37・43・1 一括	土師器	杯	口縁～底部	ほぼ完形	12.2	3.6	6.7	良好	褐鉄鉱、金雲母、海綿骨針少量含む	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙	体部：ロクロナデ（左回転）→体部下位から底部：回転ヘラケズリ（底から見て時計回り）　底部中央に左回転糸切り痕残る	ロクロナデ　見込み比較的平滑で明瞭	9 世紀中葉

挿図No.	図版No.	遺物No.	トレンチNo.	遺構No.	注記	種別	器種	部位	遺存	寸法 cm 口径	器高	底径	焼成	胎土	色調 外面	色調 内面	特徴 外面	特徴 内面	備考
12	6	2	4	009号	4トレ36・43・1一括	土師器	杯	口縁～底部	1/3	12.9?	4	7.7?	普通	白色微粒多量、褐鉄鉱小粒含む　粗い	7.5YR6/3にぶい褐～7.5YR4/1褐灰	7.5YR6/3にぶい褐～7.5YR4/1褐灰	体部：ロクロナデ　口縁部：やや強くナデ　体部下位から底面：回転ヘラケズリ（底から見て反時計回り）	ロクロナデ	反転復元　9世紀前葉
12	5	3	4	012号	4トレ29	土師器	杯	口縁～底部	3/4以上	14.25	4.5	7.2	普通	白色微粒含む　海綿骨針、褐鉄鉱大粒比較的多く含む	7.5YR5/4にぶい褐～7.5YR7/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	体部：ロクロナデ（凹凸明瞭）→体部下位から底部：回転ヘラケズリ（底から見て反時計回り）	ロクロナデ　見込み比較的平滑で明瞭	9世紀中葉
12	6	4	4	009号	4トレ10	土師器	甕	口縁	小片	22.6?	(4.1)	－	良好	白色微粒、黒色微粒、石英微粒、褐鉄鉱粒を含む　褐鉄鉱大粒、黒色粒微量含む	5YR4/6赤褐～5YR4/3にぶい赤褐	5YR6/6橙	口縁下を強くナデ締め、頸部を布状工具でヨコナデ	頸部：ヘラ状工具による横方向ナデ→頸部から口縁部：ヨコナデ	反転復元
12	6	5	4	012号	4トレ16・18	須恵器	甕	胴部～底部	1/4以下	－	(5.1)	14.5	普通	褐鉄鉱大粒、黒色粒含む　褐鉄鉱少粒、白色微粒多量　海綿骨針少量含む、石英微粒含む	7.5YR4/4褐～7.5YR2/1黒	10YR6/4にぶい黄橙～10YR3/1黒褐	体部下位～底部側面：横から左上がりのヘラケズリ	ヨコナデ（ロクロ？）（凹凸明瞭）	反転復元　千葉産
12	6	6	5	021号	5トレ3	須恵器	杯	口縁～底部	1/3以下	13.7?	4.0	10.7?	良好	白色微粒、黒色粒、海綿骨針少量含む　硬密	2.5Y7/2灰黄	2.5Y6/2灰黄	体部：ロクロナデ→体部下位から底部：回転ヘラケズリ（底から見て時計回り）　暗灰色の火襷あり	ヨコナデ（口縁下部がやや強い）屈曲が明瞭	反転復元　永田不入Ⅲ期（8世紀後半）
12	6	7	5	024号	5トレ2	常滑焼	片口鉢Ⅱ類	口縁	小片	－	(3.5)	－	良好	白色粒、長石含む　焼き締まる	5YR5/4にぶい赤褐	5YR5/4にぶい赤褐	体部ヘラケズリ後、布状工具でナデ　口縁下位を横方向ナデ　口縁は縁帯とし口唇部が上方に伸びる　口縁下位に重ね焼き痕あり、その上位に照りが出る	板状工具でヘラナデ後、布状工具で横方向ナデ	9型式（15世紀前半）
12	7	8	5	一括	5トレ1一括	中世陶器	瓶子	胴部	小片	－	(5.4)	－	良好	白色小粒を含む　やや砂質で焼き締まる	5Y6/2灰オリーブ（施釉部）	2.5Y7/2灰黄（露胎部）	輪積み成型、スタンプで菊花紋を押印、灰釉を施釉する	工具で横方向ナデ	瀬戸・美濃系（古瀬戸中期様式Ⅰ～Ⅱ）
12	7	9	6	010号	6トレ37	弥生土器	壺	口縁	小片	22.4?	(2.1)	－	普通	黒色粒多量含む　長石含む　石英微粒、褐鉄鉱微量含む	7.5YR6/6橙	7.5YR7/6橙	口縁端部を肥厚→端面下稜：縄文原体（無節L）押圧による刻み目状連続刺突文	摩耗	反転復元　弥生後期
12	7	10	6	010号	6トレ4	土師器	甕	口縁	小片	21.2?	(5.9)	－	良好	白色微粒多量含む　褐鉄鉱、黒色粒、海綿骨針含む　石英微粒微量含む	5YR5/6明赤褐	5YR6/6橙	口縁部～胴部上位：ヨコナデ（沈線状の凹部が伴い指頭圧痕が目立つ）→胴部：縦のヘラケズリ	斜め方向ヘラ状工具ナデ→口縁部：ヨコナデ	反転復元　平安
12	7	11	6	010号	6トレ18・36・32一括	土師器	杯	口縁～底部	1/3以下	13.9?	4.2	－	良好	白色微粒含む、褐鉄鉱小粒、黒色微粒少量含む　一か所胎土に10㎜前後の褐鉄鉱の塊を含む	10YR6/4にぶい黄橙	10YR6/6橙	体部：ロクロナデ→体部下位：回転ヘラケズリ（底から見て反時計回り）	ロクロナデ	反転復元　平安
12	7	12	6	010号	6トレ5・6・33	土師器	杯	口縁～底部	1/2以下	13.2?	4.2	－	破片化後の二次焼成あり	黒色微粒多量含む　褐鉄鉱、白色微粒含む　海綿骨針少量含む	7.5YR7/4にぶい橙～7.5YR4/1褐灰	7.5YR7/4にぶい橙～7.5YR5/2灰褐	体部：ロクロナデ→体部下位及び底部：手持ちヘラケズリ（主に底から見て反時計回り）　底部多角形状を呈す	ロクロナデ（凹凸明瞭）	反転復元　平安
12	7	13	6	010号	6トレ3	土師器	杯	口縁～底部	1/3以下	17.6?	6.2	6.7	良好	白色微粒、海綿骨針多量含む　褐鉄鉱含む	5YR明赤褐5/6	5YR橙6/6	底面：回転糸切り（右）→体部：ロクロナデ	ロクロナデ	反転復元　平安
12	7	14	6	010号	6トレ9・32一括	土師器	杯	口縁～胴部	1/4以下	12.0?	(4.2)	－	良好	白色微粒含む、海綿骨針含む　黒色微粒少量含む　小礫、石英微粒僅かに含む　胎土やや粗い	7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR5/4にぶい褐	体部：ロクロナデ→体部下位：横ヘラケズリ（沈線状の凹みが伴う）	ロクロナデ	反転復元　平安
12	7	15	6	010号	6トレ10・30	土師器	内黒椀	胴部～底部	底部1/2以上	－	(4.3)	6.0?	良好	白色微粒多量含む　褐鉄鉱少量含む　海綿骨針微量含む	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR1.7/1黒	ロクロナデ→底面：回転ヘラケズリ→高台貼り付け	密なヘラミガキ→黒色処理	反転復元　平安
12	5	16	6	010号	6トレ20・34・1一括	灰釉陶器	椀	口縁～底部	1/2以下	15.3?	(5.5)	6.7?	破片化後の二次焼成の可能性あり	小礫僅かに含む　黒色微粒少量含む　焼き締まる	5Y7/1灰白	7.5Y5/3灰オリーブ～2.5Y6/2灰黄	体部：ロクロナデ（口縁端部はゆるい玉縁状）→底面：回転ヘラケズリ（反時計回り）→高台貼付　高台に釉薬が付着しており、重ね焼き痕と思われる	ロクロナデ　釉薬（飛沫状）　重ね焼きを示す釉薬のかかっていない円形範囲が中心にある　使用のためか見込みは平滑	一部反転復元　猿投K90（9世紀後半）
12	7	17	6	010号	6トレ15・25・29	須恵器	置きカマド	上部	1/4以下	19.9?	(10.8)	－	酸化炎焼成　破片化後の二次焼成あり	白色微粒多量　小礫、石英小粒、褐鉄鉱含む　焼き締まる　胎土やや粗い	7.5YR7/3にぶい橙～5YR5/6明赤褐	7.5YR5/6明褐	甑状部品を輪積み成形→平行タタキ？（受け口側面と端面に一部遺存）→体部：受け口に向け縦ヘラケズリ→甑底部（頂部）縁辺を強くヨコナデ→庇部貼り付け（縁辺のナデ跡のみ遺存）→ナデ	受け口：横ヘラケズリ→以下：ヘラ状工具で斜め方向ナデ	17～19は同一個体と見られる　千葉産　平安
12	7	18	6	010号	6トレ16	須恵器	置きカマド	焚き口部分（庇）	1/4以下	－	(4.2)	－	酸化炎焼成　二次焼成あり　煤付着	白色微粒多量　小礫、石英微粒大粒含む　海綿骨針微量含む　褐鉄鉱少量含む　焼き締まる　胎土やや粗い	5YR2/4極暗褐～5YR5/6明赤褐	7.5YR4/6褐	甑状部品を輪積み成形→胴部：縦の平行タタキメ（4本/2cm）→ヘラ状工具で焚き口部を切開→粘土紐を鍔状に貼り付ける	斜めのヘラ状工具ナデ	17～19は同一個体と見られる　千葉産　平安

挿図 No.	図版 No.	遺物 No.	トレンチ No.	遺構 No.	注記	種別	器種	部位	遺存	寸法 cm			焼成	胎土	色調		特徴		備考
										口径	器高	底径			外面	内面	外面	内面	
12	7	19	6	010 号	6 トレ 24・1 一括	須恵器	置きカマド	カマド胴部	1/4 以下	—	(17.3)	—	酸化炎焼成 二次焼成あり	白色微粒多量　褐鉄鉱含む、小石含む　海綿骨針少量含む　石英微粒含む　焼き締まる　胎土やや粗い	7.5YR7/3 にぶい橙～5YR5/6 明赤褐	7.5YR4/6 褐	甑状部品を輪積み成形→縦の平行タタキメ（4 本 /2cm）→角状突起貼り付け→工具ナデ・縦ヘラケズリ（下から上）	斜めのヘラ状工具ナデ	17 ～ 19 は同一個体と見られる　千葉産　平安
12	7	20	6	010 号	6 トレ 38・ 一括	須恵器	置きカマド	焚き口部分	1/4 以下	—	(16.1)	—	酸化炎焼成 二次焼成あり	白色微粒多量　海綿骨針少量、石英微粒微量含む　褐鉄鉱大粒多量含む　小礫が混入する胎土やや粗い	7.5YR7/3 にぶい橙～7.5YR6/1 褐灰	7.5YR7/6 橙	甑状部品を輪積み成形（粘土紐幅 2cm 以下）→接地側に向け縦ヘラケズリ（輪積み痕が顕著に残る）→接地側開口部：ヨコナデ→口縁から体部にかけてヘラ状工具で切開し焚き口部を作る　→焚き口部から 2cm 程度離し並行して粘土紐を貼り付け庇とする（焚き口側に沈線が認められ、接合位置のガイドラインと思われる）（庇状部は接地部を巻くように貼り付けられる）	胴部：斜めのヘラ状工具ナデ→接地部：ヨコナデ	17 ～ 19 とは別個体か 千葉産　平安
13	5	21	7	001 号	7 トレ 16	弥生土器	壺	頸部～胴部	3/4 以上	—	(14.8)	—	二次焼成あり	黒色微粒多量含む　褐鉄鉱、白色微粒、海綿骨針含む	10YR7/6 明黄褐	7.5YR6/6 橙	肩部：無節（もしくは単節）L・R・R・L・L・R 横回転の羽状縄文→縄文横帯の上下をヘラ描き沈線で画す→赤彩・横ヘラミガキ（二次焼成による被熱のため器面が荒れ、赤彩もほとんど遺存しない）（器形の歪みもこれに伴うものか）	胴部：横工具ナデ（工具幅 4.5cm 以上）	弥生後期後半～弥生終末期
13	7	22	7	一括	7 トレ 15	弥生土器	壺	胴部	1/4 以下	—	(4.7)		良好	白色微粒、黒色粒多く含む　海綿骨針含む	5YR6/6 橙	5YR5/6 明赤褐	肩部：単節 RL・LR・RL・LR 横回転による羽状縄文を無節 RS 字状回転結節文（自縄）2 個 1 対で画す→文様外：横ヘラミガキ（赤彩伴う可能性あり）	横工具ナデ（工具幅 1.7cm 以上）	弥生後期後半
13	7	23	7	一括	7 トレ S 一括	弥生土器	甕	胴部	小片	—	(3.4)	—	使用による二次焼成あり	白色微粒含む	5YR6/6 橙	2.5YR5/8 明赤褐	口頸部下端接合痕を段状に残す→横工具ナデ→段部：植物茎状工具押圧による円形刺突文	横工具ナデ→横ヘラミガキ	弥生後期後半～弥生終末期
13	7	24	7	014 号	7 トレ 11	須恵器	甕（転用硯）	胴部	小片	—	(5.5)	—	良好	黒色微粒、白色微粒含む　褐鉄鉱少量含む	2.5Y7/1 灰白	2.5Y6/1 灰黄	平行タタキメ（8 本 /2cm）	ヘラケズリ 器面は平滑で硯として使用された可能性がある	奈良・平安　東海産
13	7	26	10	006 号	10 トレ 10	弥生土器	椀	口縁	1/4 以下	—	(4.0)	—	良好	黒色微粒、海面骨針含む　白色微粒少量含む	7.5YR6/6 橙	5YR5/6 明赤褐	肥厚部：単節 LR・RL・LR・RL 横回転による羽状縄文→直径 4 ～ 6mm に横長楕円形孔が穿たれる→竹管状工具による刺突の伴う円形浮文（径 1.2cm）→赤彩・横ヘラミガキ	赤彩・ヘラミガキ（遺存不良）	弥生後期
13	7	27	10	006 号	10 トレ 6	弥生土器	広口壺	胴部	小片	—	(4.8)	—	普通	褐鉄鉱含む　胎土やや粗い	7.5YR5/1 褐灰～7.5YR5/6 明褐	7.5YR5/6 明褐	胴部下位接合痕を段状に残す→工具ナデ→ヘラミガキ（一部）	横工具ナデ（工具幅 1.4cm 以上）	弥生後期～終末期
13	7	28	10	006 号	10 トレ 9	土師器	高杯	脚部	小片	—	(5.2)	—	二次焼成あり	黒色微粒多量含む　白色微粒、石英微粒、海綿骨針含む	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙	赤彩（遺存不良）・縦ヘラミガキ　二次焼成の被熱のため器面が荒れている	脚部：ヘラケズリもしくは工具ナデ（放射状の工具痕あり）	弥生終末期～古墳前期
13	7	29	11	008 号	11 トレ 11	土師器	甕	口縁	小片	17.6?	(4.8)	—	使用による二次焼成あり 黒変	白色微粒多く含む　褐鉄鉱、海綿骨針含む	5YR3/1 黒褐	5YR4/6 赤褐	口縁部：ヨコナデ→縦主体のハケメ（12 本 /cm）	口縁部：ヨコナデ（頸部屈曲は鋭い）→横ハケメ（14 本 /cm）以下：横主体の工具ナデ	古墳前期
13	7	30	11	一括	11 トレ 9	須恵器	甕（転用硯）	胴部	小片	—	(8.5)	—	良好	黒色粒多量含む　硬密	5Y6/1 灰	5Y7/1 灰白	平行タタキメ（5 本 /2cm）	同心円状の当て具痕あり 硯として二次使用されたと見られ平滑に摩耗する	奈良・平安　東海産

郡本遺跡群（第 25 次）その他観察表

挿図 No.	図版 No.	遺物 No.	トレンチ No.	遺構 No.	注記	種別	寸法 cm			重量 g	材質等	特徴
							長軸	短軸	高さ			
13	7	25	7	一括	7 トレ 8	磨石	7.9	5.9	4.1	201.6	チャート	摩耗により明確な平坦面が 4 面形成されている　長軸一端に敲打痕が認められる
13	7	31	11	一括	11 トレ一括	椀形鉄滓	4.7	3.8	1.2	29.9	鉄滓	磁着なし　緩いカーブを示す底面は砂粒を巻き込み平滑である

五霊台遺跡（第３地点）・椎津城跡　土器観察表

挿図No.	図版No.	遺物No.	トレンチNo.	遺構No.	注記	種別	器種	部位	遺存	寸法　cm			焼成	胎土	色調		特徴		備考
										口径	器高	底径			外面	内面	外面	内面	
17	7	2	3	一括	3 トレ 1 一括、 4 トレ 2S 一括	古式土師器	結合器台	受部	1/2 以下	－	(1.4)	－	普通	白色微粒、海綿骨針、褐鉄鉱少量含む　風化した雲母、石英微粒多く含む	7.5YR3/1 黒褐～ 7.5YR5/3 にぶい褐	10YR7/6 明黄褐～ 2.5YR6/4 にぶい橙（赤彩）	斜めの工具ナデ→赤彩・ヘラミガキ（遺存不良）	ハケメ（7 本 /cm）→外縁に接するように受部を接合（剥離痕のみ）→横工具ナデ→赤彩	古墳前期
17	7	3	3	一括	3 トレ 1 一括	古式土師器	壺	口縁	小片	16.5?	(2.6)	－	普通	小礫僅かに含む　焼き締まる	7.5YR5/6 明褐	5YR5/6 明赤褐	口縁を肥厚し下端接合痕を段状に残す→赤彩？（遺存不良）・横主体のヘラミガキ	赤彩→横主体のヘラミガキ	古墳前期
17	7	4	3	一括	3 トレ 1 一括	土師器	甕	口縁	小片	17.4?	(2.9)	－	使用による二次焼成あり 黒変	精緻　1 ～ 2mm 大小礫、海綿骨針、石英微粒、白色微粒少量含む	10YR3/3 暗褐～ 7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR6/4 にぶい橙	ヨコナデ（端部はよわい）　接合痕残る　使用による被熱で黒変する	工具ナデ→ヨコナデ	奈良・平安
17	7	5	4	一括	4 トレ 1 一括	弥生土器	壺	胴部	小片	－	(1.8)	－	普通	海綿骨針ごく僅かに含む　黒色微粒含む　風化した雲母多量含む 硬質で焼き締まる	10YR4/1 褐灰～ 5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	ヘラミガキ→単節 LR 縄文斜行帯による連続山形文を沈線で区画する→文様間：赤彩	工具ナデ	弥生後期
17	7	6	4	一括	4 トレ 2S 一括	古式土師器	S 字状口縁台付甕	口縁	小片	15.6?	(2.0)	－	良好	白色粒、長石含む　焼き締まる　風化し雲母粒を多量に含む　非在地的	10YR5/1 褐灰	10YR4/1 褐灰	ヨコナデ　頸部屈曲に、棒状工具による沈線状のナデを加える	板状工具でヘラナデ→布状工具でヨコナデ	古墳前期
17	7	8	5	001 号	5 トレ 19	須恵器	杯	口縁～ 底部	1/2 以下	13.6?	(3.4)	10.6?	良好	黒色微粒、海綿骨針小量含む　白色微粒含む	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄	ロクロナデ→底面：回転ヘラケズリ（底から見て反時計回り） 暗灰色の火襷あり	ロクロナデ（口縁下部と屈曲部が強い）	永田・不入 III 期（奈良）
17	7	9	5	001 号	5 トレ 14	土師器	甑	底部	小片	－	(3.9)	13.3?	普通	褐鉄鉱、1 ～ 2mm ほどの小礫、海綿骨針少量含む　焼き締まる	5YR5/6 明赤褐	5YR4/6 赤褐	剥落が進む　底部付近：横ヘラケズリ→焼成前穿孔（直径 9mm）	ナデ・工具ナデ→底部：横ヘラケズリ（底面開放の調整か）	奈良・平安
17	7	10	5	001 号	5 トレ 13	土師器	甕	口縁～ 胴部	1/4 以下	24.5?	(16.9)	－	二次焼成あり	やや砂質　1 ～ 10mm 程度までの小礫を多く含む　石英、もしくは 1mm 以下のガラス粒を比較的多く含む　黒色粒子、海綿骨針、シャモット状の暗赤褐色土を含む　黒色粒子を含む	5YR6/6 橙	10YR3/2 黒褐	口縁部から胴部：縦ヘラケズリ→口縁部：ヨコナデ 使用による被熱で黒変する	工具ナデ（工具幅 1.3cm 以上）→口縁部：ヨコナデ	奈良・平安
17	7	11	5	002 号	5 トレ 17	土師器	甕	口縁	小片	18.4?	(2.7)	－	良好	黒色粒多量含む　白色微粒、海綿骨針、石英微粒ごく僅かに含む	5YR5/4 にぶい赤褐	5YR4/8 赤褐	縦の工具ナデ→口縁部：ヨコナデ（端部が玉縁状に突出する）	工具ナデ 焼成前に付着した粘土粒が認められる	奈良・平安
17	8	12	5	002 号	5 トレ 10	土師器	鉢	口縁	小片	17.0?	(5.0)	－	良好	黒色微粒多量含む　褐鉄鉱含む	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR5/4 にぶい褐	ナデ→口縁部：ヨコナデ	ナデ→口縁部：ヨコナデ→体部：横ヘラミガキ（一部）	奈良・平安
17	8	13	5	002 号	5 トレ 15	土師器	鉢	口縁～ 胴部	1/4 以下	15.5?	(5.3)	－	二次焼成あり 黒変	白色微粒多く含む、海綿骨針少量含む、小礫僅かに含む　焼き締まる	7.5YR5/3 にぶい褐	7.5YR3/1 黒褐	ナデ→口縁部：ヨコナデ→以下：ヘラミガキ状の横工具ナデ	ナデ→口縁部：ヨコナデ	奈良・平安
17	8	14	5	一括	5 トレ 1 一括	古式土師器	壺 （高杯？）	口縁（脚裾部？）	小片	14.0?	(2.9)	－	良好	白色微粒多量　1 ～ 3 mm の小礫含む	2.5YR5/8 明赤褐	5YR4/8 赤褐	口縁を肥厚し下端接合痕を低い段状に残す→ヨコナデ 以下：縦工具ナデ→赤彩・縦ヘラミガキ	工具ナデ→ヨコナデ→赤彩	高杯脚端部の可能性あり 弥生終末期～古墳前期
17	8	15	5	一括	5 トレ 1 一括	土師器	甕	口縁	1/4 以下	21.8?	(3.2)	－	使用による二次焼成あり 黒変　赤変	白色微粒、褐色粒子含むシャモット状の暗赤褐色粒、1 ～ 3mm の小礫多量含む　胎土混入物多い	5YR3/1 黒褐	5YR5/6 明赤褐	口縁部：ヨコナデ（指頭圧痕の凹凸が残る）（端部丸みをもつ） 二次焼成のため表面が黒変し薄く炭化物が付着する	ヨコナデ　使用による被熱で赤変する	奈良・平安
17	8	16	5	一括	5 トレ 1 一括	土師器	甕	口縁	小片	－	(2.9)	－	普通	白色微粒、黒色微粒少量石英小粒含む　胎土やや粗い	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	横工具ナデ（接合痕が残る）→ヨコナデ	横工具ナデ→ヨコナデ	古墳時代？
17	8	18	6	004 号	6 トレ 6	古式土師器	壺	口縁	小片	13.6?	(5.1)	－	普通	黒色微粒、小礫含む　海綿骨針微量含む	5YR5/8 明赤褐	5YR5/8 明赤褐	口縁を肥厚し下端接合痕を低い段状に残す→縦主体のハケメ（5 本 /5mm）→赤彩・ヘラミガキ（肥厚部：横、以下：縦主体）	赤彩・横ヘラミガキ	弥生終末期～古墳前期
17	8	19	6	一括	6 トレ 1 一括	古式土師器	壺	口縁～ 胴部	1/8 以下	6.4?	(3.2)	－	普通	精良　黒色微粒少量含む	5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	密な横ヘラミガキ（赤彩が伴う可能性あり）	ヘラミガキ（口縁部：横、以下：放射状）	弥生終末期～古墳前期
17	8	20	6	一括	6 トレ 1 一括	弥生土器	壺	胴部	小片	－	(3.0)	－	普通	白色微粒少量含む　小礫含む	2.5YR4/8 赤褐	10YR5/4 にぶい黄褐	櫛状工具による波状文 4 帯以上（工具幅 3mm、条線 2 本）（1 帯目と 2 帯目の間に沈線走り、4 帯目は 1 本描き）→赤彩	横ヘラミガキ	弥生終末期？
17	8	21	7	005 号	7 トレ 3 一括	弥生土器	壺	胴部	小片	－	(2.1)	－	二次焼成の可能性あり	白色微粒・石英小粒僅かに含む	5YR4/6 赤褐	5YR5/4 にぶい赤褐	単節 LR 縄文斜行帯とヘラ描き沈線による菱形連繋文か　文様間赤彩の可能性あり	摩耗が進む	弥生後期

五霊台遺跡（第３地点）・椎津城跡　その他観察表

挿図No.	図版No.	遺物No.	トレンチNo.	遺構No.	注記	種別	寸法cm 長軸	寸法cm 短軸	寸法cm 高さ	重量g	その他	材質等	特徴
17	7	1	1	整地面	1 トレ 2	円筒埴輪	9.3	－	－	136.6	直径 20cm？ 厚さ 1.5cm 前後	4mm 以下の砂粒（長石・石英等）が混じる胎土	焼成時黒斑は認められない （外面）断続的な横ハケメ（もしくは工具ナデ）（5 本 /cm、工具幅 2.7cm 以上）→円形透孔（直径 4cm 前後か）／（内面）縦のヘラケズリ状工具ナデ
17	7	7	4	一括	4 トレ一括	磨石	4.9	3.6	2.1	43.0	－	珪質砂岩	圧擦に用いられ全体的に摩耗する　平坦面が側縁・両広面に認められる
17	8	17	5	一括	5 トレ一括	紡錘車	5.7	3.2	2.0	31.5	孔径 1.0cm	土器と同様　1mm 以下の砂粒（長石・石英等）が混じる　比較的精緻	4 割ほど遺存　断面台形を呈する　ヘラケズリ→ヘラミガキ

能満分区遺跡群（上小貝塚地区第５地点）　土器観察表

挿図No.	図版No.	遺物No.	トレンチNo.	遺構No.	注記	種別	器種	部位	遺存	寸法 cm 口径	寸法 cm 器高	寸法 cm 底径	焼成	胎土	色調 外面	色調 内面	特徴 外面	特徴 内面	備考
22	8	1	1	－	1 トレ 89・一括	縄文土器	深鉢	口縁～胴部	1/4 以下	20.7？	（11.1）	－	使用による二次焼成あり 黒変	白色微粒多く含む、小礫、黒色微粒含む	10YR3/2 黒褐	10YR4/6 褐	懸垂状の蛇行沈線を棒状工具により刻む→充填縄文（無節 L・単節 LR 縦主体）→磨り消し	横方向ナデ→横方向ミガキ	称名寺式
22	8	2	1	－	1 トレ 73・91・105	縄文土器	浅鉢	口縁	1/3	26.6？	（8.1）	－	普通	シャモット状の暗赤褐色粒、黒色粒多く含む 海綿骨針含む	2.5YR5/6 明赤褐	5YR5/6 明赤褐	横工具ナデ→横主体のミガキ	口縁端部を肥厚し内側に屈曲させる→横工具ナデ→横ミガキ	縄文後期
22	8	3	1	－	1 トレ 79	縄文土器	浅鉢	口縁	小片	－	（7.9）	－	良好	白色微粒・黒色微粒少量混じる　銀雲母ごく微量に混じる	10YR6/4 鈍い黄橙	10YR5/2 灰黄褐	単節 RL 横回転→内弯する口縁下に隆帯 2 本を貼り付ける→隆帯及び区画沿いにミガキ	横ミガキ	加曽利 E 式
22	5	4	1	－	1 トレ 43	縄文土器	台付鉢	脚部	1/3	－	（6.8）	8.0？	良好	白色微粒、黒色微粒含む	10YR3/1 黒褐	10YR5/4 鈍い黄褐	単節 RL 横回転→ヘラ描き沈線による曲線的区画→棒状工具による刺突文列→磨り消し	工具ナデ・ミガキ	加曽利 B 式
22	8	5	1	－	1 トレ 7	縄文土器	深鉢	口縁	小片	－	（7.3）	－	使用による二次焼成あり 黒変	石英微粒、白色微粒多く含む	5YR4/6 赤褐	7.5YR4/3 褐色	口縁部直下：隆帯貼り付け→単節 RL 縦回転 使用による二次焼成で全体的に黒変する	横工具ナデ→ミガキ 破片下部被熱により荒れる	加曽利 E 式
22	8	6	1	－	1 トレ 96	縄文土器	注口土器？	把手	小片	－	（3.9）	－	普通	小礫含む	5YR6/6 橙	7.5YR4/3 褐	長方形板状部を把手として貼り付ける→単節 LR 縦回転	指頭圧痕（接合痕残る）	縄文時代
22	8	7	1	－	1 トレ一括	弥生土器	甕	胴部	小片	－	（2.5）	－	使用による二次焼成あり 黒変	銀雲母ごくわずかに含む	10YR4/1 褐灰	10YR3/1 黒褐	単節 LR（もしくは無節 L）縦回転 被熱により黒変する	工具ナデ	弥生後期？
22	8	8	1	－	1 トレ一括	弥生土器	ミニチュア壺	胴部	小片	－	（2.4）	－	普通	比較的精緻　スコリア状橙色微粒が混じる	10YR6/4 にぶい黄橙	10YR6/4 にぶい黄橙	櫛描直線文（横→縦）（3 本 /4mm）	ナデ・工具ナデ	弥生後期～終末期
22	8	10	2	－	2 トレ 4	縄文土器	深鉢	口縁	小片	－	（4.4）	－	普通	比較的精緻　白色微粒、海綿骨針含む	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	円形凹部の伴う突起貼り付け→口縁部：沈線文	ミガキ	堀之内式
22	8	11	2	－	2 トレ一括	縄文土器	深鉢	口縁	小片	－	（4.0）	－	使用による二次焼成あり 黒変	比較的精緻　白色微粒含む	10YR5/2 灰黄褐	7.5YR6/4 にぶい橙	端面に沈線状凹部の伴う環状突起を口縁に形成→沈線文→単節 RL 縦回転 使用による被熱で黒変し、口縁部に炭化物が付着する	ミガキ	堀之内式
22	8	12	3	006 号	3 トレ 13	縄文土器	深鉢	胴部	小片	－	（6.0）	－	使用による二次焼成あり	比較的精緻　微砂粒（石英・長石・角閃石等）が混じる	7.5YR6/6 橙～10YR5/2 灰黄褐	10YR6/3 にぶい黄橙	単節 RL 縦回転	横ミガキ	縄文時代
22	8	13	3	006 号	3 トレ 16	縄文土器	深鉢	胴部	小片	－	（3.7）	－	普通	比較的精緻　微砂粒（石英・長石・角閃石等）・海面骨針が混じる	5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙	単節 LR 縦回転→縦傾向の沈線（U 字状）→磨り消し	摩滅が進む	加曽利 E 式
22	8	14	3	006 号	3 トレ一括 A	縄文土器	蓋？	－	小片		（2.6）		普通	海綿骨針ごく少量含む	7.5YR4/2 灰褐	7.5YR4/2 灰褐	円孔（径 4mm 前後）→ミガキ	ミガキ	把手の一部か　縄文時代
22	8	15	6	009 号	6 トレ 28	弥生土器	壺	底部	1/2	－	（2.0）	5.7	普通	比較的精緻　2mm 以下のスコリア状橙色粒が目立つ	2.5YR4/8 赤褐	10YR5/4 にぶい褐	ナデ→赤彩・ヘラミガキ	ナデ・工具ナデ（工具幅 1.2cm 以上）	弥生終末期
22	8	16	4	009 号	4 トレ 4・5・6・7・8・10・11	古式土師器	壺	底部	1/4	－	（4.9）	丸底？	普通	精緻　2mm 以下のスコリア状橙色粒が目立つ	2.5YR5/6 明赤褐	10YR7/4 にぶい黄橙	工具ナデ→胴部：赤彩・縦ヘラミガキ（不明瞭）	底部：指頭圧痕 横主体の工具ナデ	弥生終末期～古墳前期
22	8	17	6	009 号	6 トレ 12・18・一括 A	古式土師器	鉢	口縁	小片	18.3？	6.7	6.4？	普通	比較的精緻　微砂粒・スコリア状橙色微粒が混じる	2.5YR4/6 赤褐	2.5YR5/6 明赤褐	横工具ナデ→口縁部：ヨコナデ→赤彩・縦ヘラミガキ（当たりが強く単位が明瞭）	赤彩・斜め～横の密なヘラミガキ	弥生終末期～古墳前期
22	8	18	6	009 号	6 トレ一括 A	弥生土器	甕	口縁	小片	－	（3.2）	－	使用による二次焼成あり 黒変・煤付着	黒色微粒、小礫含む　海綿骨針微量含む	10YR2/1 黒	10YR6/4 にぶい黄橙	ナデ・工具ナデ→口縁端部：内外 2 方向の棒状工具押圧による連続刺突文（交互押捺）（上方が強） 使用による被熱で黒変する	横工具ナデ	弥生後期

挿図No.	図版No.	遺物No.	トレンチNo.	遺構No.	注記	種別	器種	部位	遺存	寸法 cm			焼成	胎土	色調		特徴		備考
										口径	器高	底径			外面	内面	外面	内面	
22	8	19	6	009号	6トレ一括	弥生土器	壺	胴部	小片	－	(3.4)	－	良好	砂質　1mm以下の砂粒（石英・長石・角閃石等）が多く混じる	5YR2/1黒褐～5YR4/4にぶい赤褐	7.5YR4/2灰褐	単節RL斜行帯による山形状文をヘラ描き沈線で区画する→文様外：赤彩・ヘラミガキ	剥落が著しい	弥生後期
22	8	21	4	－	4トレ一括	弥生土器	壺	胴部	1/2以下	－	(3.6)	－	良好	黒色粒含む　白色微粒多量に含む　粗い	2.5YR4/4にぶい赤褐～7.5YR6/4にぶい橙	7.5YR6/4にぶい橙	無節RS字状回転結節文（自縄）2個1対以上→以下：赤彩・横ヘラミガキ	ナデ・工具ナデ	弥生後期後半
22	8	22	6	－	6トレ33・一括A	縄文土器	深鉢	口縁	小片	－	(6.8)	－	使用による二次焼成あり黒変	白色微粒、海綿骨針含むローム粒含む	5YR5/3にぶい褐	5YR5/3にぶい褐	口縁端部を肥厚し外稜に指頭押圧を連続して加える→以下：縦横の沈線文	密な横ミガキ	縄文時代
22	8	23	7	－	7トレ6・一括	縄文土器	深鉢	胴部～底部	1/4以下	－	(14.2)	5.4	使用による二次焼成あり黒変	白色微粒僅かに含む、銀雲母含む	7.5YR7/6橙	10YR7/3にぶい黄橙	単節LR縦回転→底面・底部付近：縦主体のミガキ使用による被熱で黒変する	使用による被熱で黒変し摩滅する	縄文時代
22	8	24	9	－	9トレ4	縄文土器	深鉢	胴部	小片	－	(8.6)	－	使用による二次焼成あり黒変　赤変	比較的精緻　風化雲母微粒がやや目立つ	7.5YR4/2灰褐	7.5YR5/3にぶい褐	櫛状工具（11本/1.9cm）による縦の波状文全体的に黒変する	縦ミガキ全体的に摩滅する	縄文時代
22	8	25	10	－	10トレ一括	弥生土器	甕	胴部	小片	－	(5.3)	－	破片化後の二次焼成あり黒変	黒色微粒ごく僅かに含む	7.5YR5/4にぶい褐	7.5YR6/4にぶい橙	横主体の工具ナデ口頸部下端接合痕を低い段状に残す→段部：棒状工具押圧による連続刺突文	横工具ナデ→横ヘラミガキ（口縁寄りほど密）	弥生後期
22	8	26	全体一括	－	全体一括	縄文土器	深鉢	口縁	1/4以下	23.0?	(6.7)	－	使用による二次焼成あり黒変	シャモット状の暗赤褐色粒多く含む、白色微粒少量含む	5YR4/2灰褐	5YR4/2灰褐	口縁を肥厚し横走隆帯・突起を貼り付ける→凸部：単節RL横回転→凹部：横沈線文・磨り消し使用による被熱で全体的に黒変する	やや疎らな横ミガキ	安行式

能満分区遺跡群（上小貝塚地区第5地点）その他観察表

挿図No.	図版No.	遺物No.	トレンチNo.	遺構No.	注記	種別	寸法cm			重量g	その他	材質等	特徴
							長軸	短軸	高さ				
22	8	9	1	－	1トレ151	剥片	3.0	2.1	0.6	3.6	－	黒曜石	一広面は礫面と見られる　反対広面は長軸方向の剥離痕が認められるが側縁に調整は加えられていない
22	8	20	6	009号	6トレ20	ガラス小玉	0.5	0.42	0.41	0.1218	孔径1.5～2mm	カリガラス（コバルト着色）（肉眼観察による）	紺色透明　引き伸ばし法による　孔軸方向に対して上下端面が直角でなく若干傾く　円管径が若干楕円形に歪む
22	8	27	全体一括	－	全体一括	礫石器	5.2	3.3	1.9	29.2	－	古期砂岩	縁辺が蛤刃状に薄くなる礫石器の一部　側縁・両広面に敲打圧擦痕が認められ部分的に平滑に摩滅する
22	8	28	全体一括	試掘	3トレ試掘	石皿	7.2	5.8	5.2	206	－	安山岩	直径1.5cm程度の摺り鉢状の敲打痕が並ぶ　本来の両広面が使用により深く摩滅した結果、中心部で折損したように見受けられる

南岩崎遺跡群（寺後地区）土器観察表

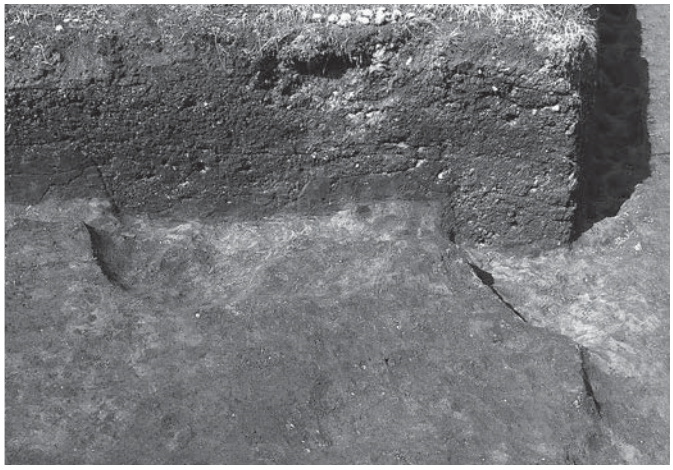
挿図No.	図版No.	遺物No.	トレンチNo.	遺構No.	注記	種別	器種	部位	遺存	寸法 cm			焼成	胎土	色調		特徴		備考
										口径	器高	底径			外面	内面	外面	内面	
24	8	1	1	－	1トレ2	古式土師器	甕	胴部	小片	－	(3.4)	－	使用による二次焼成あり黒変	比較的精緻　黒色粒少量、赤褐粒微量含む	7.5YR4/2灰褐	2.5YR6/6橙	ハケメ（10本/cm）	工具ナデ	草刈式？
24	8	2	1	－	1トレ1一括	古式土師器	甕	胴部	小片	－	(1.6)	－	普通	比較的精緻　白色粒微量、黒色粒少量含む	5YR6/6橙	5YR7/6橙	ハケメ（5本/5mm）	工具ナデ	草刈式？
24	8	3	5	－	5トレ1一括	古式土師器	甕	胴部	小片	－	(3.9)	－	使用による二次焼成あり黒変　煤付着	比較的精緻　黒色粒少量、白色粒・赤褐粒微量含む	2.5YR3/1暗赤灰	7.5YR7/6橙	ハケメ（7本/cm）	工具ナデ→ヘラミガキ？	草刈式？

鬼子母神貝塚　調査前全景

鬼子母神貝塚　2トレンチ（西から）

鬼子母神貝塚　4トレンチ（南から）

鬼子母神貝塚　1トレンチ　002号（東から）


鬼子母神貝塚　1トレンチ　003・004号（南から）

鬼子母神貝塚　1トレンチ完掘状況（北東から）

郡本遺跡群　調査前全景（南から）

郡本遺跡群　5トレンチ（南から）

郡本遺跡群　6トレンチ010号内土器集中部検出状況（北から）

郡本遺跡群　7トレンチ（南から）

郡本遺跡群　9トレンチ（北東から）

郡本遺跡群　10トレンチ（北から）

五霊台遺跡　調査前全景（西から）

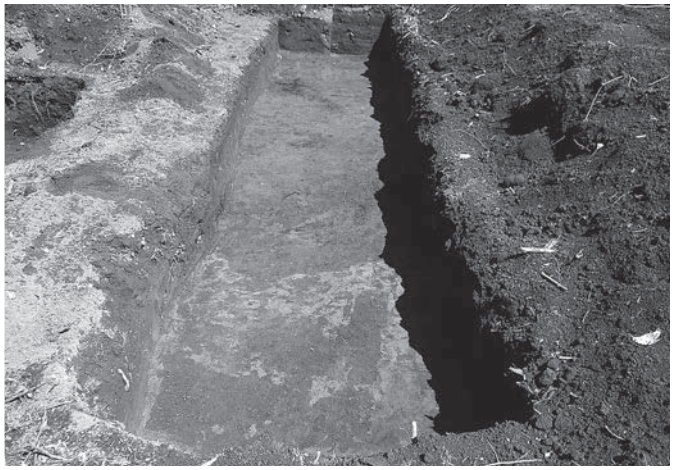
五霊台遺跡　1トレンチ（東から）

五霊台遺跡　5トレンチ（西から）

五霊台遺跡　6トレンチ（西から）

祭り野遺跡　調査前全景（南から）

祭り野遺跡　6トレンチ　SI001検出状況（南西から）


祭り野遺跡　13トレンチ　SI002検出状況（南西から）

祭り野遺跡　27トレンチ　SI005検出状況（南西から）

能満分区遺跡群　調査前全景（西から）

能満分区遺跡群　1トレンチ（南西から）

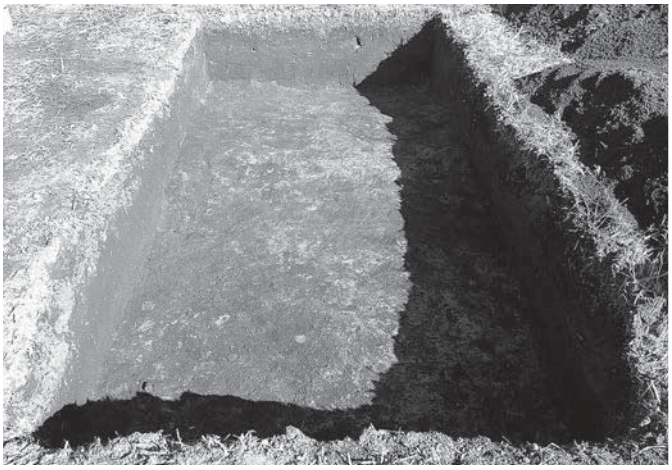
能満分区遺跡群　3トレンチ（西から）

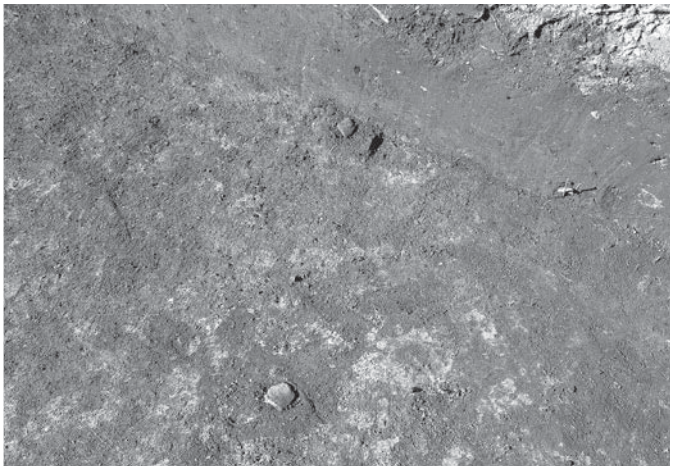
能満分区遺跡群　4トレンチ（北から）

能満分区遺跡群　６トレンチ（東から）

能満分区遺跡群　８トレンチ（南から）

南岩崎遺跡群　調査前全景（北東から）


南岩崎遺跡群　１トレンチ（南から）


南岩崎遺跡群　１トレンチ遺物出土状況（北東から）

南岩崎遺跡群　３トレンチ（南から）

南岩崎遺跡群　３トレンチ断面（西から）

南岩崎遺跡群　４トレンチ（南から）

郡本遺跡群（第25次）−1

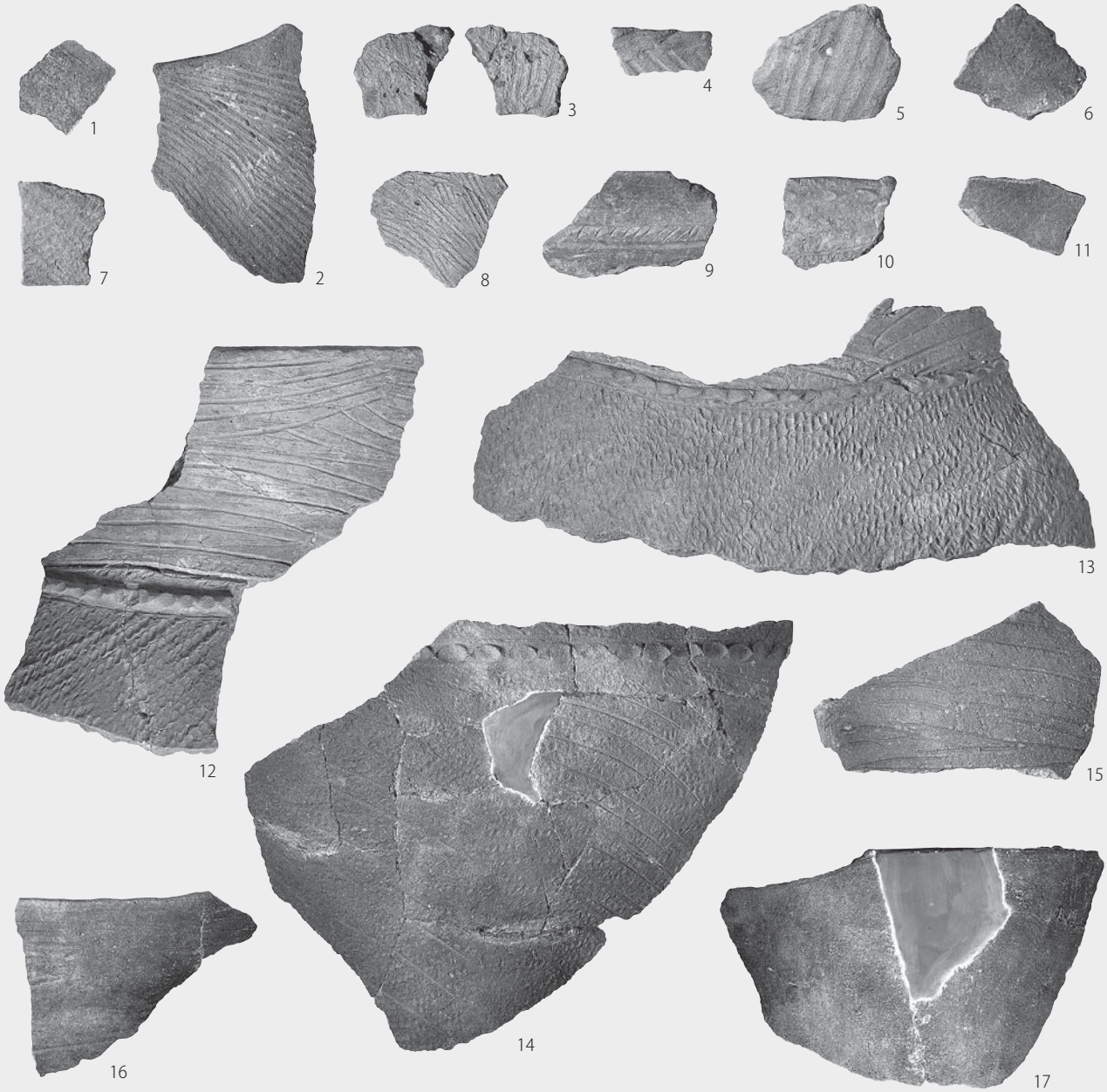
郡本遺跡群（第25次）−3

能満分区遺跡群−4

郡本遺跡群（第25次）−16

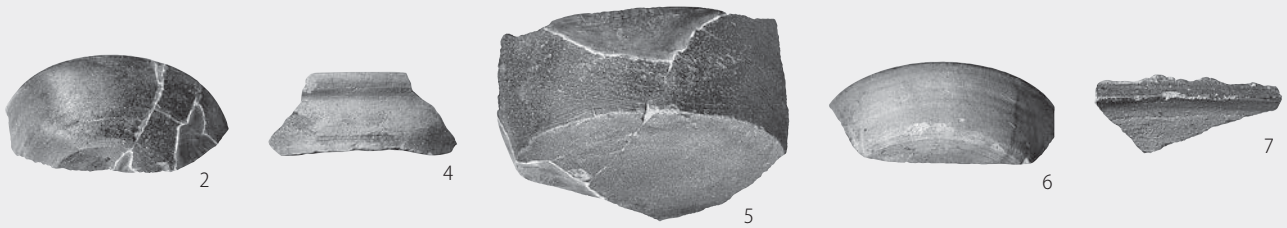
郡本遺跡群（第25次）−21

鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡（第 3 地点）

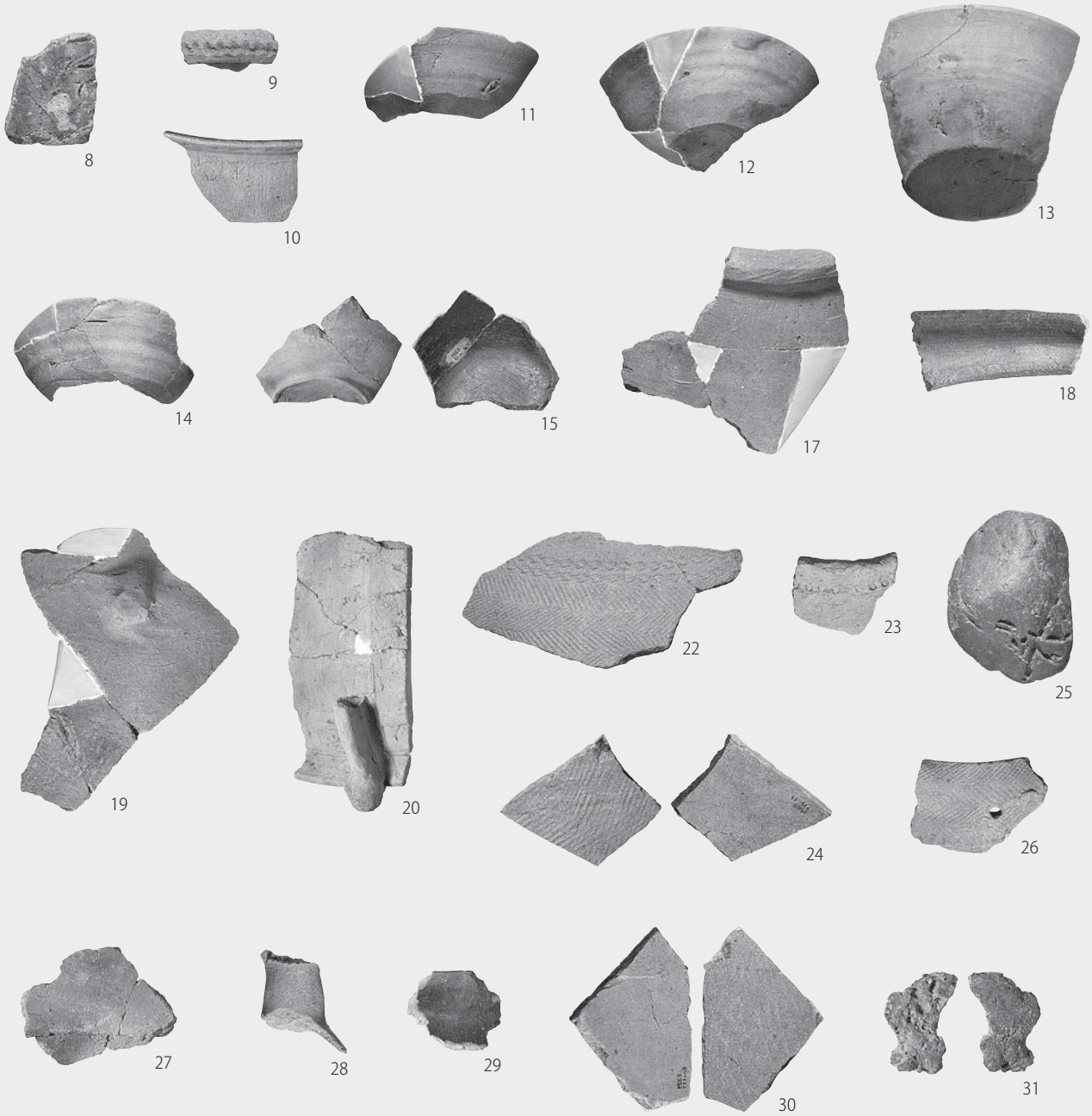


鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡（第 3 地点）

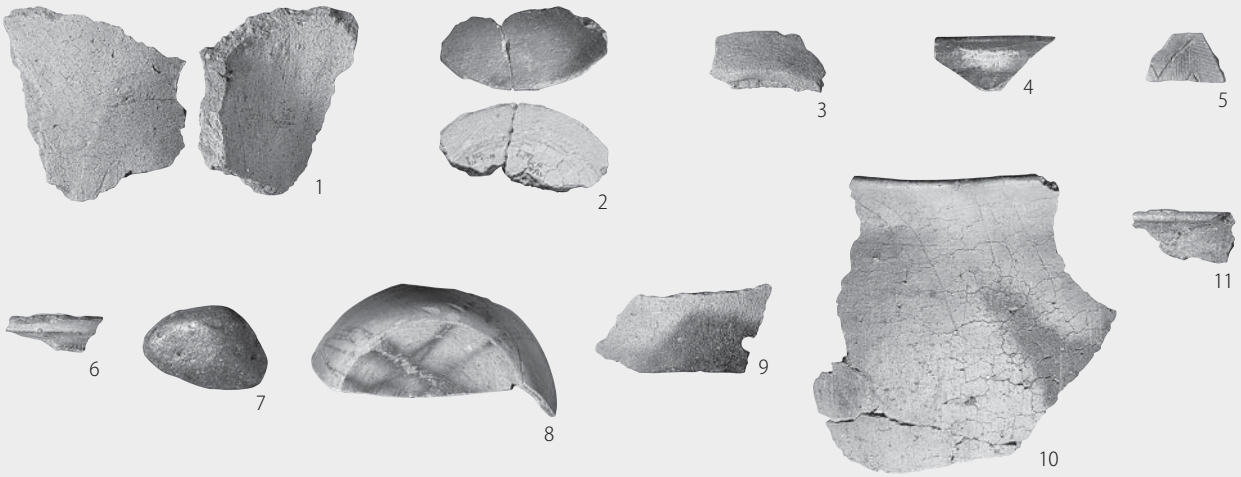
郡本遺跡群（第 25 次）



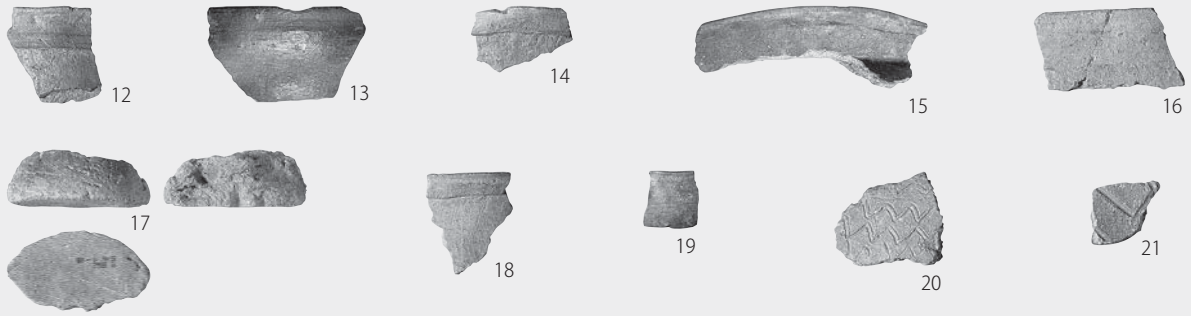
郡本遺跡群（第 25 次）



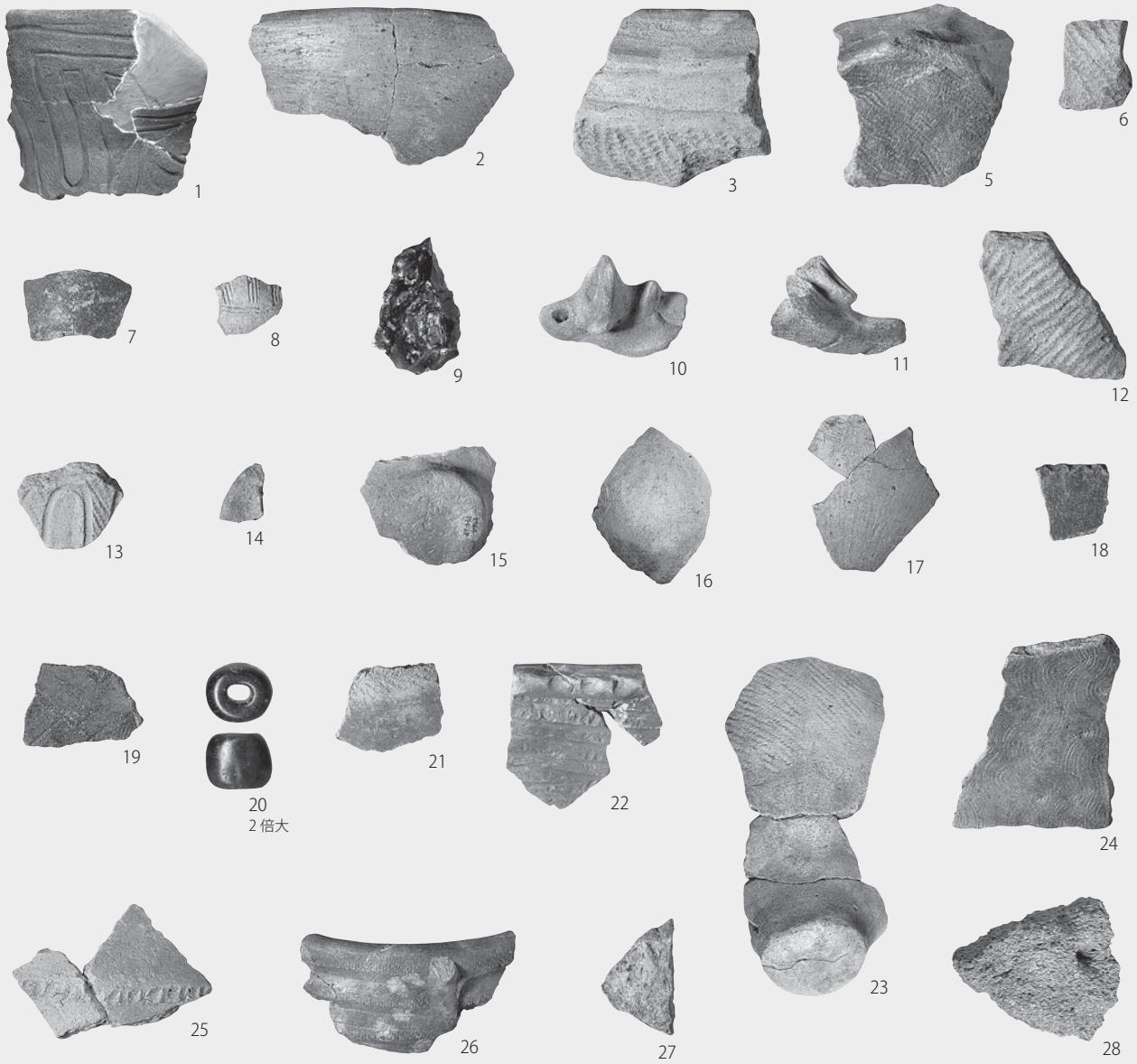
五霊台遺跡（第 3 地点）・椎津城跡



五霊台遺跡（第 3 地点）・椎津城跡



能満分区遺跡群（上小貝塚地区第 5 地点）



南岩崎遺跡群（寺後地区）

報　告　書　抄　録

ふりがな	へいせい30ねんどいちはらしないいせきはっくつちょうさほうこく
書　名	平成30年度市原市内遺跡発掘調査報告
副書名	鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡（第3地点）、郡本遺跡群（第25次）、五霊台遺跡（第3地点）・椎津城跡、祭り野遺跡（第3地点）、能満分区遺跡群（上小貝塚地区第5地点）、南岩崎遺跡群（寺後地区）、海保供養塚群・海保大塚遺跡（第3地点）（重要遺跡確認調査）
巻　次	
シリーズ名	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書
シリーズ番号	第46集
編著者名	小橋健司・中野喬介・齊木　誠・小川浩一・上奈穂美・吉村藤子
編集機関	市原市教育委員会（市原市埋蔵文化財調査センター）
所在地	〒290-0011　千葉県市原市能満1489番地　TEL 0436（41）9000
発行年月日	2019年（平成31年）3月22日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
きしぼじんかいづか・あねさきだいいせき 鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡 （だい3ちてん） （第3地点）	ちばけんいちはらしあねさきあざだいのひがし 千葉県市原市姉崎字台ノ東 2443番5	12219	978 330	35° 28′ 24″	140° 03′ 11″	20170901 ～ 20170915	19.25㎡/168.71㎡ （確認調査） 32㎡ （本調査）	個人住宅建設
こおりもといせきぐん（だい25じ） 郡本遺跡群（第25次）	ちばけんいちはらしふじい 千葉県市原市藤井1丁目 68番地の一部・70番地	12219	793	35° 30′ 30″	140° 07′ 21″	20180115 ～ 20180201	126㎡/1,259㎡ （確認調査）	宅地造成
ごりょうだいいせき（だい3ちてん）・ 五霊台遺跡（第3地点）・ しいづじょうあと 椎津城跡	ちばけんいちはらししいづあざごりょうだい 千葉県市原市椎津字五霊台 652番7	12219	308 316	35° 28′ 13″	140° 02′ 11″	20180702 ～ 20180713	33㎡/330㎡ （確認調査） 2㎡ （本調査）	個人住宅建設
まつりのいせき（だい3ちてん） 祭り野遺跡（第3地点）	ちばけんいちはらしうるいどあざまつりの 千葉県市原市潤井戸字祭り野 2277番7	12219	828	35° 30′ 07″	140° 09′ 57″	20180827 ～ 20180919	119.76㎡/1,198.5㎡ （確認調査）	太陽光発電所 変電設備設置
のうまんぶんくいせきぐん 能満分区遺跡群 （かみこかいづかちくだい5ちてん） （上小貝塚地区第5地点）	ちばけんいちはらしのうまんあざかみこかいづか 千葉県市原市能満字上小貝塚 1926番4の一部	12219	780	35° 30′ 06″	140° 08′ 44″	20181001 ～ 20181019	48㎡/479.56㎡ （確認調査）	個人住宅建設
みなみいわさきいせきぐん（てらのちちく） 南岩崎遺跡群（寺後地区）	ちばけんいちはらしうまたてあざてらのち 千葉県市原市馬立字寺後 113番の一部	12219	128	35° 24′ 54″	140° 07′ 01″	20181112 ～ 20181121	46㎡/458.91㎡ （確認調査）	個人住宅建設
かいほくようづかぐん・かいほおおつかいせき 海保供養塚群・海保大塚遺跡 （だい3ちてん） （第3地点）	ちばけんいちはらしかいほあざおおつか 千葉県市原市海保字大塚 1581番ほか	12219	357 1083	35° 28′ 20″	140° 04′ 06″	20180224 ～ 20180225	230㎡ （物理探査）	遺跡整備

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡 （第3地点）	包蔵地、集落跡、貝塚	縄文時代、中世	縄文時代早期炉穴1基、縄文時代後期土坑3基・貝層、中世土坑墓1基	縄文土器・石器・獣骨、古墳時代円筒埴輪、中世人骨	鬼子母神貝塚東端部の貝層を検出した。
郡本遺跡群（第25次）	包蔵地、集落跡、官衙跡、生産遺跡	縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世	縄文時代陥し穴1基、弥生時代後期竪穴建物跡3棟、古墳時代竪穴建物跡5棟・土坑1基、奈良時代土坑4基、奈良・平安時代土坑1基、平安時代竪穴建物跡7棟、中世地下式坑2基・溝状遺構1条	弥生土器、古墳時代土師器、奈良・平安時代土師器・須恵器、平安時代灰釉陶器	稲荷台遺跡の北方に位置する地点の調査で奈良・平安時代の遺構群の分布を確認した。
五霊台遺跡（第3地点）・ 椎津城跡	包蔵地、集落跡、城跡	縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良・平安時代、中世	弥生時代終末期竪穴建物跡1棟、古墳時代竪穴建物跡1棟、奈良・平安時代竪穴建物跡2棟、中世以前ピット1基、中世地山整形2箇所・土坑1基	縄文土器・石器、弥生土器、古墳時代土師器・円筒埴輪、奈良・平安時代土師器・須恵器、中世陶器	椎津城跡に伴うと見られる中世の地山整形を確認した。
祭り野遺跡（第3地点）	包蔵地、集落跡	縄文時代、弥生時代、古墳時代	縄文時代土坑1基、弥生時代終末期竪穴建物跡2棟・土坑1基、古墳時代前期竪穴建物跡2棟	弥生終末期土器、古墳前期土師器	弥生時代終末期から古墳時代前期の竪穴建物跡群を検出した。
能満分区遺跡群 （上小貝塚地区第5地点）	包蔵地、集落跡、貝塚	縄文時代、弥生時代	縄文時代小竪穴状遺構2基、弥生時代終末期竪穴建物跡1棟、中世地下式坑1基	縄文土器・石器、弥生後期土器・ガラス小玉	縄文時代の遺物包含層と弥生時代終末期の竪穴建物跡を検出した。
南岩崎遺跡群（寺後地区）	包蔵地、古墳、集落跡	弥生時代、古墳時代	弥生時代終末期竪穴建物跡1棟	弥生土器、古墳前期土師器	弥生時代終末期の竪穴建物跡を検出した。
海保供養塚群・海保大塚遺跡 （第3地点）	包蔵地、塚	古墳時代	古墳時代円墳2基	－	地中レーダ探査の結果、海保大塚古墳墳頂部に埋葬施設と見られる反応が確認された。

要　約

今年度は、市内に所在する6遺跡について発掘調査を行った。このうちの4遺跡に昨年度調査分の2遺跡と物理探査の成果を加えて、7遺跡を報告した。鬼子母神貝塚・姉崎台遺跡（第3地点）は貝層に掘り込まれた中世人骨を伴う土坑墓のほか、縄文後期の遺構群を検出した。郡本遺跡群（第25次）は、稲荷台遺跡北方に位置する地点の調査で奈良・平安時代の遺構群の分布を確認した。五霊台遺跡（第3地点）・椎津城跡は城郭に関連する可能性のある地山整形痕のほか古代の竪穴建物跡等を検出した。祭り野遺跡（第3地点）は弥生終末期から古墳前期にかけての集落跡を検出した。能満分区遺跡群（上小貝塚地区第5地点）は平成7年度報告地区から続くと見られる縄文時代遺物包含層を検出し、弥生後期竪穴建物跡などを確認した。南岩崎遺跡群（寺後地区）は弥生終末期竪穴建物跡を検出し、集落跡の広がりを確認した。海保供養塚群・海保大塚遺跡（第3地点）は平成29年度確認調査に続いて物理探査を行い、海保大塚頂部に埋葬施設の反応が確認された。

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第46集

平成30年度 市原市内遺跡発掘調査報告

平成31年3月22日　発行

編　　集　　市原市埋蔵文化財調査センター
千葉県市原市能満1489
TEL 0436（41）9000

発　　行　　市原市教育委員会
千葉県市原市国分寺台中央1−1−1
TEL 0436（22）1111

印　　刷　　株式会社　弘　文　社
千葉県市川市市川南2−7−2
TEL 047（324）5977